

名越ヶ谷遺跡 (No.231)

大町四丁目 1858 - 4

例 言

1. 本報は鎌倉市大町四丁目1858-4地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人専用住宅に係る建築範囲約10、50㎡を対象とし、平成18年5月1日から平成18年6月7日にかけて実施した。
3. 現地での調査体制は以下の通り。

担当者	伊丹まどか
調査員	宇都洋平・本城裕
作業員	河原龍雄・中須洋二・永井隆三郎(社) 鎌倉市シルバー人材センター
4. 本報作成は以下の分担で行った。

遺構図版作成	田畑衣理・渡辺美佐子
遺物実測	田畑衣理・渡辺美佐子
遺物図版作成	田畑衣理・渡辺美佐子
観察表	田畑衣理
遺構写真	宇都洋平・鍛冶屋勝二
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	田畑衣理
執筆・編集	松吉大樹(歴史的環境) 伊丹まどか
5. 出土品等発掘調査資料は、鎌倉市教育委員会が管理している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は次のとおりである。

遺構全測図	: 1 / 60	個別遺構図	: 1 / 40	実測遺物図	: 1 / 3	銭	: 1 / 1
-------	----------	-------	----------	-------	---------	---	---------

なお各挿図にはスケールを表示してある。
7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察表および、実測できなかった遺物の破片数は表にまとめて掲載した。本文中では数字のみ「例：かわらけ4」と個体数を表示した。
8. 出土した遺物及び、調査資料は鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査及び報告書作成に関して馬淵和雄氏よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。

目次

本文目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	145
1. 歴史的環境 (図1)	
2. 遺跡位置とグリッド配置図 (図2)	
3. 堆積土層 (図3)	
第二章 検出した遺構と遺物	151
第1面の遺構と遺物 (図4・図5)	
第2面の遺構と遺物 (図6)	
第3面の遺構と遺物 (図7・図8)	
第4面の遺構と遺物 (図9)	
第5面の遺構と遺物 (図10)	
第6面の遺構と遺物 (図11)	
第7面・第8面の遺構と遺物 (図12)	
第三章 まとめ	165
遺構計測表	
出土遺物観察表	
出土遺物破片数表	

挿図目次

図1 調査地点と周辺遺跡	144	図8 第3面(個別遺構図・出土遺物)	158
図2 遺跡位置図・国土座標とグリッド配置図...	148	図9 第4面(全測図・個別遺構図・出土遺物)...	160
図3 調査区堆積土層図	149	図10 第5面(全測図・個別遺構図・出土遺物)...	161
図4 第1面(全測図・個別遺構図)	151	図11 第6面(全測図・出土遺物)	162
図5 第1面(遺構・面上・構成土出土遺物)	152	図12 第7面・第8面確認トレンチ(全測図).....	163
図6 第2面(全測図・個別遺構図・出土遺物)...	155	図13 廃土山・表採出土遺物	164
図7 第3面(全測図・個別遺構図・遺構48・ 遺構49出土遺物)	156		

図版目次

図版1	172	第4面遺構54・55・56・77・78(西から)	
第1面全景(北から)		第4面遺構74(西から)	
第1面調査区南端部遺構群		第5面全景(北から)	
第2面全景(遺構41完掘後 北から)		図版4	175
図版2	173	第6面全景(北から)	
第2面遺構37(東から)		第6面遺構118礎板検出状況(南から)	
第3面全景(南から)		第6面青白磁蓋出土状況(西から)	
第3面全景(北から)		調査区東壁土層堆積状況	
第3面遺構49(西から)		図版5	176
図版3	174	図版6	177
第4面全景(南から)			



○名越ヶ谷遺跡 (No.231)

1. 大町四丁目1858番4地点 (本調査地点)
2. 大町三丁目1367番4地点 玉林1986『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 (以下、市緊急報告書)2』鎌倉市教育委員会 (以下、省略)
3. 大町四丁目1880番6外地点 田代ほか1995『市緊急報告書11-1』
4. 大町三丁目1217番1地点 菊川1995『市緊急報告書11-1』
5. 大町四丁目1736番2外地点 田代ほか1998『市緊急報告書14-1』
6. 大町四丁目1888番地点 汐見ほか2000『市緊急報告書16-2』
7. 大町三丁目1826番9地点 手塚ほか2002『市緊急報告書18-2』
8. 大町三丁目2356番3地点 宮田ほか2001『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』名越ヶ谷発掘調査団・宮田事務所
9. 大町三丁目2356番11地点 宮田2003『市緊急報告書19』
10. 大町三丁目2356番10地点 福田2003『市緊急報告書19』
11. 大町七丁目1615番8地点 森2004『市緊急報告書20-1』
12. 大町四丁目1901番16外地点 宮田2003『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書—医療法人財団額田記念会 老健ぬかだ建設に伴う調査—』名越ヶ谷遺跡発掘調査団・(有)博通
13. 大町六丁目1494番1外地点 (宗室2002年2月調査・未報告)
14. 大町六丁目1708番4地点 汐見ほか2004『市緊急報告書20-2』
15. 大町四丁目2395番2の一部外地点 滝沢ほか2006『市緊急報告書22-1』
16. 大町三丁目1364番1の一部他地点 宮田ほか2004『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』(有)博通

17. 大町四丁目2406番1地点 (田代2005年7月調査・未報告)
18. 大町四丁目1888番の一部地点 山口2012『市緊急報告書22-2』
19. 大町三丁目1230番4外地点 (森2006年1月調査・未報告)
20. 大町三丁目2353番2外地点 (宇都2007年12月調査・未報告)
21. 大町六丁目1708番23外地点 (森2010年5月調査・未報告)
22. 大町三丁目2354番1地点 (福田2011年7月調査・未報告)
23. 大町四丁目1884番14地点 (山口2012年9月調査・未報告)
24. 大町六丁目1506番11地点 (押木2013年4月調査・未報告)

○米町遺跡 (No.245)

25. 大町二丁目2411番2地点 福田1989『市緊急報告書5』
26. 大町二丁目2338番1地点 宮田1999『米町遺跡発掘調査報告書—大町二丁目2338番1地点—』米町遺跡発掘調査団・宮田事務所
27. 大町二丁目2404番の一部地点 福田2000『市緊急報告書16-2』

○名越山王堂跡 (No.234)

28. 大町三丁目1340番外地点 齊木1990『名越・山王堂跡発掘調査報告書—電通鎌倉研修所改築に伴う中世寺院跡の発掘調査報告—』山王堂跡発掘調査団
29. 大町三丁目1362番1地点 原2013『市緊急報告書29-1』

○大町釈迦堂口遺跡 (No.235)

30. 大町六丁目1442番4外 永田史ほか2009『大町釈迦堂口遺跡発掘調査報告書』

図1 調査地点と周辺遺跡

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

1. 歴史的環境 (図1)

本調査地点は妙法寺の北東側、釈迦堂切通しへ向かう道筋にあり、「松葉ヶ谷」と「花ヶ谷」の間に位置する。現在の住居表示は「大町」となっているが、中世以来の広義的な地域名称としては「名越」に含まれる。調査地点の遺跡名称「名越ヶ谷」については、『新編相模国風土記稿』に「東方名越町より東南北に亘りて総名とす」とあり、「松葉ヶ谷」や「山王ヶ谷」、また「六坊ヶ谷」や「花ヶ谷」などを含む谷戸群を総じて「名越ヶ谷」と称することに由来している。

先述したが、当調査地点は中世以来の名称では「名越」に位置する。「名越」は『吾妻鏡』建久三年(1192)七月十八日条の、北条政子が産所として「名越御館浜御所」に赴いた記事をはじめとして散見され、北条時政は比企能員を名越自亭に招き、仁田忠常・天野遠景に暗殺させ、同邸にて恩賞を与えた(註1)。また「遠州(北条時政)名越亭」で源実朝の元服の儀が行われるなど、北条氏にとって重要な邸宅が存在していたことが伺われる(註2)。この館は北条時政・義時・朝時と相伝され、名越氏を称した朝時の子孫らに伝えられた。浜に近く後方に山を負っているとする記述や(註3)、比企ヶ谷山から見て將軍御所と南北の方角に当たるなど(註4)、場所の特定が叶いそうな記事も見られるが、その具体的な場所については未だ明らかにはされていない。北条義時は「名越山」に山荘をもっており、將軍実朝の和歌会が行われている(註5)。「名越山」は安国論寺や妙法寺の背後から名越切通に連なる山で、頂上は切通付近と考えられ、当調査地点も名越山の西端の麓に位置している。『新編相模国風土記稿』「大町村」には「村東にあり、山頂に登れば南に三浦郡の海浜、西に由比ヶ浜、霊山ヶ崎等を望み、遠く富岳に対して最勝景なり」とある。中世以来名越地域における重要な山であったと考えられよう。名越には、問注所執事三善康信(善信)亭に文庫があったとされ、三善亭が焼失した際、その後面の山際に構えた文庫も焼亡している(註6)。また康信の子孫である町野康俊・康持の屋敷や武田入道、備前三郎長頼などの御家人が邸宅を有していたことが見られ(註7)、北条氏のみならず多くの人家が立ち並んだ地域であったと推定される。

当調査地点は「松葉ヶ谷」と「花ヶ谷」の間に位置している。「松葉ヶ谷」は、現在の大町・材木座の安国論寺・長勝寺・妙法寺のある谷名で『新編相模国風土記稿』によれば、名越ヶ谷内の支谷とする。建長五年に日蓮が鎌倉で最初に構えた草庵(法花堂・本圀寺)の場所として知られ、安国論寺・長勝寺・妙法寺ともに本国寺旧跡であるとの伝えが残っている(『新編相模国風土記稿』など)。室町期に日澄が撰したと伝える「日蓮聖人註画讃」には「同(建長五)年為諫国主、速自房州移于鎌倉名越松葉谷、栖小庵」とあり、日蓮の当地に於ける足跡が知れるが(註8)、延徳五年(1493)四月廿日付の「結城政朝安堵状」には「名越谷松葉谷法花堂屋地事」とあり、松葉谷法花堂屋地が退転し、鷲宮分と称していたのを結城政朝が正行院に法花堂本国寺屋地として宛行っている(註9)。これらの史料を鑑みると、名越松葉ヶ谷の名称が室町期には定着していたと考えられよう。江戸後期のものと伝える「西七月一六日京都本圀寺役僧宛松葉ヶ谷覚書」には「一唯今松葉ヶ谷と申候ハ妙法寺・安国寺之間山畑を申候、然共、往古ニハ自是南東近辺を惣而名越松葉ヶ谷と申候様勘へ見申候、北東之山間を蛇ヶ谷と申、北之山間を花ヶ谷と申候、(中略)惣而松葉ヶ谷と申候儀分明ニ御座候」とあり(註10)、「松葉ヶ谷」周辺の状況が詳しく記されている。『新編相模国風土記稿』は、最光寺(現横須賀市野比)や、安穩寺(現横須賀市芦名)もかつて松葉ヶ谷にあったと伝える。正応五年(1292)九月上旬の奥付をもつ「聖教題未詳奥書」に「於南部州

扶桑相州鎌倉松山草庵書写之」とある(註11)。「松山草庵」が「松葉ヶ谷」の古称または別称であるかは未詳だが、一応の可能性を指摘しここに挙げる。

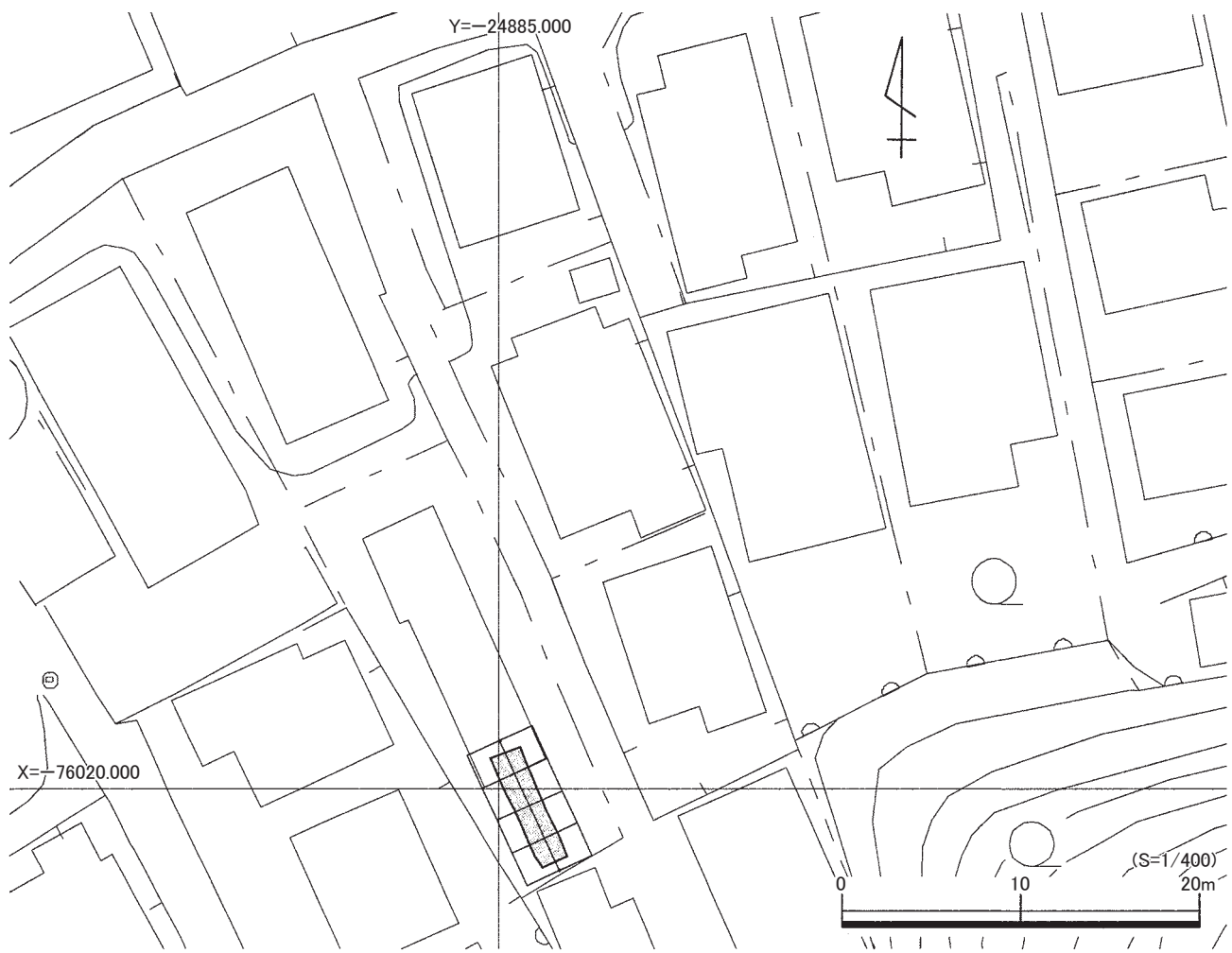
「花ヶ谷」は「松葉ヶ谷」に隣接し、妙法寺の背後にあたる。『新編相模国風土記稿』によると、かつてこの地に足利直冬の菩提寺である慈恩寺(廃寺)があり、境内に数百種の草花が植えられ、人々が遊覧してその花壇を賞賛したことからその名が付けられたと伝える。慈恩寺は白華山と号し、寺名は直冬の法名慈恩寺殿玉溪道昭に由来する。開山は桂堂聞公で、開創年代については未詳。「殿中以下年中行事」によると、毎年正月十六日に住僧が関東公方のもとに参上している。寺の様相は、寺主永貞が応永廿五年(1418)に刻んだ詩板によると(「慈恩寺詩板」伝宗庵旧蔵)、海浜に近く、谷は深く梨・李など多数の花木・奇石・美泉があり、仏殿が軒を連ね、丘上に七層の塔があったらしい。しかし、万里集九の『梅花無尽蔵』に「脚倦不登慈恩塔婆之旧礎」とあることから、文明十八年(1486)頃までには、寺は廃寺となり、塔の礎石のみが残すという状況だったようである。時期は遡るが、元亨三年(1323)に執り行われた北条貞時十三年忌供養に際して、当寺の僧衆五人が参列しているのが見れるが(註12)、この慈恩寺が当寺または前身の寺であったかについては未詳。また、永徳三年(1383)四月十一日付の「関東公方足利氏満御教書写」には、「慈恩寺領武蔵国太田庄花積郷内御厩瀬渡并船事」とあるが(註13)、これについても花ヶ谷の慈恩寺領であるかは不明である。また「花ヶ谷」には慈恩寺意外にも寺が存在していた可能性がある。「鶴岡八幡宮寺供僧次第」には、鶴岡二十五坊の一つ宝蔵坊(海光院)の供僧紹賢が、嘉慶三年(1389)二月に「名越花谷」にあった「西門寺」の別当に任じられたとあり(註14)、また他に木足(東)寺(目足寺・無垢息寺)という禅寺が存在していたが、文安三年(1446)年に円覚寺正統院領内瓜ヶ谷口山上の昭西堂跡の地に移ったとされる(註15)。

当調査区の周辺には妙法寺・安国論寺・大宝寺などの寺院があるが、「名越」には現在は廃寺となった、または移転した寺院の存在を史料から見る事ができる。貞永二年五月七日付の「瑜祇経金剛夜叉口決奥書」には「名越西廟堂」の名が見え(註16)、嘉禎三年六月廿二日付の「秘蔵記奥書」には「相州鎌倉名越於蓮花寺午時書了」とある(註17)。他にも「相州鎌倉名越参東陽寺」(註18)、「相州鎌倉名越郷善導寺」(註19)、「名越善勝寺」(註20)、「名越竹鼻清凉寺」(註21)、「名越保寿寺」(註22)、「名越长福寺」(註23)など枚挙に暇がない。

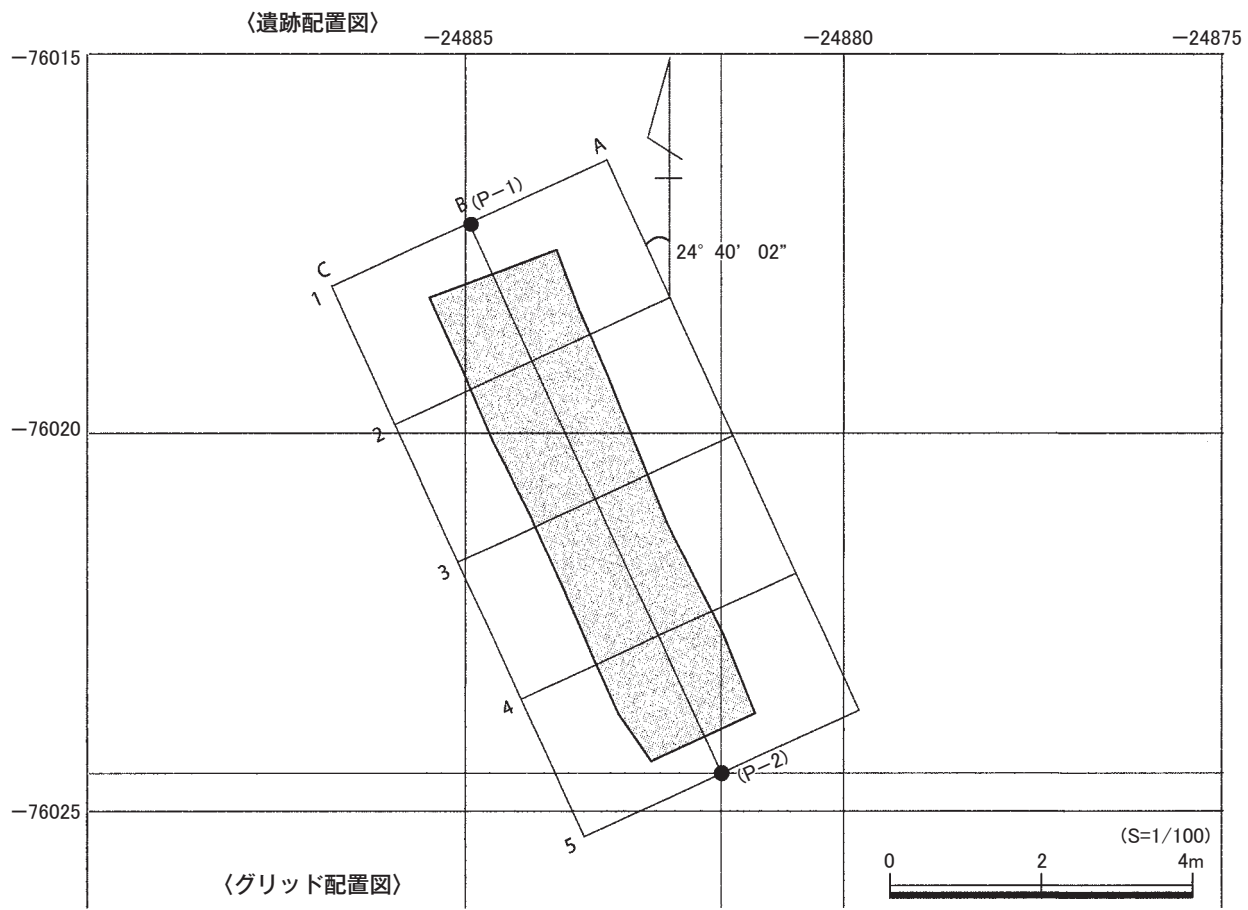
以上、甚だ簡単に当調査区周辺の歴史的環境を概観してきた。中世以来「名越」は鎌倉の南東を防衛する地域であった上に、海浜にも近く、交易や交通の要衝でもあったと考えられている。当調査区の西には大宝寺があるが、当地は新羅三郎義光以来、佐竹氏が屋敷を有していたという伝承が残っている(註24)。また当調査区の北には名越山王堂があり(現在は廃絶)、その谷地の一角には、大友氏の一族である詫磨氏が屋敷を有していたと推定されている(註25)。北条氏や三善氏の邸宅が「名越」にあったと先述したが、有力御家人たちが当地域に屋敷を有していた状況と、寺院の多さを鑑みると、当調査区が歴史的に重要な場所に位置していると考えられるのである。(松吉大樹)

【註】

- (註1) 『吾妻鏡』建仁三年九月二日条、同九月六日条(以下、断りのない限り『鏡』と略す)。
- (註2) 『鏡』建仁三年十月八日条
- (註3) 『鏡』安貞二年十二月十二日条。
- (註4) 『鏡』正嘉元年八月十八日条。
- (註5) 『鏡』建永元年二月四日条。同正嘉二年五月五日条には、名越(北条)時章の山荘が新善光寺辺りにあったという記述が見られるが、義時の山荘と同じものを指すかどうかについては未詳。
- (註6) 『鏡』承元二年正月十六日条。尚、大町四丁目1736番2外地点(田代郁夫ほか『鎌倉市埋蔵文化財緊急報告書14(第1分冊)』鎌倉市教育委員会、1998)を、三善康信邸と想定する説もあるが、詳細については未詳(「第18回東勝寺名越山王堂長勝寺外」『鎌倉-鎌倉史蹟めぐり会記録-』鎌倉文化研究会、1972、25～32頁)。
- (註7) 『鏡』寛喜三年三月廿五日条、延応元年十二月十三日条、康元元年十一月廿六日条。
- (註8) 『続群書類従9上』。
- (註9) 「長勝寺文書」(『神奈川県史資料編3下』6400号文書)。
- (註10) 「妙本寺文書」。
- (註11) 「金沢文庫文書」(『神奈川県史資料編2』)。
- (註12) 「北条貞時十三年忌供養記」(『神奈川県史資料編2』)。
- (註13) 「相州文書所収鎌倉郡我覚院文書」(『神奈川県史資料編3上』4918号文書)。
- (註14) 「鶴岡八幡宮供僧職次第」(『鶴岡叢書』)。
- (註15) 「古教妙訓証文」(「黄梅院文書」『神奈川県史資料編3下』6049号文書)
- (註16) 『神奈川県史資料編1』321号文書
- (註17) 『神奈川県史資料編1』327号文書
- (註18) 「梵篋印奥書」(「金沢文庫文書」『神奈川県史資料編1』633号文書)
- (註19) 「俱舍論釈頌疏義鈔卷上奥書」(『神奈川県史資料編2』1073号文書)
- (註20) 「菩提心論私見聞」(「金沢文庫文書」12)
- (註21) 「教誠儀鈔奥書」(「金沢文庫文書」『神奈川県史資料編2』1853号文書)
- (註22) 「称名寺授與灌頂記」(「金沢文庫古文書」『神奈川県史資料編3上』3743号文書)
- (註23) 「足利直義御教書」(「円覚寺文書」『神奈川県史資料編3上』3749号文書)
- (註24) 『日本歴史地名体系』「大町村 大宝寺」項など
- (註25) 「建長三年八月四日付 関東御教書案」(「託磨文書」『鎌倉遺文』7334号文書)、「弘長二年八月廿日付 詫磨能秀議状案」(「託磨文書」『神奈川県史資料編1』492号文書)、「建武元年四月十八日付 後醍醐天皇綸旨案」(「託磨文書」『神奈川県史資料編3上』3160号文書)



〈遺跡配置図〉



〈グリッド配置図〉

図2 遺跡位置図・国土座標とグリッド配置図

2. 遺跡位置とグリッド配置図 (図2)

本調査は鎌倉市大町四丁目1858-4地点における、個人専用住宅の建築に伴う発掘調査である。現地調査期間は平成18年5月1日から6月7日までの約1ヵ月間で、調査面積は約10.50㎡である。現地表の標高は調査区北側で海拔13.50m、南で海拔13.70mであり、南から北に向かって緩やかな傾斜地となる。

調査を開始するにあたっては調査区にほぼ平行した任意の方眼軸を設け、P-1と見返り点P-2を設定後、光波測量機によってトラバース測量を行い、P-1と見返り点P-2に国土座標上の数値を移動した。しかし整理作業時に測量不備がみつき、測量の際のデータを基に計算し座標値を算出したが、数値に若干のずれが生じてしまっている。測量軸は2m方眼による軸線を用い、南北軸線には北から算用数字の1~5、東西軸線には東からアルファベットA~Cとした。南北軸線は真北に対して24°40'02"西にずれる。現地調査では日本測地系(座標AREA9)の国土座標数値を使用した。本報告作成に当たって国土地理院が公開する座標変換ソフト「web版TKY2JGD」で世界測地系第IX系に変換し、図2に表記した。

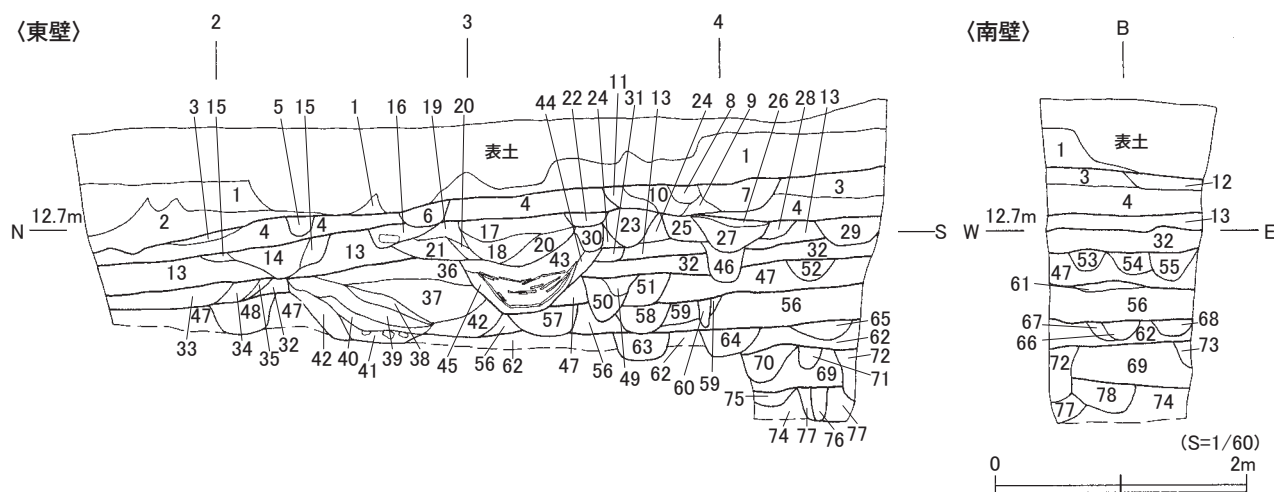


図3 調査区堆積土層図

3. 堆積土層 (図3)

緩やかに南から北に傾斜する現地表から、南側約20cm~北側40cmの表土を除去すると、近世以降の耕作土と思われる堆積層が観察できる。耕作土下層の泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗茶灰色弱粘質土上で第1面を検出した。確認レベルは海拔12.50m~13.20m。第2面は泥岩・破碎泥岩を含む明灰色弱粘質土の締まりある地業上で検出した。確認レベルは12.40m~12.80m。第3面は泥岩粒・炭化物・かわらけ片を含む、締まりのある暗茶褐色粘質土上で検出した。確認レベルは12.20m~12.70m。第4面はやや大型の泥岩・炭化物を含む茶灰色粘質土上で検出した。確認レベルは12.10m~12.50m。第5面は泥岩粒・褐鉄を含む堅く締まった暗茶褐色粘質土上で検出した。確認レベルは11.90m~12.30mである。第6面~第8面は調査区南東隅に設けた試掘坑で確認している。第6面の確認レベルは12.00mである。構成土は微量の泥岩粒・褐鉄を含む堅く締まった暗青灰色粘質土。第7面の確認レベルは約11.80m。構成土は泥岩粒少量・山砂と思われる砂質土を含む暗褐色弱粘質土である。第8面の確認レベルは約11.50m。構成土は少量の泥岩・微量の泥岩を含む青灰色土である。中世の地山層と考えている。

土層注記 (図3)

1. 黄灰色砂質土：泥岩・炭化物・かわらけ片・山砂(耕作土か?)
2. 明黄灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物・かわらけ片・山砂(耕作土か?)
3. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第1面構成土)
4. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量に含む土丹地業、炭化物・かわらけ(第1面構成土)
5. 茶褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物多量(第1面遺構13)
6. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量
7. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第1面遺構8)
8. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・かわらけ片(第1面遺構8)
9. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・かわらけ片・炭化物(第1面遺構8)
10. 明茶褐色弱粘質土：泥岩・かわらけ片・焼土・炭化物(第1面遺構8)
11. 明茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・かわらけ片・炭化物(第1面遺構8)
12. 茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第1面遺構7)
13. 明灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量に含む土丹地業(第2面構成土)
14. 暗灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒
15. 茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒
16. 灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第2面遺33)
17. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物・かわらけ片微量(第2面遺構41)
18. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第2面遺構41)
19. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物・かわらけ片微量(第2面遺構41)
20. 暗茶褐色弱粘質土：炭化物・かわらけ片微量(第2面遺構41)
21. 茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量、炭化物・かわらけ片(第2面遺構41)
22. 暗黄灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第2面遺構39)
23. 茶灰色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物
24. 暗茶褐色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第2面遺構27)
25. 暗灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第2面遺構40)
26. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩粒・炭化物・かわらけ片(第2面遺構25)
27. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量・炭化物(第2面遺構25)
28. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量、炭化物(第2面遺構24)
29. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物
30. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩多量・泥岩粒・炭化物
31. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量
32. 暗茶褐色粘質土：泥岩粒・炭化物・かわらけ片(第3面構成土)
33. 暗灰色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物多量(第3面遺構52)
34. 暗灰色粘質土：泥岩・泥岩粒多量(第3面遺構52)
35. 暗灰色粘質土：泥岩粒・炭化物微量(第3面遺構52)
36. 暗黄灰色弱粘質土：泥岩多量・泥岩粒・炭化物(第3面遺構51)
37. 暗黄灰色弱粘質土：泥岩多量、泥岩粒・炭化物微量(第3面遺構51)
38. 黒褐色弱粘質土：炭化物多量・泥岩少量(第3面遺構51)
39. 暗茶褐色粘質土：泥岩粒・炭化物多量(第3面遺構51)
40. 炭化物層：泥岩・泥岩粒(第3面遺構51)
41. 暗茶灰色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物・有機質土(第3面遺構51)
42. 暗茶灰色粘質土：泥岩・炭化物(第3面遺構51)
43. 明茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物・かわらけ片(第3面遺構49)
44. 茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量、炭化物(第3面遺構49)
45. 茶灰色弱粘質土：泥岩少量・泥岩粒・かわらけ片(第3面遺構49)
46. 暗茶灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物
47. 茶灰色粘質土：泥岩・炭化物(第4面構成土)
48. 暗茶褐色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量(第4面遺構87)
49. 暗茶褐色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量、茶褐色粘土(第4面遺構71)
50. 暗茶褐色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量(第4面遺構71)
51. 暗茶褐色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第4面遺構70)
52. 暗青灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量、炭化物微量(第4面遺構65)
53. 暗青灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物(第4面遺構57)
54. 暗青灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量(第4面遺構60)
55. 茶褐色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量(第4面遺構61)
56. 暗茶褐色粘質土：泥岩粒・褐鉄(第5面構成土)
57. 暗茶灰色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄(第5面遺構99)
58. 暗灰色弱粘質土：泥岩・泥岩粒多量・炭化物・灰色粘土(第5面遺構96)
59. 暗褐色粘質土：泥岩粒・炭化物・灰色粘土(第5面遺構97)
60. 茶褐色粘質土：有機質土多量・炭化物多量、杭穴か?
61. 暗茶灰色粘質土：泥岩多量・炭化物少量(壁の東側に広がる遺構覆土か?)
62. 暗青灰色粘質土：泥岩粒微量・褐鉄(第6面構成土)
63. 暗青灰色粘質土：泥岩粒・褐鉄(第6面遺構121)
64. 暗青灰色粘質土：泥岩粒・炭化物・褐鉄(第6面遺構113)
65. 暗茶褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物・褐鉄(第6面遺構120)
66. 暗青灰色弱粘質土：泥岩粒・炭化物・褐鉄(第6面遺構108)
67. 暗青灰色弱粘質土：泥岩粒・炭化物・褐鉄微量(第6面遺構109)
68. 暗褐色粘質土：泥岩・泥岩粒微量、褐鉄(第6面遺構107)
69. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・山砂(第7面構成土)
70. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物微量、褐鉄
71. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物微量、褐鉄
72. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物微量、(根固めの為か底部に不整形な泥岩あり)
73. 暗褐色弱粘質土：泥岩・炭化物
74. 青灰色粘質土：泥岩・泥岩粒微量(第8面構成土)
75. 茶褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物
76. 暗褐色粘質土：泥岩・泥岩粒微量
77. 青灰色粘質土：泥岩粒・炭化物微量
78. 青灰色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物微量

第二章 検出した遺構と遺物

調査は重機によって表土から約60cm堆積していた現代の耕作土を除き第1面を検出した。第1面～第5面までの遺構確認面は南から北に向かって緩やかに傾斜する。発見した遺構は土坑・溝状土坑・ピット。出土遺物はかわらけ・国産陶磁器・舶載磁器などの中世遺物の他に破片ではあるが土師器・須恵器などの古代遺物が出土している。狭小な範囲での調査だったため、発見した遺構・遺物から遺跡地の性格を明確に把握することは難しいが、遺跡地周辺の様相を推定する資料の一つと考えたい。

各面に付した遺構番号は調査作業の簡便を測るために、遺構プランに対して付してあり、必ずしも番号の新旧が遺構の新旧を表すものではない。また、調査に伴う平面図測量に際しては、旧来からの測量方法である平板測量を行っている。

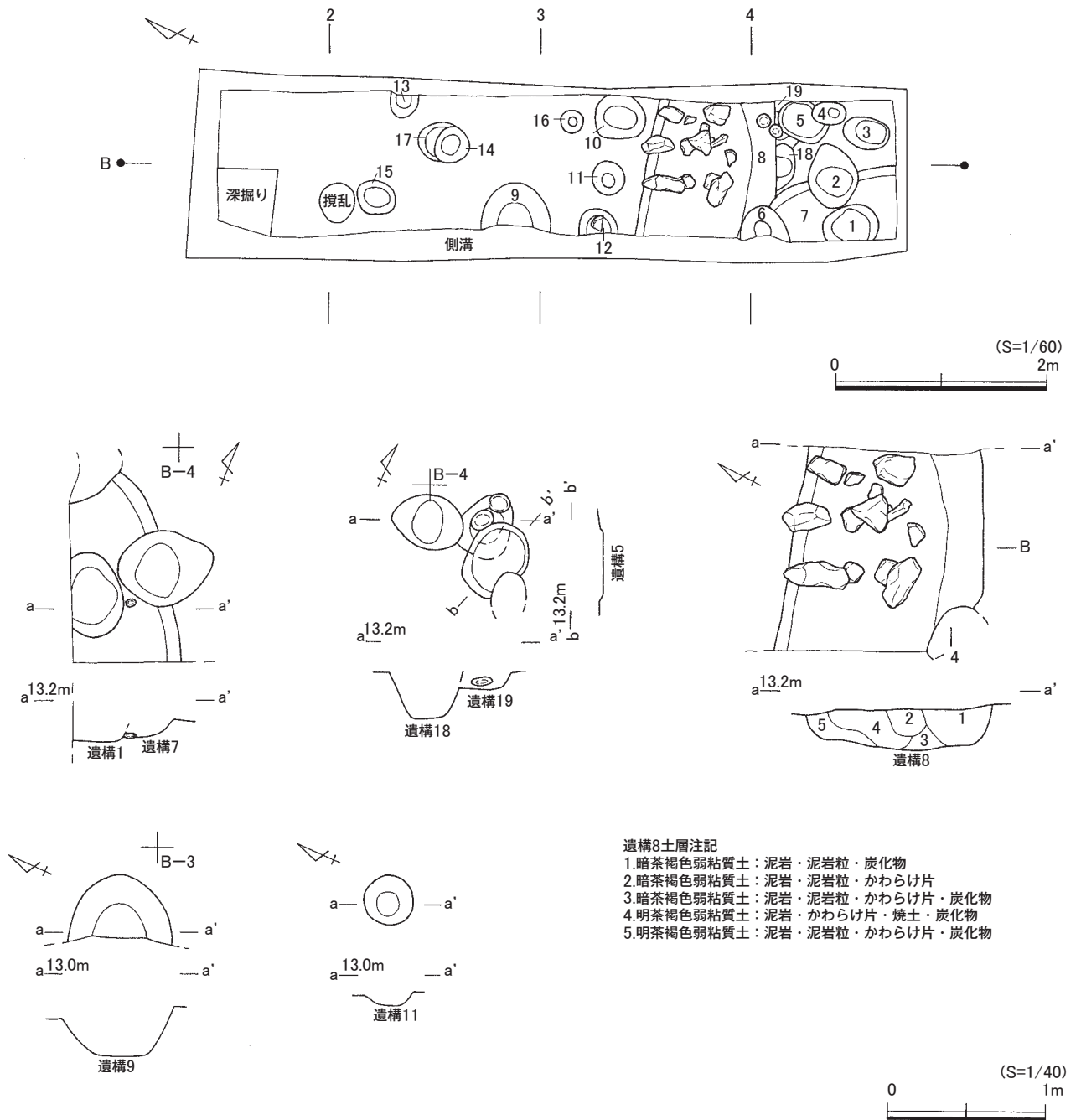


図4 第1面(全測図・個別遺構図)

第1面の遺構と遺物 (図4・図5)

第1面は暗茶褐色粘質土・泥岩粒・泥岩を含む堅く締まった堆積層上で遺構を確認した。堆積層は調査区中央付近から北に向かって緩やかに傾斜する。発見遺構はやや平坦に地業されていた調査区南側に集中した。検出した遺構は土坑2基・溝状土坑1基・ピット19穴。2時期の遺構の切りあいを確認した。第1面構成土には焼痕のある泥岩と、部分的に炭化物が層状に堆積していた。

出土した遺物はかわらけ・常滑甕を中心として、少量の瀬戸製品・火鉢・鉄釘があり、破片で青磁碗・手づくね・土師器甕が各1点出土している。第1面確認レベルは、海拔12.50 m～13.20 m。

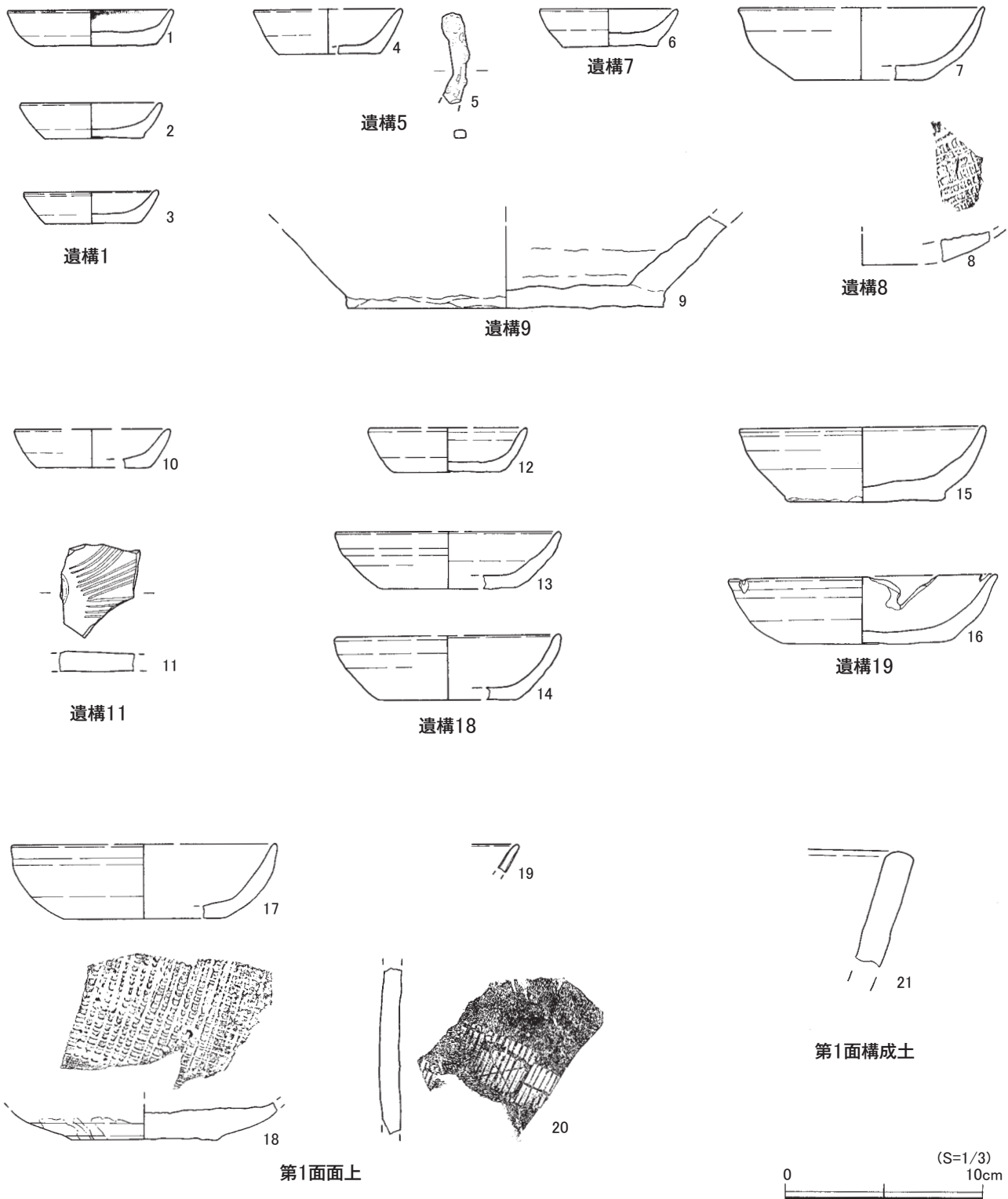


図5 第1面 (遺構・面上・構成土出土遺物)

遺構 1 (図4・図5)

ピットである。長さ53cm・幅(34)cm・深さ14cm。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物を含む。
出土遺物(図5)

1～3はかわらけである。1は口唇部内側に油煤痕付着・底径大きく器高低い、小型のかわらけである。内底やや強めの指頭によるナデあり。2・3は内底指頭によるナデあり・胎土に雲母が多く混じる。破片でかわらけ(大)15・かわらけ(小)3が出土した。

遺構 5 (図4・図5)

ピットである。長さ48cm・幅40cm・深さ2cm。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩粒(多)・泥岩・炭化物を含む。
出土遺物(図5)

4はかわらけ・内底指頭によるナデあり。5は鉄製品・釘。破片でかわらけ(大)13・かわらけ(小)2・鉄釘が出土した。

遺構 7 (図4・図5)

土坑である。長さ60cm・幅48cm・深さ11cm。覆土は茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を微量に含む。
出土遺物(図5)

6はかわらけ。内底指頭によるナデの後見込み周囲を回転ナデ。破片でかわらけ(大)10・かわらけ(小)1・常滑甕1が出土した。

遺構 8 (図4・図5)

溝状土坑である。調査区外に遺構が延びており正確な形状・規模は不明。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩(多)・泥岩粒(多)・炭化物・茶色粘土を含む。覆土上層には40cm前後の大型で不整形・焼痕のある泥岩が多く堆積していた。狭い範囲の調査ではあるが、遺構8を境に調査区の堆積は北に向かって緩やかに傾斜しており、遺構8は土留めの役割を果たしていたのかもしれない。第1面より上層の遺構と思われる。長さ122cm・幅(130)cm・深さ28cm。

出土遺物(図5)

7はかわらけ。内底指頭によるナデ。8は瀬戸灰釉卸皿。破片でかわらけ(大)31・常滑甕3が出土している。

遺構 9 (図4・図5)

土坑である。長さ66cm・幅(40)cm・深さ32cm。覆土上層に3～5cmの泥岩が厚く堆積。遺構底部に炭化物が厚く堆積していた。覆土は黒色弱粘質土・炭化物を多く含む。

出土遺物(図5)

9は常滑甕の底部片。内底、内側面に指頭による調整痕が残る。外底部砂付着。破片でかわらけ(大)1が出土している。

遺構 11 (図4・図5)

ピットである。長さ32cm・幅32cm・深さ8cm。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。
出土遺物(図5)

10はかわらけ。外側面に糸切り痕残る。11は瀬戸灰釉折縁皿の底部片・4本単位の櫛搔文。破片の為欠落部分が大きい。底部中央に同心円状の文様が描かれ、その周囲に草文を配していると思われる。外底部に糸切り痕は遺存していなかった。破片でかわらけ(小)1・瀬戸折縁深皿1が出土している。

遺構 12 (図4)

浅いピットである。ピット底部に常滑甕底部片が遺存していた。長さ40cm・幅(35)cm・深さ不明。

覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。個別に図面は掲載していない。

遺構 18 (図4・図5)

ピットである。長さ45cm・幅32cm・深さ28cm。覆土は褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を多く含む。

出土遺物 (図5)

12～14はかわらけ。12は明るい橙色を呈し、器壁薄く、やや内湾して立ちあがる。内底指頭によるナデの後、見込み周囲を回転ナデ。13は内底指頭によるナデあり。14は内底指頭によるナデの後、見込み周囲を回転ナデ。破片でかわらけ(大)3・かわらけ(小)5・常滑甕1・鉄滓1が出土している。

遺構 19 (図4・図5)

ピットである。長さ44cm・幅35cm・深さ12cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図5)

15・16はかわらけ。15は小石粒の混じる粗い胎土・内底に強く指頭によるナデ残る。16は内底指頭によるナデあり。破片でかわらけ(大)7・かわらけ(小)3・常滑甕1が出土している。

第1面面上出土遺物 (図5)

第1面の面精査時に発見した遺物である。17はかわらけ。内底指頭によるナデあり。18は瀬戸灰釉卸皿底部片・内底部卸目に摩耗痕は見られない。外底部糸切り痕が明瞭に残る。19は竜泉窯青磁碗の口縁部片。破片の為不明瞭だが蓮弁文様か。20は常滑甕胴部片。破片でかわらけ(大)51・かわらけ(小)3・常滑甕9・火鉢1が出土している。

第1面構成土出土遺物 (図5)

第1面構成土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・破碎泥岩・泥岩粒・焼痕のある泥岩・炭化物を含み、固く締まっている。構成土内にも炭化物が多く含まれていたが、発見した遺構覆土では層状に炭化物を検出する遺構を多く見た。21は土器質火鉢・口縁部片。内側面に炭化物付着。破片でかわらけ(大)23・かわらけ(小)4・常滑甕14が出土している。

第2面の遺構と遺物 (図6)

第2面は明灰色弱粘質土・泥岩粒・破碎泥岩・泥岩を含む泥岩地業層上で遺構を確認した。堆積土に含まれる泥岩の一部には焼痕が残る。堆積層は調査区中央付近に位置する遺構41辺りから北に向かって緩やかに傾斜する。調査区北側にスクリーントーンで示した部分は、破碎泥岩による地業が遺存していた個所である。地業下層には炭化物層が広く堆積していた。検出した遺構は土坑6基・溝状土坑1基・ピット16穴。2時期の遺構の切りあいを確認した。出土した遺物は青白磁梅瓶・研磨石製品。破片で青白磁梅瓶・火鉢・鉄滓が1点出土している。第2面確認レベルは、海拔12.40mから12.80m。

遺構 29 (図6)

個別に遺構図は掲載していない。ピットである。長さ56cm・幅45cm・深さ16cm。覆土は暗茶褐色粘質土・泥岩粒・暗茶褐色粘土を含む。遺構底面に不整形の泥岩が遺存していた。根固めとして使用か。破片でかわらけ(小)1が出土している。

遺構 33 (図6)

個別に遺構図は掲載していない。ピットである。遺構41を切る。長さ58cm・幅(28)cm・深さ7cm。覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・暗灰色粘土を含む。遺構底部に焼痕の残る不整形な泥岩

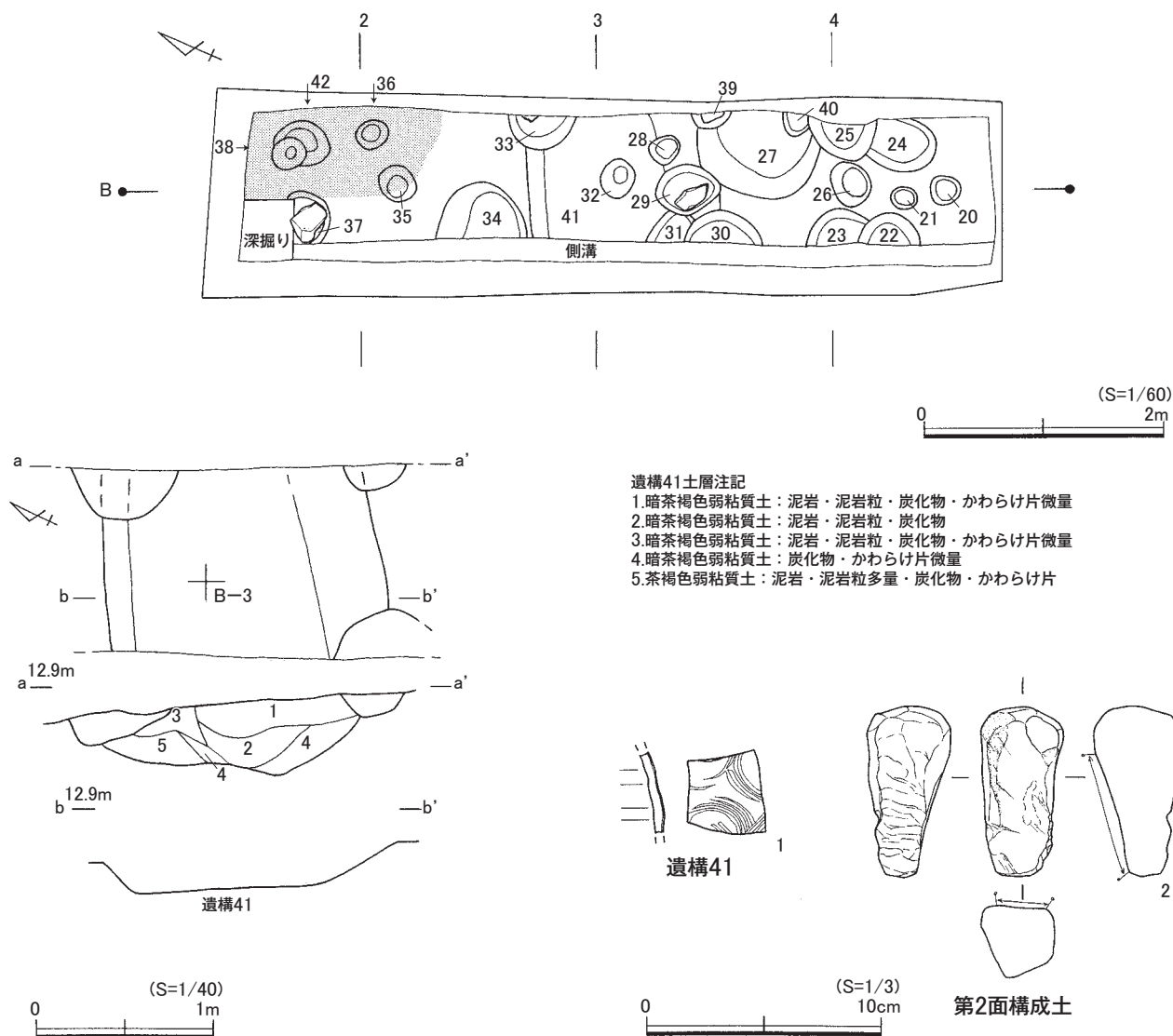


図6 第2面(全測図・個別遺構図・出土遺物)

が遺存していた。根固めとして使用か。破片でかわらけ(小)3が出土している。

遺構37(図6)

個別に遺構図は掲載していない。ピットである。長さ48cm・幅(36)cm・深さ19cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒を多く含む。覆土内の泥岩の多くには焼痕が残る。出土遺物はない。

遺構39(図6)

個別に遺構図は掲載していない。ピットである。長さ34cm・幅14cm・深さ不明。覆土は暗黄灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒を含む。底面に常滑胴部片が遺存していた。礎石、あるいは根固めとして使用か。常滑胴部片上で深さ7cmを測った。破片で常滑甕1が出土している。

遺構41(図6)

溝状土坑である。調査区外に遺構が延びてしまっている為に正確な形状・規模は不明。長さ(108)cm・幅160cm・深さ29cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物を含む。遺構41を境に調査区内で北に向かって緩やかに傾斜していることや、覆土内に含まれる泥岩が大型であること、多量であること等から、第1面で発見した遺構8と同様に土留めであった可能性を考えている。

出土遺物(図6)

1は青白磁梅瓶。破片でかわらけ(大)11・常滑甕4が出土している。

第2面面上出土遺物(図6)

第2面精査時に出土した遺物は出土量も少なく破片のみであったため、本報告に掲載していない。破片でかわらけ(小)16・常滑甕15が出土した。

第2面構成土出土遺物(図6)

2は用途不明・石製品。人為的に加工した痕跡がある。端部および、側面に摩耗痕あり。破片でかわ

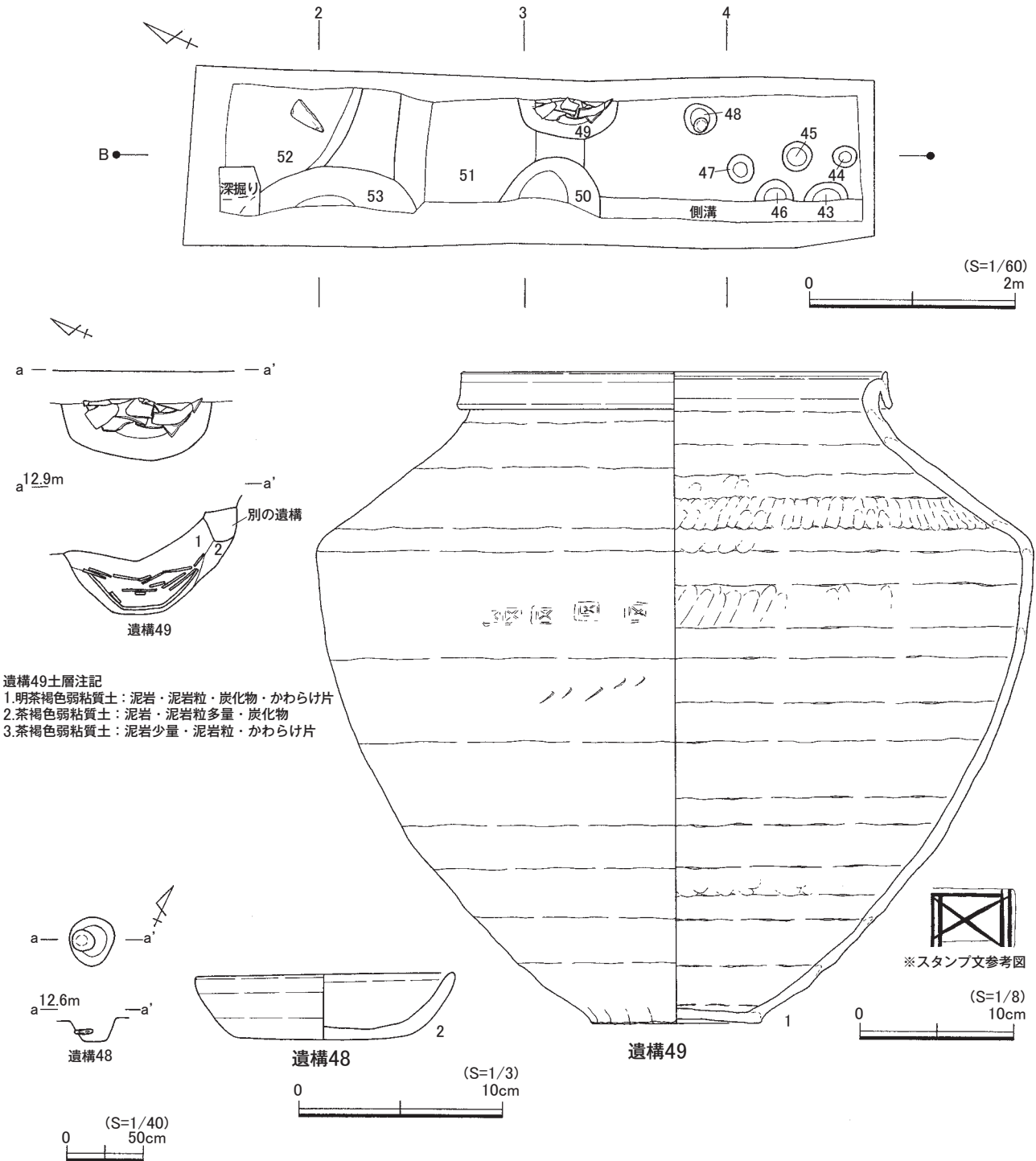


図7 第3面(全測図・個別遺構図・遺構48・遺構49出土遺物)

らけ(大)25・かわらけ(小)3・青白磁梅瓶1・瀬戸壺2・常滑甕4・火鉢1が出土している。

第3面の遺構と遺物(図7・図8)

第3面は暗茶褐色粘質土・泥岩粒・泥岩を含む堅く締まった堆積層上で遺構を確認した。上層の生活面と同様に、堆積層は調査区中央付近から北に向かって緩やかに傾斜する。検出した遺構は土坑4基・溝状土坑1基・ピット6穴。2時期の遺構の切りあいを確認した。第3面構成土は暗茶褐色粘質土・泥岩粒・炭化物を含み固く締まっていた。出土した遺物は破片も含めてかわらけ・常滑甕を中心として、舶載品・瀬戸製品・常滑製品・常滑甕転用品・火鉢がある。第3面確認レベルは、12.20mから12.70m。

遺構48(図7)

ピットである。長さ31cm・幅29cm・深さ14cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物を含む。覆土内に完形のかわらけ(図7-2)が遺存していた。

出土遺物(図7)

2はかわらけである。内底やや強めの指頭によるナデあり。外側面回転ナデが強く残る。破片でかわらけ5・常滑甕1が出土している。

遺構49(図7)

土坑である。長さ96cm・幅(37)cm・深さ約60cm。調査区外に遺構が延びてしまっていたために、正確な形状・規模は不明である。土坑内で発見した常滑窯・甕上部は土圧により潰れていたが、甕底部は遺構底面に据えた状態で発見された。覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物を含む。

出土遺物(図7)

1は常滑甕。胴部にスタンプ文。中野編年7～8形式に比定される。甕以外の出土遺物はない。

遺構51(図7・図8)

断面逆台形を呈する溝状土坑である。調査区外に遺構が延びてしまっている為に正確な形状・規模は不明。長さ(98)cm・幅184cm・深さ44cm。覆土は暗黄灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒を多く含む。堆積土層図(図8)で示した3層・7層は有機質土を含む炭化物が厚く堆積していた。第1面遺構8・第2面遺構41と同様に土留めの性格を持つ可能性も考えている。

出土遺物(図8)

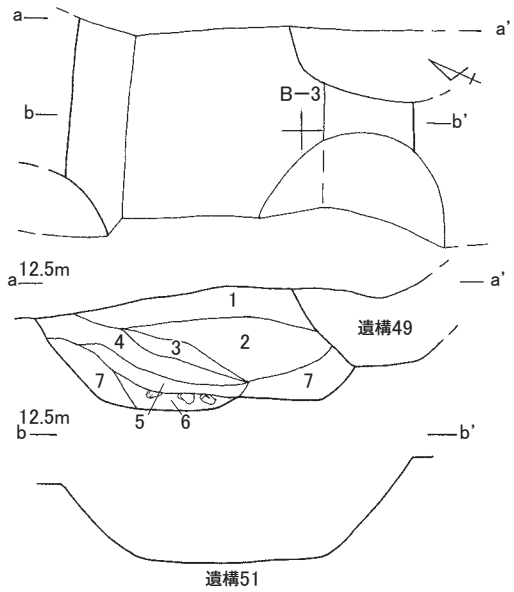
1～6は堆積土層図の1～3層の間に出土した遺物である。1～4はかわらけ。1～3は内底指頭によるナデあり。3は外側面雑な整形。4は調整不明・やや粉質な胎土。5は瀬戸入子口縁部片。6は常滑甕転用品。摩耗痕あり。1～3層からは破片でかわらけ(大)22・かわらけ(小)3・常滑甕6が出土している。7～8は4～7層の間に出土した遺物である。7はかわらけ・内底指頭によるナデあり。全体に磨耗している。8は内底指頭によるナデの後、見込み周囲に回転ナデ。9は青磁劃花文碗・外側面無文・内側面花文か。4～7層からは破片でかわらけ(大)6・かわらけ(小)1・常滑甕9が出土している。

遺構52(図8)

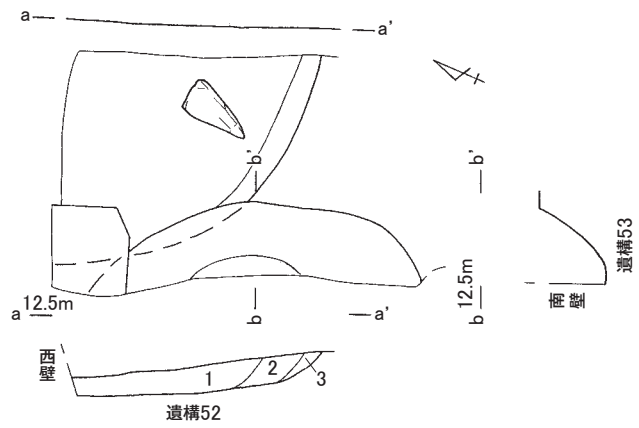
浅い土坑である。長さ(130)cm・幅(106)cm・深さ23cm。調査区外に遺構が延びてしまっているため正確な形状・規模は不明。覆土は上層に炭化物を多く含み、泥岩・泥岩粒を含む。

出土遺物(図8)

10・11はかわらけ。10は内底指頭によるナデあり・外側面雑な整形。11は内底指頭によるナデあり・



- 遺構51土層注記
1. 暗黄灰色弱粘質土：泥岩多量・泥岩粒・炭化物
 2. 暗黄灰色弱粘質土：泥岩多量・泥岩粒・炭化物微量
 3. 黑褐色弱粘質土：炭化物多量・泥岩少量
 4. 暗茶褐色粘質土：泥岩粒・炭化物多量
 5. 炭化物層：泥岩・泥岩粒
 6. 暗茶灰色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物・有機質土
 7. 暗茶灰色粘質土：泥岩・炭化物



- 遺構52土層注記
1. 暗灰色粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物多量
 2. 暗灰色粘質土：泥岩・泥岩粒多量
 3. 暗灰色粘質土：泥岩粒・炭化物微量

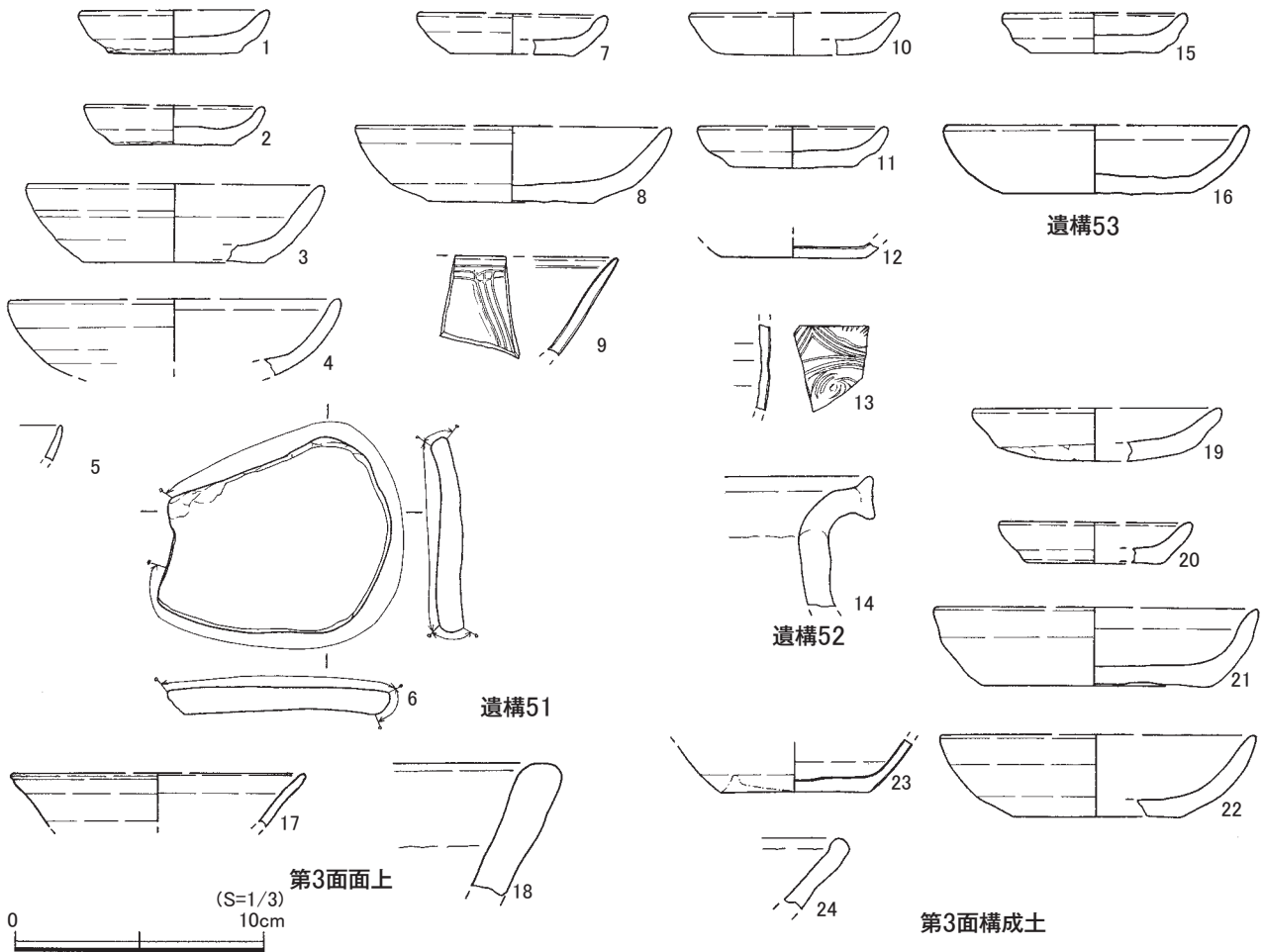
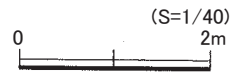


図8 第3面(個別遺構図・出土遺物)

外側面雑な整形。12は白磁口元皿底部片。13は青白磁梅瓶胴部片。14は常滑窯・甕口縁部片。破片でかわらけ(大)5・かわらけ(小)3・常滑甕4が出土している。

遺構53(図8)

土坑である。調査区外に遺構が延びてしまっている為に正確な形状。規模は不明。長さ(175)cm・幅(38)cm・深さ(34)cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を多く含む。

出土遺物(図8)

15・16はかわらけ。15は内面に鉄分付着・内底指頭によるナデあり。16は薄手の器壁を持つ・内底指頭によるナデあり。

第3面面上出土遺物(図8)

第3面直上には、炭化物が薄く堆積していた。17は東濃型山茶碗口縁部片・内外口唇部、内面口縁部に淡緑色の降灰釉。18は瓦質火鉢口縁部片・内側面火熱による剥離痕。粗い胎土。第3面面上では遺物の出土量が減少する。破片でかわらけ(大)8・常滑甕1・山茶碗1・火鉢1が出土した。

第3面構成土出土遺物(図8)

第3面構成土は暗灰褐色弱粘質土・暗褐色砂質土・泥岩粒・泥岩を含む堅く締まった地業であった。19は手づくね成形のかわらけ・内外面共に指頭による調整痕不明瞭。20～22はかわらけ・20は内底指頭によるナデあり・小石粒を含む粗い胎土。21は内底指頭による強いナデ。22は内底指頭によるナデの後見込み周囲を回転ナデ。23は白磁口元皿底部片・底部外面板状工具によるナデ痕。24は常滑窯・片口鉢I類口縁部片。破片でかわらけ(大)46・かわらけ(小)2・手づくね(大)1・白磁口元皿1・常滑甕12・常滑片口鉢I類1が出土している。

第4面の遺構と遺物(図9)

第4面は茶褐色粘質土・泥岩粒・破碎泥岩・泥岩・炭化物を含む堅く締まった地業層上で遺構を確認した。第1面～第3面までの地業層は南から北に向かって緩やかに傾斜する土地を利用しているが、第4面はやや平坦な地業を観察している。検出した遺構は土坑8基・ピット25穴。3時期の遺構の切りあいを確認した。時代が遡る遺構の覆土と、第4面構成土下層には覆土内に炭化物を含まない。また、第3面で発見した遺構51に壊され、調査区中央付近での遺構発見は出来なかった。

出土した遺物は破片を含めてロクロ成形のかわらけ・手づくね成形のかわらけ・常滑製品・瀬戸製品・舶載品・渥美製品・石製品が出土している。第4面の確認レベルは、海拔12.10mから12.50m。

遺構61(図9)

ピットである。調査区外に遺構が延びてしまっている為に形状・規模は不明。長さ(19)cm・幅(19)cm・深さ22cm。覆土は茶褐色粘質土・少量の泥岩粒・炭化物。

出土遺物(図9)

1は常滑窯・甕口縁部片。

遺構72(図9)

ピットである。長さ44cm・幅(24)cm・深さ15cm。覆土は暗茶褐色粘質土・泥岩粒・微量の炭化物・茶色粘土を含む。底部に不整形の泥岩が遺存する・礎石か。出土遺物はない。

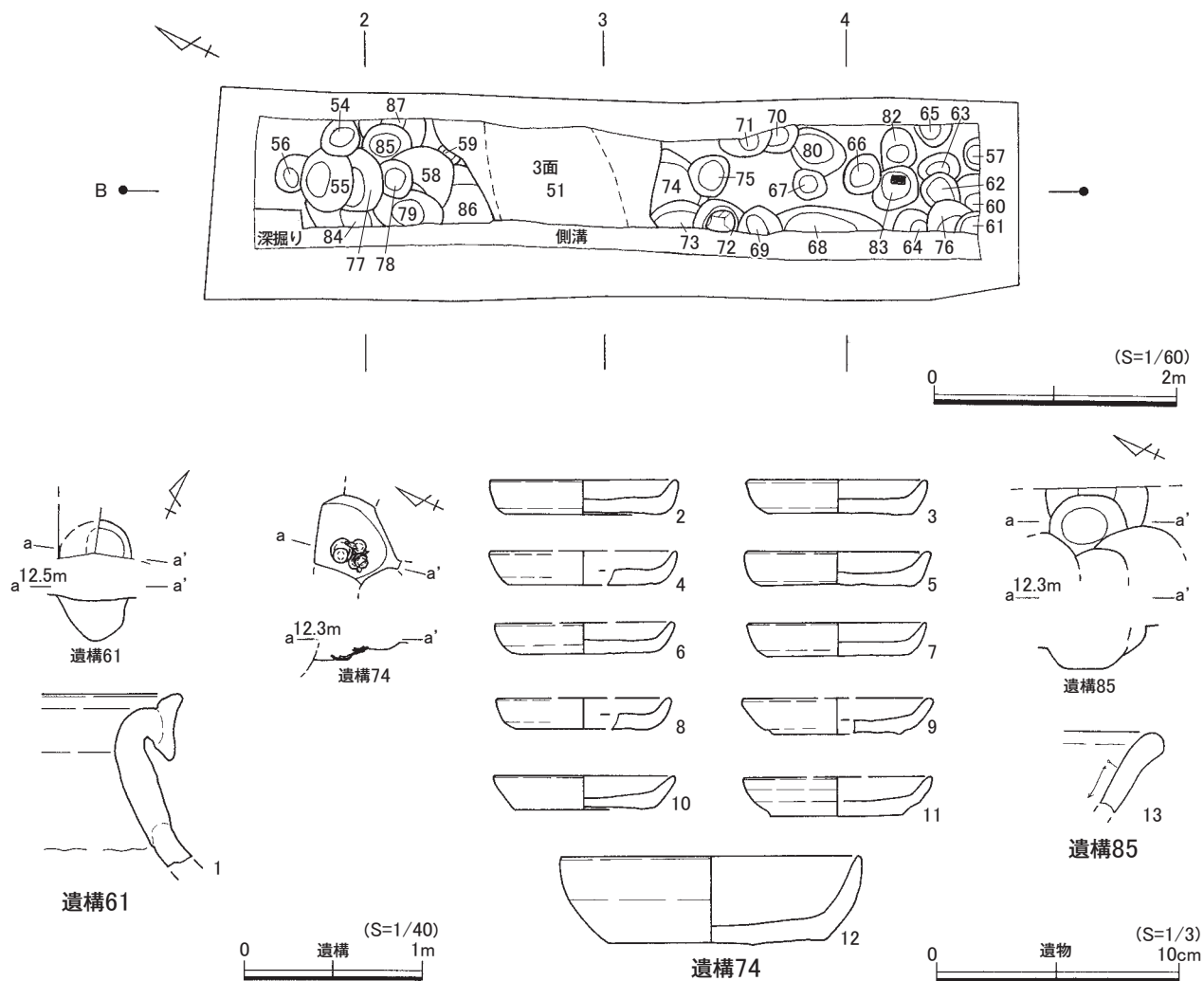


図9 第4面(全測図・個別遺構図・出土遺物)

遺構 74(図9)

土坑である。上層の遺構に切れられ形状・規模不明。遺構底部にかわらけがまとまって出土した。長さ(58)cm・幅(48)cm・深さ19cm。覆土は暗茶褐色粘質土・泥岩粒・微量の炭化物を含む。

出土遺物(図9)

2～12は遺構底部で発見したかわらけ。2～8は内底指頭によるナデ・口径と底径の差がなく低い器高を持つ。9は内底指頭によるナデ・小石粒を含む粗い胎土。10・11は内底指頭によるナデの後、見込み周囲を回転ナデ。12は内底指頭によるナデの後、見込み周囲を回転ナデ・やや直立して立ち上がる器壁を持つ。破片でかわらけ(大)1・かわらけ(小)14が出土している。

遺構 83(図9)

ピットである。長さ(38)cm・幅36cm・深さ23cm。覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩粒・炭化物・黒褐色有機質土を含む。個別に図面を掲載していないが、全測図に四角形で示した部分に黒褐色有機質土が遺構底部まで堆積していた。柱痕と思われる。破片でかわらけ(大)3が出土している。

遺構 85(図9)

ピットである。長さ42cm・幅(36)cm・深さ25cm。覆土は暗茶褐色粘質土・微量の炭化物・泥岩粒を多く含む。

出土遺物(図9)

13は常滑片口鉢I類口縁部片内側面に淡緑色の降灰釉。破片で片口鉢I類胴部が1点出土している。

同一個体と思われる。

第4面面上・構成土出土遺物

第4面面上と構成土では小片の為、報告できる遺物はなかったが、第4面面上からはかわらけ(小) 2・常滑甕1が破片で出土。構成土からはかわらけ(大) 1・常滑甕3・土師器甕1が破片で出土した。出土遺物量は第4面になって減少する。

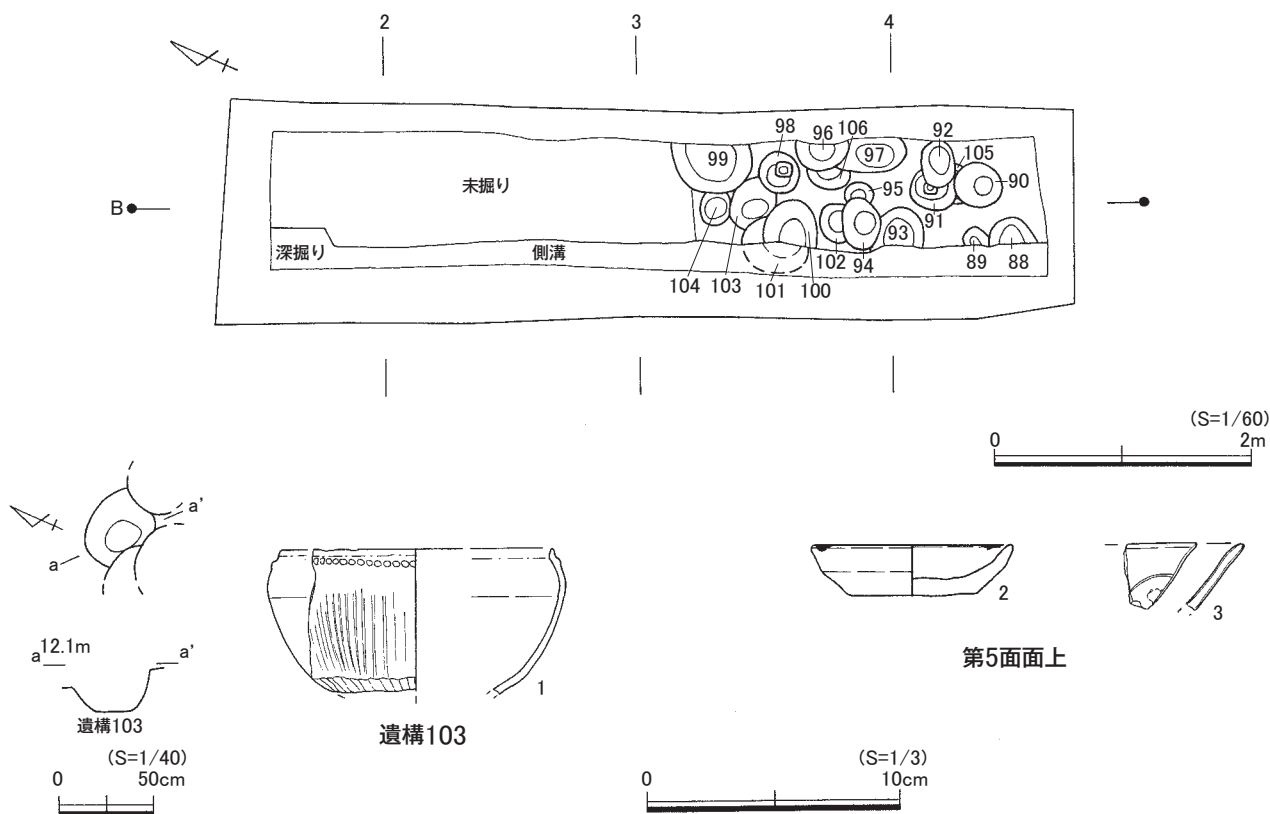


図10 第5面(全測図・個別遺構図・出土遺物)

第5面の遺構と遺物(図10)

調査壁崩落の危険が伴うために、第5面以下は調査区を狭めて調査を行った。第5面は暗茶褐色弱粘質土上で検出した。上層の第4面と同様に複数のピットが切りあって発見されたが、地業の様子を確認することは出来なかった。発見した遺構はピット19穴である。3時期の遺構の切りあいを確認している。第5面構成土は泥岩粒・褐鉄を含む堅く締まった土。出土した遺物はかわらけ・手づくね成形のかわらけ・舶載磁器・常滑製品・土師器。第5面の確認レベルは、海拔11.90mから12.30m。

遺構91(図10)

ピットである。長さ36cm・幅(30)cm・深さ25cm。覆土は暗茶褐色粘質土・少量の泥岩粒。褐鉄を含む。遺構中央に柱痕と思われる方形を呈するピットを確認した。破片で常滑甕3が出土している。後述する遺構98にも、同様に柱穴痕と考える方形のピットを観察している。遺構91と遺構98の芯芯間の距離は122cmであった。個別に図面は掲載していない。

遺構98(図10)

ピットである。長さ34cm・幅31cm・深さ13cm。覆土は暗茶灰色弱粘質土・微量の泥岩粒・炭化物・灰色粘土を含む。遺構内に柱痕と思われるピットがあく。破片で手づくね(大)1が出土している。個別に図面は掲載していない。

遺構101(図10)

ピットである。調査区外に遺構が延びてしまっている為、正確な形状・規模は不明。長さ53cm・幅(45)cm・深さ36cm。覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩粒・泥岩を含む。遺構底面に拳大の泥岩が遺存していた。根固めか。破片でかわらけ(大)2・白磁壺1・褐釉壺甕類1が出土した。白磁壺は隣接する遺構103出土の白磁壺(図10-1)と接合した。

遺構103(図10)

ピットである。長さ43cm・幅35cm・深さ19cm。覆土は暗褐色粘質土・多量の泥岩粒・炭化物・褐鉄・灰色粘土を含む。

出土遺物(図10)

1は白磁無頸壺。内外面に乳白色の透明釉を厚く施釉。肩部に珠文。胴部に蓮弁状の文様が配される。生産地は景德鎮窯か。破片でかわらけ(小)1が出土している。

遺構105(図10)

ピットである。長さ30cm・幅27cm・深さ50cm。覆土は暗褐色粘質土・微量の泥岩粒・褐鉄を多く含む。遺構底面に拳大の泥岩が遺存していた。根固めか。個別に遺構図は掲載していない。出土遺物はない。

第5面面上出土遺物(図10)

2はかわらけ。口唇部に油煤痕・灯明皿か。3は白磁碗口縁部片・内面に劃花文。破片でかわらけ(大)2・手づくね(大)2・常滑甕1が出土している。

第5面構成土出土遺物

第5面構成土は褐鉄を含む堅く締まった暗茶褐色粘質土である。破片でかわらけ(小)1・手づくね(大)10・土師器坏1・土師器甕1が出土した。遺物出土量は第4面と比較してさらに減少する。

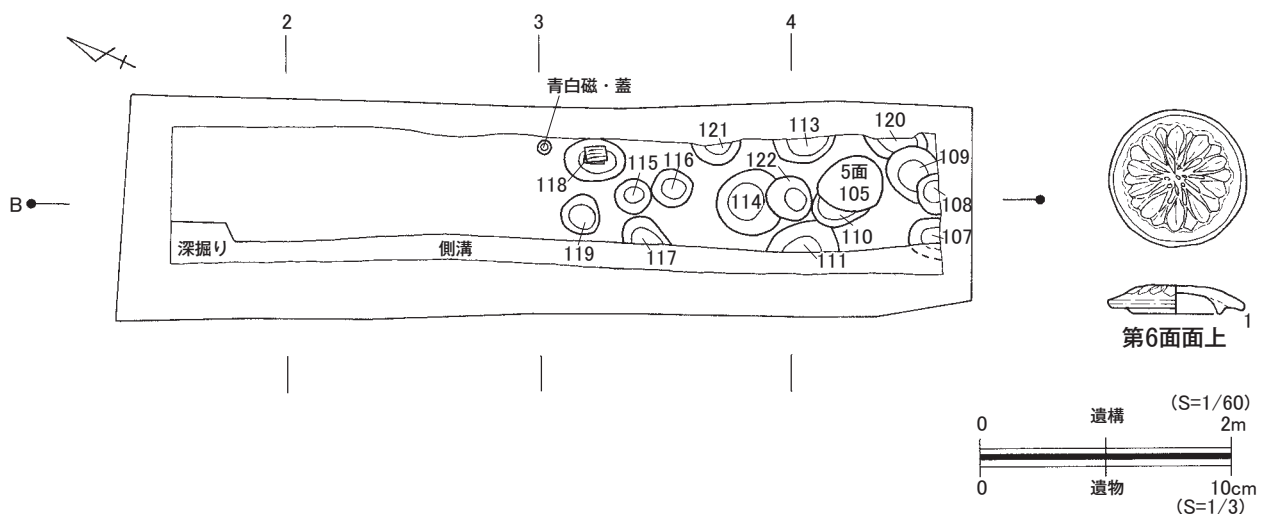


図11 第6面(全測図・出土遺物)

第6面の遺構と遺物(図11)

第6面は暗青灰色粘質土上で検出した。第6面構成土は黒褐色粘質土・泥岩粒・微量の青灰色砂質土・褐鉄を含む堅く締まった土であり、遺構覆土にも褐鉄が多く含まれる。発見した遺構はピット15穴である。2時期の遺構の切り合いを確認した。出土遺物量は極端に減少し、報告した遺物の他に第6面面上でかわらけ(大)1・土師器甕4、第6面構成土からは土師器甕1が破片で出土している。第6面の確認レベルは12.00m。

遺構118(図11)

底面に礎板が遺存するピットである。長さ46cm・幅34cm・深さ17cm。遺存する礎板は2枚が重なり、下方の礎板は建材の転用品らしく、礎板の裏面、遺構底部に接する面に焼痕が残る。上方の礎板、長さ17～17.05cm・幅8～10cm・厚さ2cm。下方の礎板、長さ17.05cm・幅12.05～14.05cm・厚さ2cmを測り、釘痕が残る。覆土は暗青灰色弱粘質土・泥岩粒・微量の炭化物を含む。破片で土師器甕4が出土した。

第6面面上出土遺物(図11)

1は青白磁壺蓋である。頂部に陽刻の花文が配される。破片でかわらけ1・土師器甕4が出土している。第6面構成土からは、土師器甕が破片で1点出土した。

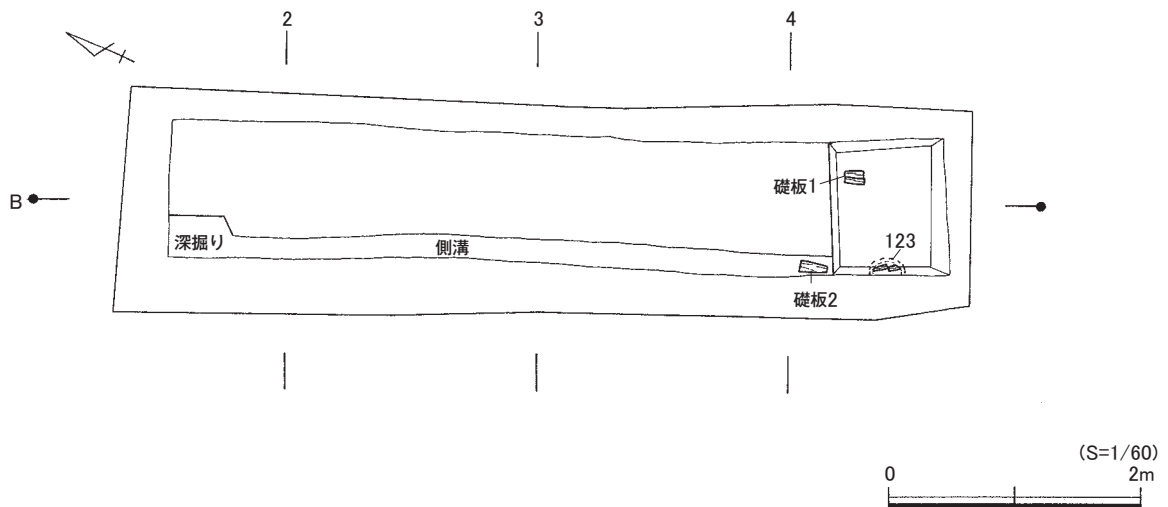


図12 第7面・第8面確認トレンチ(全測図)

第7面・第8面の遺構と遺物(図12)

湧水と崩落の危険から調査区をさらに狭め、調査区南端を深掘りして調査区壁の土層観察で第7面・第8面の生活面があることを確認した。第7面構成土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・青灰色砂質土を含む。確認レベルは、海拔11.80m。第8面は青灰色粘質土・少量の泥岩粒を含む。中世の地山層と考えている。確認レベルは、海拔11.50m。両面共に破片も含めて、出土遺物はない。

遺構123(図12)

平面での調査は出来なかったが、西側調査区壁で発見した遺構である。深さ22cm。規模・形状は不明。遺構底部に礎板2枚が重なって遺存していた。上方の礎板は長さ18.5cm・幅8～10cm・厚さ2cm。

下方の礎板は長さ22.5cm・幅10.5cm・厚さ3.3cmを計測した。覆土は暗褐色弱粘質土・微量の泥岩粒を含む。出土遺物はない。

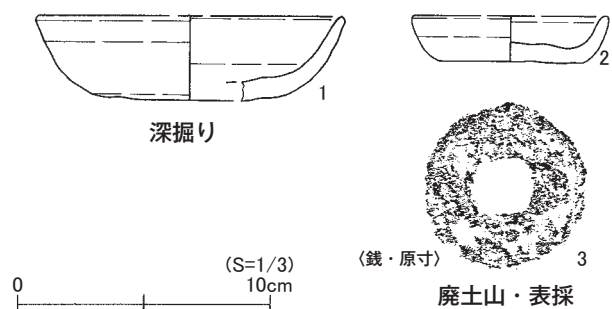


図13 廃土山・表採出土遺物

この他に、図面上で礎板1・礎板2と示した礎板を確認している。第6面・遺構118底面で発見した礎板上面のレベルと、第7面で発見した礎板1・礎板2の礎板上面のレベルは、ほぼ同じ海拔での検出であった。礎板1・2は第6面遺構に所属した礎板の可能性もある。遺構118と第7面で発見した礎板1の芯芯距離は210cmであった。

それぞれの礎板上面のレベル・礎板1 - 11.63 m。
・礎板2 - 11.65 m。・遺構123 - 11.34 m。

廃土山・表採出土遺物(図13)

1・2はかわらけ。1は内底弱いナデ・小石粒の混じる粗い胎土。2は内底ナデの後、見込み周囲を回転ナデ。3は錢・遺存状態悪く判読が困難であるが、開元通寶か。錢周囲を擦った痕跡あり。

第三章 まとめ

本調査地の位置する名越ヶ谷は、鎌倉市街地の東端にある大規模な谷戸で、谷戸内には大小の支谷が開析している。谷戸の開口部には鎌倉市中から名越坂の切通しを経て三浦へと向かう大町大路と称される道路が東西に走り、谷戸奥に開かれた釈迦堂切通しは、大倉幕府へと通じる六浦路へとつながる。釈迦堂口東側は北条時政名越山荘(名越亭)と推定され、谷戸内のそれぞれの支谷は名越北条氏の居館のほかにも、多くの御家人が居住していたと考えられる。名越ヶ谷の谷戸一帯は鎌倉市中の防衛上の要地であった。狭小な面積での調査であったため、遺跡地の様相や性格を推定することは困難であったが、調査地周辺の様相を明らかにする資料の一つとして報告したい。

本調査では、8枚の生活面を確認した。それぞれの生活面は破碎泥岩による、比較的しっかりとした地業を行っている。地業層は焼痕の残る泥岩を多く含み、炭化物層が調査区に広がる部分も多く確認した。調査地を含む周辺域での火災の痕跡と思われる。第1面から第4面の地業層は、南から北に向かって緩やかに傾斜し、傾斜がやや急になる辺りで調査区外に遺構が延びる大型の土坑を確認している。土坑覆土には大型の泥岩を多く含み、土留めの遺構ではなかったかと推測しているが、限定された範囲での判断の為不安は残る。確認したそれぞれの生活面でピット・土坑などの遺構を発見し、礎板、あるいは根固めと考えられる泥岩が遺構底面に遺存する柱穴を確認したが、あまりに狭い面積での調査であったため、建物の範囲、規模を推定することは出来なかった。第3面で発見した遺構49は遺構の半分以上が調査区外に延びていたが、常滑窯の甕が土坑内に正位置で据えてあり据え甕と考えている。遺構廃棄の時点で埋められた土圧で上部が破損していたが、ほぼ一団体が出土した。甕内部の堆積土に特徴的な含有物は観察されなかったが、貯蔵遺構であったと思われる。調査面積の狭さもあって、出土した遺物はかわらけ・手づくね・舶載磁器(青磁・白磁・青白磁)・国産陶磁器(瀬戸・渥美・常滑)・火鉢・南伊勢系土鍋・砥石・鉄釘・鉄滓・銭・土師器と多種ではあったが、遺物整理箱数にして11箱と少量で、そのうち8箱は第3面・遺構49出土の常滑窯・甕破片であり遺物の総出土数量は少ない。第1面面上から第6面面上まで、調査区南端で120cm、北端で60cmの間に8枚の生活面を確認し、それぞれの生活面で複数回の造り替えが行われていることを観察したが、出土した遺物は年代的な変化が見られず、概ね14世紀代といえる。調査区を大幅に狭めて確認した第7面・第8面は出土遺物がないために年代の比定ができない。

引用・参考文献

- 日本歴史大系第14巻 平凡社 1984年刊
鎌倉市史 考古編 吉川弘文館 昭和42年刊
鎌倉市史 社寺編 吉川弘文館 昭和54年刊
鎌倉廃寺事典 貫達人 川副竹胤 有隣堂 平凡社1984年刊
鎌倉事典 白井永二 平成4年刊
愛知県史(別編 窯業2中世・近世 瀬戸系)愛知県史編さん委員会 愛知県 平成19年刊
愛知県史(別編 窯業3中世・近世 常滑系)愛知県史編さん委員会 愛知県 平成19年刊
大宰府条坊跡XV(陶磁器分類編)大宰府市教育委員会 平成12年刊

遺構計測表 (cm)

面	遺構No.	長さ	幅	深さ	面	遺構No.	長さ	幅	深さ
1	1	54	(32)	14	4	61	(19)	(19)	22
1	2	60	48	21	4	62	38	(24)	18
1	3	43	32	7	4	63	34	16	17
1	4	32	22	9	4	64	(30)	(18)	18
1	5	48	40	2	4	65	38	(18)	22
1	6	48	(32)	9	4	66	36	30	19
1	7	60	48	11	4	67	29	26	12
1	8	122	(130)	28	4	68	(90)	(21)	26
1	9	66	(40)	32	4	69	38	(23)	19
1	10	48	42	8	4	70	(36)	(22)	26
1	11	32	32	8	4	71	6	(16)	22
1	12	40	(35)	不明	4	72	44	(24)	15
1	13	27	(32)	4	4	73	(40)	(22)	17
1	14	35	32	13	4	74	(58)	(48)	19
1	15	36	30	17	4	75	34	33	12
1	16	23	21	13	4	76	(40)	(27)	26
1	17	40	(17)	12	4	77	52	(25)	18
1	18	45	32	28	4	78	33	(26)	13
1	19	44	35	12	4	79	60	(31)	26
2	20	25	24	7	4	80	46	(40)	19
2	21	22	19	8	4	82	(32)	30	30
2	22	52	(28)	14	4	83	(38)	36	36
2	23	59	(30)	12	4	84	(58)	(24)	(24)
2	24	60	(44)	17	4	85	42	(36)	(36)
2	25	58	(30)	19	4	86	(50)	(40)	(40)
2	26	39	32	9	4	87	(56)	(24)	(24)
2	27	106	(76)	11	5	88	35	(21)	15
2	28	26	23	13	5	89	22	(15)	13
2	29	56	45	16	5	90	38	36	20
2	30	66	(27)	17	5	91	36	(30)	25
2	31	45	(28)	12	5	92	38	27	18
2	32	34	28	21	5	93	42	(30)	22
2	33	58	(28)	7	5	94	42	0	24
2	34	78	(47)	17	5	95	22	11	24
2	35	34	30	10	5	96	41	22	10
2	36	27	24	不明	5	97	(56)	28	20
2	37	48	(36)	19	5	98	34	31	13
2	38	30	26	14	5	99	60	(38)	25
2	39	34	14	不明	5	100	44	(34)	14
2	40	24	21	7	5	101	53	(45)	36
2	41	(108)	160	29	5	102	30	(19)	22
2	42	49	38	38	5	103	43	35	19
3	43	42	(18)	16	5	104	(25)	(24)	12
3	44	24	19	8	5	105	30	27	0
3	45	28	28	24	5	106	34	(15)	16
3	46	36	(20)	19	6	107	(32)	(24)	10
3	47	26	24	22	6	108	33	(18)	26
3	48	31	29	14	6	109	45	41	12
3	49	96	(37)	40	6	110	46	16	12
3	50	100	(42)	44	6	111	58	(27)	17
3	51	(98)	184	44	6	113	48	(20)	23
3	52	(130)	(106)	23	6	114	52	(49)	17
3	53	(154)	(38)	39	6	115	28	28	23
4	54	33	(30)	16	6	116	32	30	12
4	55	(54)	44	20	6	117	37	(21)	11
4	56	31	(21)	17	6	118	46	34	17
4	57	18	(15)	15	6	119	33	30	20
4	58	60	(35)	35	6	120	48	(15)	17
4	59	(18)	(4)	17	6	121	38	(16)	9
4	60	30	(20)	19	6	122	16	33	12

出土遺物観察表

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚			観察内容
			単位: cm ()は復元値			
図5-1	第1面 遺構1	かわらけ	8.1	6.2	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部に薄く煤付着・灯明皿か?
-2		かわらけ	7.0	5.0	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2程度
-3		かわらけ	6.7	5.0	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
-4	第1面 遺構5	かわらけ	(7.4)	(5.1)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/6程度
-5		鉄釘	残存長 4.4	0.6	0.4	f:先端欠損 g:全体的に錆が激しい
-6	第1面 遺構7①	かわらけ	6.9	4.8	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
-7	第1面 遺構8	かわらけ	(12.2)	6.8	3.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒を含む砂質気味良土 c:淡橙色 e:良好 f:1/6程度
-8		瀬戸 灰釉卸皿				a:ロクロ b:明黄灰色 微砂粒を含む良土 c:淡灰緑色を呈する灰釉をツケ掛け e:良好・硬質 f:底部小片 g:藤澤編年中期か?
-9	第1面 遺構9①	常滑 甕	(7.2)	16.0		a:輪積み 外底砂目底 b:暗灰色 微砂・白色粒・小石粒 c:黒灰色～暗褐色 e:良好・硬質 f:底部片
-10	第1面 遺構11	かわらけ	(7.7)	(5.7)	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒を含む砂質気味良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/6程度
-11		瀬戸 灰釉折縁深皿				a:ロクロ b:黄味がかつた灰白色 緻密良土 c:灰緑色を呈する灰釉をハケ塗り外底露胎 e:良好・堅緻 f:底部小片 g:内底面に4本単位の櫛掻文あり 藤澤編年中期
-12	第1面 遺構18	かわらけ	(7.9)	(5.2)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・薄手碗型 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味良土 c:橙色 e:良好 f:1/3程度
-13		かわらけ	(11.2)	(7.0)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/6程度
-14		かわらけ	(11.2)	(7.0)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/6程度
-15	第1面 遺構19	かわらけ	12.3	8.0	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒・小石粒を含む砂質粗土 c:黄橙色 e:良好
-16		かわらけ	13.5	8.3	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:口唇部に故意的に打ち欠いた様な痕跡あり
-17	第1面 面上	かわらけ	(13.2)	(8.0)	3.75	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3程度
-18		瀬戸 灰釉卸皿		(14.0)		a:ロクロ・外底回転糸切 b:明黄灰色 微砂粒を含む良土 c:淡灰緑色を呈する灰釉をツケ掛け e:良好・硬質 f:底部1/2程度 g:藤澤編年中期Ⅲか?
-19		竜泉窯 青磁椀				b:黄味がかつた灰白色 緻密 d:淡青灰色半透明釉をやや薄く施す 貫入あり e:堅緻 f:口縁部片 g:二次焼成の為に白濁している
-20		常滑 甕				a:輪積み b:微砂・白色粒・長石・石英を含む灰色 c:暗褐色 d:外面に自然降灰 e:良好・硬質 f:胴部片 g:外面に単×(バツ)文+縦線文+横線1本のスタンプ文あり
-21	第1面 構成土	土師質 火鉢				a:輪積み b:橙色 微砂・白色粒・小石粒・砂質粗土 c:褐色 e:軟質 f:口縁部片
図6-1	第2面 遺構41	青白磁 梅瓶				b:灰白色 白色粒・黒色粒を含む緻密土 d:淡青灰色半透明釉をやや薄く施釉 e:堅緻 f:胴部片 g:外面に唐草文
-2	第2面 構成土	研磨石製品	最大長 7.2	最大幅 3.5	最大厚 3.5	a:砥面は1面使用? 表面は刃物による切り痕みたいなケズリ痕あり b:流紋粗粒凝灰岩 c:赤味を帯びたマーブル状、表面は水分を含み黒く変色 f:完形? g:天草産か? 砥石とは断定できないが、一部金属製ではない石より柔らかいものを磨いたり、砥いだりした痕跡あり
図7-1	第3面 遺構49	常滑 甕	(55.2)	22.4	85.6	a:輪積み b:暗褐色 微砂・白色粒・小石粒 c:褐色 d:外面口縁部～肩部・内底面に黄色味がかつた灰白色を呈する自然降灰あり e:良好・硬質 f:口縁部・体部1/6～底部 g:肩部に単×(バツ)文+縦線文のスタンプ文あり 中野編年7～8型式
-2	第3面 遺構48①	かわらけ	12.6	8.4	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
図8-1	第3面 遺構51上層	かわらけ	(7.5)	(5.4)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・土丹粒を含むやや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4程度
-2		かわらけ	(7.1)	(4.8)	1.55	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3程度
-3		かわらけ	(11.9)	(7.4)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/6程度
-4		かわらけ	(13.2)			a:ロクロ b:微砂・雲母・白色粒・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質気味やや粗土 c:橙色～黄橙色 e:良好 f:1/5程度
-5		瀬戸 入子				a:ロクロ b:灰白色 黒色粒若干混じる緻密良土 c:淡黄灰色 e:良好・堅緻 f:口縁部片 g:口唇部に自然降灰
-6		常滑甕転用 研磨製品	7.8	8.9	1.0	a:常滑甕体部の断面、外表面に研磨痕あり b:器表と共に暗褐色 微砂粒・長石粒 e:良好・硬質 f:完形
-7	第3面 遺構51下層	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質気味良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3程度
-8		かわらけ	(12.4)	(6.8)	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒多を含む粉質気味粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/6程度
-9		竜泉窯青磁 劃花文碗	口縁部片			a:ロクロ b:灰色 少量の黒色粒を含む精良緻密土 d:暗青緑色半透明釉を薄く施釉 e:堅緻 f:口縁部片 g:外面は無文・内面は分割線のみで、文様は不明

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容 観察内容 a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 単位:cm ()は復元値
			単位:cm ()は復元値	単位:cm ()は復元値	単位:cm ()は復元値	
図8-10	第3面 遺構52	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含むやや粗土 c:黄 橙色 e:良好 f:1/5程度
-11		かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.65	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯多・土丹粒を含む粉質気 味やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2程度
-12		白磁 口兀皿		(5.6)		a:ロクロ b:灰白色 少量の黒色粒を含む精良緻密 d:青味がかった乳白色不透明 釉をやや厚く施釉 気泡・キズあり e:堅緻 f:底部1/6 g:底部外面は板状工具で 釉をのぼしている箇所あり
-13		青白磁 梅瓶				b:灰白色 少量の黒色粒を含む精良緻密 d:水青色半透明釉をやや薄く施釉 気泡あり e:堅緻 g:外面に牡丹唐草文
-14		常滑 甕				a:輪積み b:暗灰色 微砂・白色粒・小石粒 c:黒褐色 d:外面口縁部と肩部に 自然降灰 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:中野編年6 a型式
-15	第3面 遺構53	かわらけ	(7.5)	(5.0)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含む粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/5程度 g:内面は褐鉄附着
-16		かわらけ	(11.9)	(7.4)	2.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質気 味良土 c:橙色 e:良好 f:1/5程度
-17	第3面 面上	東濃型 山茶碗	(11.6)			a:ロクロ b:色調と共に淡灰色 砂粒を少量含む緻密良土 d:内外口唇部・内面口 縁部に淡緑色の自然降灰あり e:良好・硬質 f:口縁部1/4程度
-18		瓦質火鉢				a:輪積み b:色調と共に黄橙色 砂粒・白色粒・小石粒を含む e:軟質気味 f: 口縁部片
-19	第3面 構成土	かわらけ	(9.8)	(8.0)	(2.1)	a:手づくね b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質土 c:黄橙色 e:やや甘い(胎 芯生焼け気味) f:1/4程度 g:手づくねの指頭調整不明瞭
-20		かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.65	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・白色粒・土丹粒・小石粒を含む 砂質粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4程度
-21		かわらけ	(12.8)	(9.0)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含 む砂質やや粗土 c:暗褐色・硬質気味 e:良好 f:1/5程度
-22		かわらけ	(12.5)	(6.8)	3.25	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3程度
-23		白磁 口兀皿		(6.0)		a:ロクロ b:灰白色 微砂粒を含む精良緻密 d:青味がかった乳白色不透明釉をや や厚く施釉 キズあり e:堅緻 f:底部1/2 g:底部外面は板状工具で釉をのぼして いる箇所あり
-24		常滑 片口鉢I類				a:輪積み b:黒色粒・長石を含む淡灰色 c:淡灰色 e:良好・硬質 g:中野編 年6 a型式
図9-1		第4面 遺構61	常滑 甕			
-2	第4面 遺構74	かわらけ	7.6	6.6	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気 味やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
-3		かわらけ	7.5	6.0	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気 味やや良土 c:黄褐色 e:良好・硬質 f:2/3程度
-4		かわらけ	(7.6)	(6.2)	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質気 味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2程度
-5		かわらけ	7.6	6.5	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・土丹粒を含 む砂質気味良土 c:黄褐色 e:良好・硬質 f:ほぼ完形
-6		かわらけ	(7.2)	(6.0)	1.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂多・雲母・白色粒・海綿骨芯を含む砂質 気味良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3程度
-7		かわらけ	7.4	6.0	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気 味やや良土 c:黄褐色 e:良好・硬質 f:ほぼ完形
-8		かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.3	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯を含む砂質気味やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:1/6程度
-9		かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂多・雲母・海綿骨芯・小石粒を含む砂質粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:1/6程度
-10		かわらけ	7.3	6.0	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質気 味良土 c:黄褐色 e:良好・硬質 f:ほぼ完形
-11		かわらけ	(7.7)	(5.5)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒・礫を含む砂質粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:1/3程度
-12		かわらけ	12.3	9.0	3.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含 む砂質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
-13		第4面 遺構85	常滑 片口鉢I類			
図10-1	第5面 遺構103	白磁 無頸小壺	(10.8)			b:白色 少量の黒色粒を含む精良緻密 d:内外面に乳白色半透明釉をやや厚く施釉 直立気味の口縁部と工具による調整痕のある下部は無釉 貫入・気泡あり e:堅緻 f: 1/5程度 g:肩部に珠文・胴部に蓮弁状の文様(不鮮明)が配される、広口小壺の可能性 もあり
-2	第5面 精査時	かわらけ	7.8	5.1	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含 むやや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3程度 g:口唇部に煤附着・灯明皿
-3		白磁碗				a:ロクロ b:白色 少量の黒色粒を含む精良緻密 d:青味がかった乳白色半透明釉 を薄く施釉 キズあり e:堅緻 f:口縁部片内面に劃花文あり
図11-1	第6面 精査時	青白磁 壺蓋	径5.4×高さ1.1			b:白色 精良緻密 d:水青色透明釉を薄く施釉 内面露胎 e:堅緻 f:完形 g: 頂部に陽刻の花弁を配す
図13-1	廃土山 表採	かわらけ	(12.0)	(7.8)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒・小石粒を含 む粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5程度
-2		かわらけ	(7.6)	5.6	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む良土 c: 黄褐色 e:良好 f:2/3程度
-3		銭	外径2.2 内径1.8			f:完形 g:開元通寶? 初鑄年621 唐 楷書 表面・縁に擦り加工が施されているか

出土破片数表

遺構 No.	面	かわらけ(大)	かわらけ(小)	手づくね(大)	手づくね(小)	青磁劃花文碗	青磁無文碗	白磁碗	白磁口元皿	白磁壺	青白磁蓋	青白磁梅瓶	褐釉壺甕類	瀬戸入子	瀬戸卸皿	瀬戸折縁深皿	瀬戸壺	渥美甕	常滑甕	常滑片口鉢ノ類	擦り常滑	山茶碗	火鉢	南伊勢系土鍋	砥石	石製品	玉石	鉄釘	鉄滓	銅錢	土師器坏	土師器甕	近現代				
1	1	15	3																																		
2	1	8																	1																		
3	1	7																	1																		
4	1	1																																			
5	1	13	2																																		
6	1	3																																			
7	1	10	1																1																		
8	1	31																	3																		
9	1	1																	1																		
10	1	3																																			
11	1		1																																		
14	1																																				
18	1	3	5																2																		
19	1	7	3																1																		
1面以上	2	51	3																9																	1	
1面構成土	1	23	4																14																	1	
攪乱		5		1															12																	2	
23	2		2																																		
24	2	2	7																																		
25	2		3																																		
26	2		2																																		
27	2	4																																			
28	2																																				
29	2		1																																		
30	2		1																																		
32	2	1																																			
33	2		3																																		
34	2																																				
35	2	2																																			
38	2		3																																		
39	2																																				
41	2	11																																			
42	2	14	5																																		
2面以上	2		16																																		
2面構成土	2	26	3																																		

遺構 No.	面	かわらけ(大)	かわらけ(小)	手づくね(大)	手づくね(小)	青磁劃花文碗	青磁無文碗	白磁碗	白磁口元皿	白磁壺	青白磁蓋	青白磁梅瓶	褐釉壺類	瀬戸入子	瀬戸御皿	瀬戸折縁深皿	瀬戸壺	瀨美壺	常滑壺	常滑片口鉢ノ類	擦り常滑	山茶碗	火鉢	南伊勢系土鍋	砥石	石製品	玉石	鉄釘	鉄滓	銅銭	土師器坏	土師器甕	近現代		
43	3	3																																	
44	3		1																1																
45	3	4																	1																
46	3	3																	1																
47	3	5	3																1																
48	3	5																	1																
49	3																		1																
50	3	2																4																	
51下層	3	6	1			1												9																	
51上層	2	22	3															6		1															
52	3	5	3					1									4																		
53	3	6	1														1																		
3面上	3	8																																	
3面構成土	3	46	2	3					1									12		1															
54	4	2																																	
55	4	1																																	
56	4	1																1																	
58	4			3																															
61	4																																		
62	4		3																																
63	4		3																																
66	4	2																									1								
67	4	5																																	
68	4		8																																
69	4			3																															
70	4	4																																	
71	4																																		
73	4		1																																
74	4	1	14																																
76	4																																		
79	4		3	1																															
80	4	5																																	
82	4																																		
83	4	3																																	
84	4																																		

遺構 No.	面	かわらけ(大)	かわらけ(小)	手づくね(大)	手づくね(小)	青磁劃花文碗	青磁無文碗	白磁碗	白磁口元皿	白磁壺	青白磁蓋	青白磁梅瓶	褐釉壺甕類	瀬戸入子	瀬戸卸皿	瀬戸折縁深皿	瀬戸壺	渥美甕	常滑甕	常滑片口鉢ノ類	擦り常滑	山茶碗	火鉢	南伊勢系土鍋	砥石	石製品	玉石	鉄釘	鉄滓	銅錢	土師器坏	土師器甕	近現代	
85	4																			1														
86	4			1																														
4面面上	4		2																															
4面構成土	4	1																																1
88	5			1																														1
90	5																																	1
91	5																																	
92	5			1																														2
93	5			2																														2
94	5			1																														1
96	5	7																																
97	5	3		1																														1
98	5			1																														1
99	5	10																																
100	5																																	
101	5	2								1																								
102	5																																	2
103	5		1							1																								
104	5		1																															
106	5			2																														
5面面上	5	2		2				1																										1
5面構成土	5		1	10																														1
113	6																																	1
118	6																																	1
119	6																																	4
120	6																																	1
122	6			1																														3
6面面上	6	1																																4
6面構成土	6																																	1
廃土山表採	1	9	1	1																														3



◀第1面全景 (北から)



▲第1面調査区南端部遺構群
(遺構1・2・3・4・6 東から)

▼第2面全景 (遺構41完掘前 北から)



▼第2面全景 (遺構41完掘後 北から)





▲第2面遺構37(東から)

▶第3面全景(北から)



◀第3面全景(南から)

第3面遺構49(西から) ▶





◀第4面全景(南から)



▲第4面遺構54・55・56・77・78(西から)

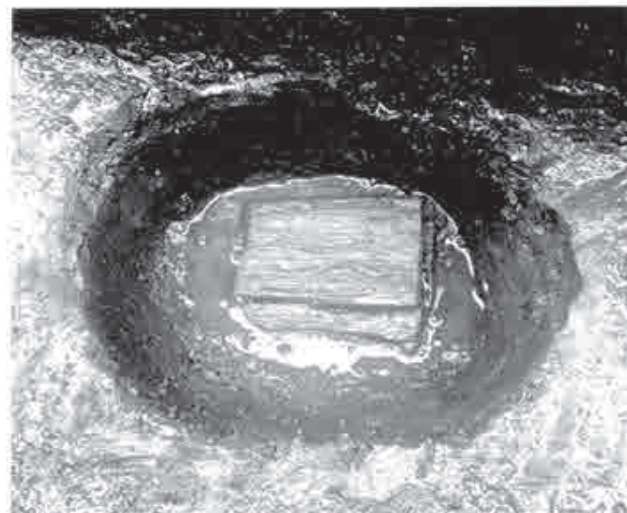


▲第4面遺構74(西から)

▼第5面全景(北から)



◀第6面全景（北から）



▲第6面遺構118礎板検出状況（西から）



◀第6面青白磁蓋出土状況（西から）

調査区東壁土層堆積状況▶
（グリッド3～4付近 北西から）



図版5

<1面>

▽遺構1



5-1



5-2



5-3

▽遺構7



5-6

▽遺構8



5-8

▽遺構11



5-11

▽遺構18



5-12

▽遺構19



5-15

▽遺構9



5-9



5-14



5-16

▽面上



5-18



5-20

<2面>

▽遺構41



6-1

▽構成土



6-2

<3面>

▽遺構49



7-1

<3面>

▽遺構 48



7-2

▽遺構 52



8-11



8-12

▽遺構 51



8-2



8-4



8-13



8-14



8-7

▽遺構 53



8-15



8-9



8-6



8-16

▽面上



8-17



8-18

▽構成土



8-19



8-22



8-21



8-23

<4面>

▽遺構 61



9-1

▽遺構 74



9-2



9-5



9-7



9-3



9-6



9-10



9-12

▽遺構 85



9-13

<6面>

▽面上

<5面>

▽遺構 103



10-1

▽面上



10-12



10-3



11-1

大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)

雪ノ下四丁目 570 番 1 地点

例 言

1. 本報は、「大倉幕府周辺遺跡群」(No.49)内、雪ノ下四丁目570番1地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 調査期間 2006年(平18)7月11日～2006年(平18)8月22日
3. 調査面積 32m²
4. 略 称 YO4570
5. 調査体制
 - 担 当 者 馬淵和雄
 - 調 査 員 鍛冶屋勝二・松原康子・沖元道(資料整理)
 - 調査補助員 鈴木弘太・岩崎卓治(資料整理)・森谷十美(資料整理)
 - 作 業 員 河原龍雄・沼上三代治・田島道夫・鈴木啓之(以上(社)鎌倉市シルバー人材センター)
6. 本報作成分担
 - 遺構図整理 沖元
 - 遺物実測 松原・沖元・岩崎
 - 同墨入れ 松原・沖元・岩崎
 - 同観察表 森谷
 - 同計量表 沖元
 - 同写真撮影 沖元
 - 原稿執筆 馬淵
 - 編集・総括 馬淵

縄文土器に関しては次の方々の御教示を得た。記して感謝したい。

大竹憲昭・小笠原永隆・劔持輝久・大工原豊

目 次 本 文 目 次

第一章 調査地点概観	182
第二章 調査の概略	185
1. 調査にいたる経緯	
2. 調査方法	
3. 調査の経過	
第三章 調査結果	187
1. 土層堆積	
2. 各説一調査面と出土遺物	
第四章 まとめ一調査地点における滑川右岸の変遷について	203

挿 図 目 次

図1 調査地点と近辺の遺跡・旧跡	183	図12 第5河床面出土遺物(2)	196
図2 明治15年頃の大倉一帯	185	図13 第5河床面出土遺物(3)	197
図3 調査区設定図	186	図14 第6河床面出土遺物(1)	198
図4 調査区壁土層図	188	図15 第6河床面出土遺物(2)	199
図5 近世面	189	図16 第7・8河床面, 同出土遺物	200
図6 第1河床面, 同出土遺物	190	図17 第6～8河床面出土遺物(1)	201
図7 第2河床面, 同出土遺物(1)	191	図18 第6～8河床面出土遺物(2)	202
図8 第2河床面出土遺物(2)	192	図19 第9河床面出土遺物	202
図9 第2河床面出土遺物(3)	193	図20 第9河床面より下, 最終状況	202
図10 第3河床面, 同出土遺物	194	図21 表採遺物	203
図11 第4・5河床面, 第5河床面出土遺物(1)	195		

表 目 次

表1 出土遺物観察表(1)	204	表6 出土遺物観察表(6)	209
表2 出土遺物観察表(2)	205	表7 出土遺物計量表(1)	210
表3 出土遺物観察表(3)	206	表8 出土遺物計量表(2)	211
表4 出土遺物観察表(4)	207	表9 出土遺物計量表(3)	212
表5 出土遺物観察表(5)	208		

図 版 目 次

図版1	213	3-6 I区第7・第8河床面土師器皿 (図17-8)出土状況(西から)	
1-1 大御堂橋より調査地点を望む		図版4	216
1-2 県道より調査地点を望む		4-1 I区東壁土層断面	
1-3 調査地点近景		4-2 I区西壁土層断面	
1-4 I区第2河床面全景(南から)		図版5	217
1-5 I区第2河床面全景(東から)		5-2 I区西壁土層断面下部	
1-6 II区第1河床面軒平瓦(図6-6) 出土状況(北東から)		5-2 I区西壁土層断面下部	
図版2	214	図版6	218
2-1 I区第3河床面全景(南から)		6-1 II区東壁土層断面	
2-2 I区第3河床面全景(東から)		6-2 II区西壁土層断面	
2-3 I区第3河床面五輪塔水輪(図10-1) 出土状況(東から)		6-3 II区深掘り坑西壁土層断面	
2-4 I区第3河床面五輪塔水輪(図10-1) 出土状況(西から)		図版7	219
2-5 I区第4・第5河床面全景(南から)		出土遺物1	
2-6 I区第4・第5河床面全景(東から)		図版8	220
図版3	215	出土遺物2	
3-1 II区第4・第5河床面(南から)		図版9	221
3-2 II区第5河床面丸瓦(図13-44) 出土状況(南から)		出土遺物3	
3-3 I区第7・第8河床面全景(東から)		図版10	222
3-4 I区第7・第8河床面全景(南から)		出土遺物4	
3-5 I区第7・第8河床面遺物出土状況 (西から)		図版11	223
		出土遺物5	
		図版12	224
		出土遺物6	

第一章 調査地点概観

位置

六浦道（県道金沢鎌倉線）は鶴岡八幡宮東の筋違橋交差点から旧「岐れ道」交差点（関取橋）まで約350 mの間直線をなす。その北側一帯を占めるのが大倉幕府跡である。神奈川県遺跡台帳は大倉幕府西縁を本来の線よりも100 m以上東に設定している。台帳上でこの「大倉幕府跡」とされた場所の東・西・南側を囲むのが、「大倉幕府周辺遺跡群」である。調査地点は幕府東南角から県道金沢鎌倉線を20～30 m西に進み、そこから約20 m南に入った、滑川に面した位置にある。東側には東御門川が流れているので、この場所は滑川と東御門川の合流地点右岸にあたる。地番は鎌倉市雪ノ下四丁目570番1。

なお、県遺跡台帳で大倉幕府西限が横浜国大付属小学校校庭の東縁になっているのは、『鎌倉市史 総説編』（高柳1959）以来の明白な誤りである。これは明治24年の神奈川師範学校設置時に敷設された道であり、それ以前に存在した筋違橋から北上する道が本来の幕府西限であった（この道の続きは校庭の北側に再び現われる）。

地勢

現況では滑川の河岸に位置しているが、地形的に見て調査地点がかつて河川敷に含まれていたことは間違いない。このことは後述の調査結果からも明らかで、ここには鎌倉平野部を形成する茶褐色～黒褐色の粘質土はなく、角の磨り減った河川特有の礫や岩塊類が深くまで地層を構成している。

地勢上からみれば、この付近は朝比奈峠から下ってきた川が狭い谷間を抜け、それにいくつかの支流が合流して市内中心部の沖積平野を形成し始めるあたりである。調査地点の東200 mで北から二階堂川が、同じく東80 mで南から大御堂川が流れ込み、さらに隣地では、北から東御門川が流れ込む。調査地点の現地標高は9.7～9.8 mで、前面の六浦道の現況路面からは40～50 cmほど。また、この付近の滑川の河床は5.2 m程度なので、4.5～4.6 m前後の比高差があることになる。

歴史的環境

縄文時代の遺物が、若干高い場所になる荏柄天神社の前面で採集されている（赤星1959）。これには前期諸磯b式土器が含まれており、一帯の離水時期についての議論が必要であろう。滑川流域は古くから開けており、「大倉幕府周辺遺跡群」に含まれる近在の滑川崖線上には弥生時代中期後半～後期の大きな集落がある（地点7ほか、馬淵1998・同1999・斉木2007）。また律令期の集落も指呼の距離で発見されている（地点58・5、馬淵ほか1985・馬淵1993）。

鎌倉時代に入ると、この付近は鎌倉の中心となる。治承四年（1180）年、源頼朝の「新亭」が大倉の地に造られ、以後「大倉幕府」と呼ばれて源氏三代将軍が政務を執り行う場所となった。南北朝時代の歴史書『保暦間記』は、そこは先祖の頼義がはじめて鎌倉に館を構えたところだといっているが、信頼性については検討の要がある。幕府が若宮大路の東側に移転した鎌倉時代中期以後は記事が減るが、大倉幕府東南角は、本来の二階堂大路が六浦道から分岐する地点でもあり（現在の大塔宮行きのバス通りは明治にできた道）、かつて「大倉辻」と呼ばれた場所であった可能性がある。「大倉辻」とは、鎌倉幕府が『吾妻鏡』建長三年（1251）12月3日・同文永二年（1265）3月5日の二度、「鎌倉中」の商業地区を指定したときに現れる地名である（『吾妻鏡』同日条）。鎌倉後期に調査地点一帯がかなり繁華な場所であったことがうかがえる。

また、滑川の上流150 mほどの対岸の谷には、頼朝が父義朝および義朝と共に死んだ鎌田正清追福のために建立した勝長寿院があった。谷の名称はそれにちなんで「大御堂谷^{おおみどうがやつ}」という。また勝長寿院は大

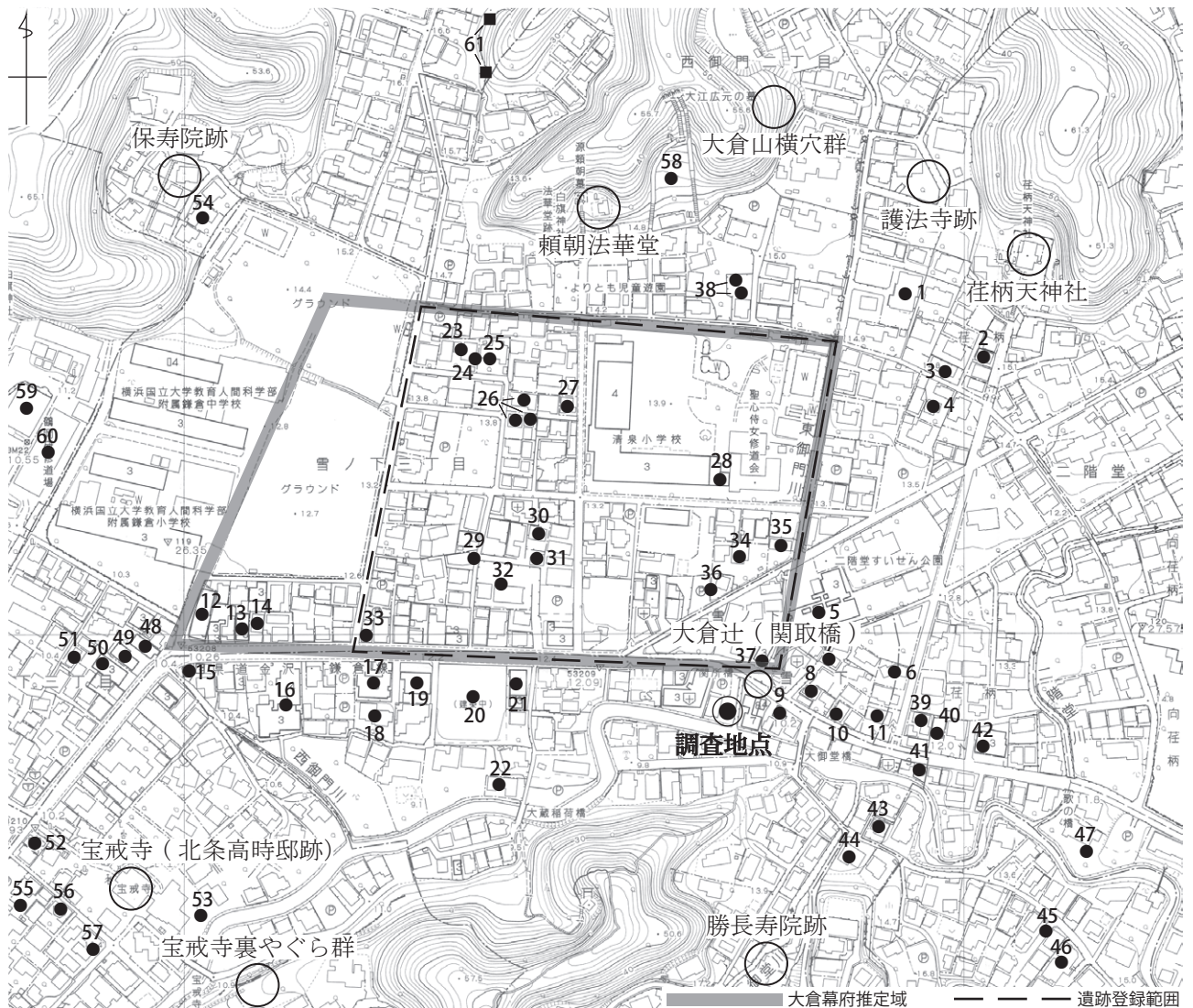


図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡(網目内が大倉幕府推定域, 点線内が県遺跡台帳登録範囲)(1/5000)

倉御所の南に位置するためか、「南御堂」ともいう。寺の造営は元暦元年(1184)11月26日に「地曳始」がおこなわれて始まり、文治元年(1185)10月24日の「供養」で完成をみている(『吾妻鏡』同日条)。廃絶時期についてはよくわかっていないが、『快元僧都記』天文九年(1540)9月23日条に、遷宮のときの「簾中方の社参のこと、勝長寿院に尋ねられ」とあるのを最後に、健在を示す記事は見当たらなくなる。調査区の東100mの滑川にかかる橋を「大御堂橋」という。

大倉幕府東南角の関取橋西詰には、天文十七年(1548)、玉縄城主北条氏康により荏柄社造営料徴収のための関所が置かれた(「荏柄天神社造営関定書案」『神奈川県史 資料編』3-6863)。以来この地には「関取場」の名がついた。賦課の対象は「商人方」と「道者方」に分けられ、荷物や馬に関銭がかけられている。また他国への飛脚からも徴収しているが、往来の道俗や地元民には課していない。関取場については、発掘調査でもそれらしき礎石建物が発見されている(地点18, 馬淵ほか1990)。

その他周辺の発掘調査地点については、図1を参照してほしい。

図1 調査地点名

調査地点名の「地点」「遺跡」は省略。発行者が鎌倉市教育委員会の場合はこれを省略。調査団の名称が遺跡名と同じ場合は「調査団」とのみ記す

略称は次のとおり

『市緊急報告書』—『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』

『急傾斜地報告書』—『鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』

大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 本調査地点 雪ノ下四丁目570番1 1.二階堂字荏柄58-4外 (2000原) 原2002『市緊急報告書』18-1
2.二階堂字荏柄76-7外 (2006伊丹) 3.二階堂字荏柄76-4 (2007宮田) 4.二階堂字荏柄27-3の一部 (2002原) 原2006『市緊急報告書』22-1
5.二階堂字荏柄38-1 (1991馬淵) 馬淵1993『市緊急報告書』9-2 6.二階堂字荏柄3-6外 (2006原/2008原・山口)
7.雪ノ下字大倉耕地562-30 (2007馬淵) 8.雪ノ下字大倉耕地562-16 (2000福田) 菊川泉2001『市緊急報告書』17-2 9.雪ノ下四丁目567-7 (2002馬淵) 馬淵2004『市緊急報告書』20-2 10.雪ノ下天神前562-29 (1994福田) 福田1996『市緊急報告書』12-1
11.雪ノ下大倉耕地565-4 (1989菊川英) 菊川英1991『市緊急報告書』7 12.雪ノ下三丁目606-1 (1991菊川英) 菊川英1993『市緊急報告書』9-3
13.雪ノ下三丁目607外 (1992菊川英) 菊川英1994『市緊急報告書』10-1 14.雪ノ下三丁目607-1 (2001降矢) 降矢2004『市緊急報告書』20-2
15.雪ノ下四丁目600 (1980市教委) 16.雪ノ下四丁目610-2 (1983-84玉林) 未報告 17.雪ノ下四丁目620-18 (1980河野) 未報告
18.雪ノ下四丁目620-2 (1980赤星) 19.雪ノ下四丁目620-5 (1996馬淵) 馬淵1998『市緊急報告書』14-2・馬淵1999『大倉幕府周辺遺跡群』調査団
20.雪ノ下四丁目581-5 (2003齋木) 齋木2007『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会
21.雪ノ下四丁目581-2 (1981-82松尾) 未報告 22.雪ノ下四丁目580-10外 (2000原) 原2001『市緊急報告書』17-2

大倉幕府跡 (No.253) 23.雪ノ下三丁目693-8 (2009齋木・押木) 24.雪ノ下三丁目693-1 (2010宮田・滝澤) 25.雪ノ下三丁目694-18 (2009宮田・安藤)
26.雪ノ下三丁目701-14・701-3・701-1 (2002-2003馬淵・滝澤) 馬淵ほか2005『市緊急報告書』21-1
27.雪ノ下三丁目704-3外 (2005福田) 福田2011『市緊急報告書』27-2 28.雪ノ下三丁目707-1 (1990宮田) 29.雪ノ下三丁目651-8 (1997小林) 汐見1999『市緊急報告書』15-2
30.雪ノ下三丁目648-3 (2009原・山口) 31.雪ノ下三丁目648-8 (2010齋木・降矢) 32.雪ノ下三丁目629-1 (2007森) 宮田他2011『大倉幕府跡発掘調査報告書』(株)博通
33.雪ノ下三丁目618-4 (2000小林) 汐見2002『市緊急報告書』18-1
34.雪ノ下三丁目637-6外 (2008伊丹・宇都) 35.雪ノ下三丁目637-4 (2006熊谷) 熊谷2011『市緊急報告書』27-2
36.雪ノ下三丁目635-2外 (2008齋木・熊谷) 37.雪ノ下字大倉耕地569-1 (1989馬淵) 馬淵1990『大倉幕府周辺遺跡群』発掘調査団

大倉幕府北遺跡 (No.193) 38.西御門二丁目756-10・756-6 (2004宮田・滝澤) 滝澤2009『市緊急報告書』25-1

横小路周辺遺跡 (No.259) 39.二階堂字荏柄10-6 (1998福田) 福田2000『市緊急報告書』16-2 40.二階堂字荏柄10-1 (2001原) 原2003『市緊急報告書』19
41.雪ノ下五丁目557-1 (1996手塚) 野本1998『市緊急報告書』14-2 42.二階堂字荏柄9-1 (1988菊川) 菊川1990『市緊急報告書』6

田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 43.浄明寺一丁目556-6外 (2009押木) 押木2012『市緊急報告書』28-2 44.雪ノ下五丁目555-1 (2000福田・原) 福田2006『市緊急報告書』22-1
45.浄明寺一丁目661 (1998宮田) 森2000『市緊急報告書』16-1 46.浄明寺字釈迦堂658 (1989手塚) 手塚・田畑1990『釈迦堂田楽辻子遺跡』発掘調査団

杉本寺周辺遺跡 (No.158) 47.二階堂字杉本932-1他8筆 (2005宮田) 2007『杉本寺周辺遺跡発掘調査報告書』(株)博通

政所跡 (No.247) 48.雪ノ下三丁目965 (1990手塚) 瀬田1992『市緊急報告書』8 49.雪ノ下三丁目966-1 (1990手塚) 瀬田1992『市緊急報告書』8
50.雪ノ下三丁目971-6 (1997手塚・野本) 51.雪ノ下三丁目970-2外 (1997手塚) 野本1999『市緊急報告書』15-2

北条高時邸跡 (No.281) 52.小町三丁目426-3 (1994原) 原他1996『市緊急報告書』12-1 53.小町三丁目451-1 (2004菊川) 菊川・森2004『北条高時邸跡』(株)齊藤建設

保寿院跡 (No.250) 54.西御門一丁目922-4 (2004宮田) 宮田・滝澤2007『市緊急報告書』23-2

若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 55.小町三丁目425-1の一部 (2005原) 原・宇都2012『市緊急報告書』28-1 56.小町三丁目425-3 (2004原) 原・宇都2013『市緊急報告書』29-1
57.小町三丁目455-4 (1998原)

史跡・法華堂跡 (源頼朝墓・北条義時墓) 58.西御門二丁目686他 (2005福田) 福田他2005『北条義時法華堂跡』

史跡・鶴岡八幡宮境内 59.雪ノ下二丁目1051-1内 (1982松尾) 松尾他1985『鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書』 60.雪ノ下二丁目1051-3内 (1979齋木) 齋木他1983『研修道場用地発掘調査報告書』鎌倉市鶴岡八幡宮

西御門東やぐら群 (No.449) 61.西御門一丁目22-1・23・25-1・2 (2001・2002・2003鈴木) 鈴木他「西御門東やぐら群 かながわ考古学財団調査報告181」(財)かながわ考古学財団

第一章引用・参考文献 (上記以外)

赤星直忠1959 『鎌倉市史 考古編』吉川弘文館

高柳光寿1959 『鎌倉市史 総説編』吉川弘文館



図2 明治15年頃の大倉一带(迅速測図第1測期第10測回 明治15年5・6月)(1/20000)

第二章 調査の概略

1. 調査にいたる経緯

雪ノ下四丁目570番1において、地盤の柱状改良工事をともなう個人専用住宅建設の照会があった。大倉幕府周辺遺跡群の一角に位置しているが、滑川の川べりにあって設計変更は困難であることから発掘調査が必要とされた。調査は2006年7月11日から開始された。

2. 調査方法

掘削方法

表土層のうち地表下平均70cmまでを重機により掘削、以下を人力によった。掘削深度は安全面への配慮から2mを原則とし、段階的に調査区を狭めた。また残土置場の確保のため調査区を二分割し、前半部を「Ⅰ区」、後半部を「Ⅱ区」と呼んだ。調査面積32㎡のうち、Ⅰ区が約19㎡、Ⅱ区が約13㎡となっている。

測量基準の設定

調査区中心を縦に通過する基準線2を置き、これに直交する軸線を5mおきに配した。整理にあたって世界測地系に変換した。基準線の座標は以下の通り。

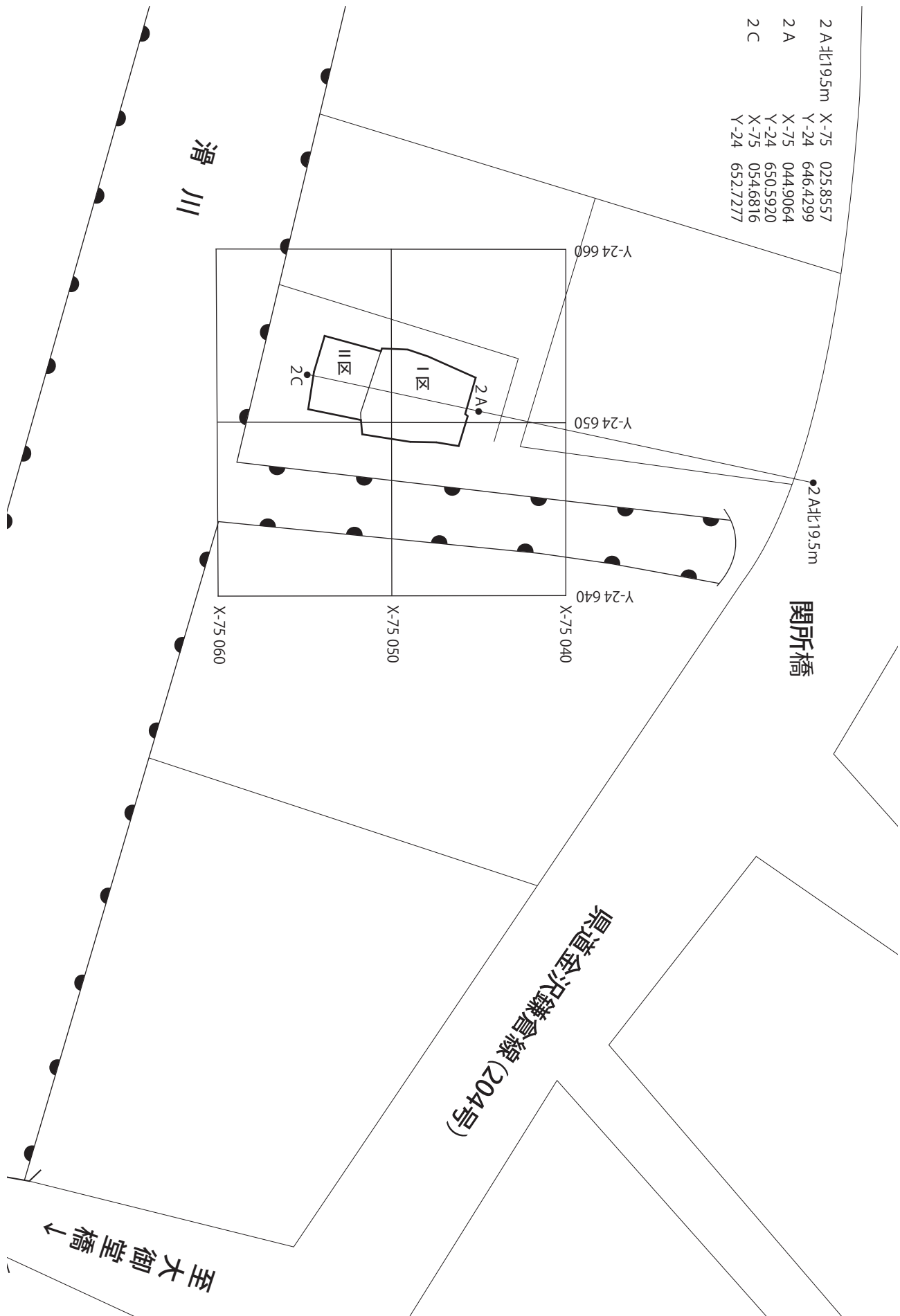


図3 調査区設定図 (1/300)

2 A (調査区北側)	X - 75 044.9064	Y - 24 650.5920
2 C (調査区南側)	X - 75 054.6816	Y - 24 652.7277

3. 調査の経過

調査は7月11日にI区表土を重機掘削して始まり、8月24日に機材を撤収して終了した。その間8月10日に、調査区を反転し、I区からII区に移行した。

第三章 調査結果

1. 土層堆積

近世層

現地表面は近代の造成によって調査区内でほぼ平坦になっているが、調査の結果、近世までは川に向かって傾斜していることが判明した。近世層は地表下50 (I区東壁南寄り) ~ 130cm前後 (II区西壁北寄り)、標高では8.40 (II区西壁北寄り) ~ 9.20 m (I区東壁南寄り) に現われる。

近世層は暗灰褐色砂質の耕作土で、全体に1 m前後の厚みがあり、中位の8.60 m前後に宝永火山灰の堆積を挟んで、近世を通じて一帯が畠作地であった様子が認められる。近世層最下部の標高はI区東壁北寄りで8.20 m、同南寄りで8 mと川に向かって若干の傾斜はあるものの、I区ではおおむね平坦といえる。しかしII区では6.70 mと急激に深くなり、大きく起伏を持つようになるので、ほぼI区の辺りが畠作の南限だとみてよい。

中世層

上述近世層の最下面以下が中世層となる。中世層はI区南半部から次第に滑川方向に下っていき、構成土も拳大~人頭大の礫層となるので、この辺りから河川敷となっていたことがわかる。層はきわめて厚く、掘削深度の2 mにいたってもなお下に続く。厚さは1.3 m以上ある。

土層断面の観察によれば、その間に大きく5時期程度の変遷を見出せ、さらに砂の堆積からみて細かな変遷は数多くある。しかし、おそらくひとたびの増水で河床の形状は簡単に变化したであろうから、それぞれの年代幅など詳細を把握することは難しい。大きな傾向として、下層から上層に行くにつれ、南方向に移行する様子が見える。すなわち北側の平地が滑川方向に拡張していく傾向にある。

出土遺物の年代からみれば、掘削した最下層から15世紀とおぼしい小型土師器皿が出土しており、総体で中世後期~近世初期(戦国時代)に属している。上述のように、深度規制により2 m以下は掘削が及んでおらず、中世前期の詳細は窺いにくい。砂礫層はさらに下に続いているので、相当早くから調査地点が河川敷であったことがわかる。

2. 各説一調査面と出土遺物

上述の数多い河床面について、調査時には砂層の堆積等を目安として9時期に分けた。しかし河川という、降雨量など自然条件に大きく作用されるであろう場の性格から、堆積土は局所的な変化を示し、I・II区間の層位は整合的に連関しないことが少なくない。したがって、ここに示した河床面は、実際のときどきのそれを忠実に反映しているとは言い難い。また、層それぞれの詳細な年代や存続期間などについても不明とせざるをえない。

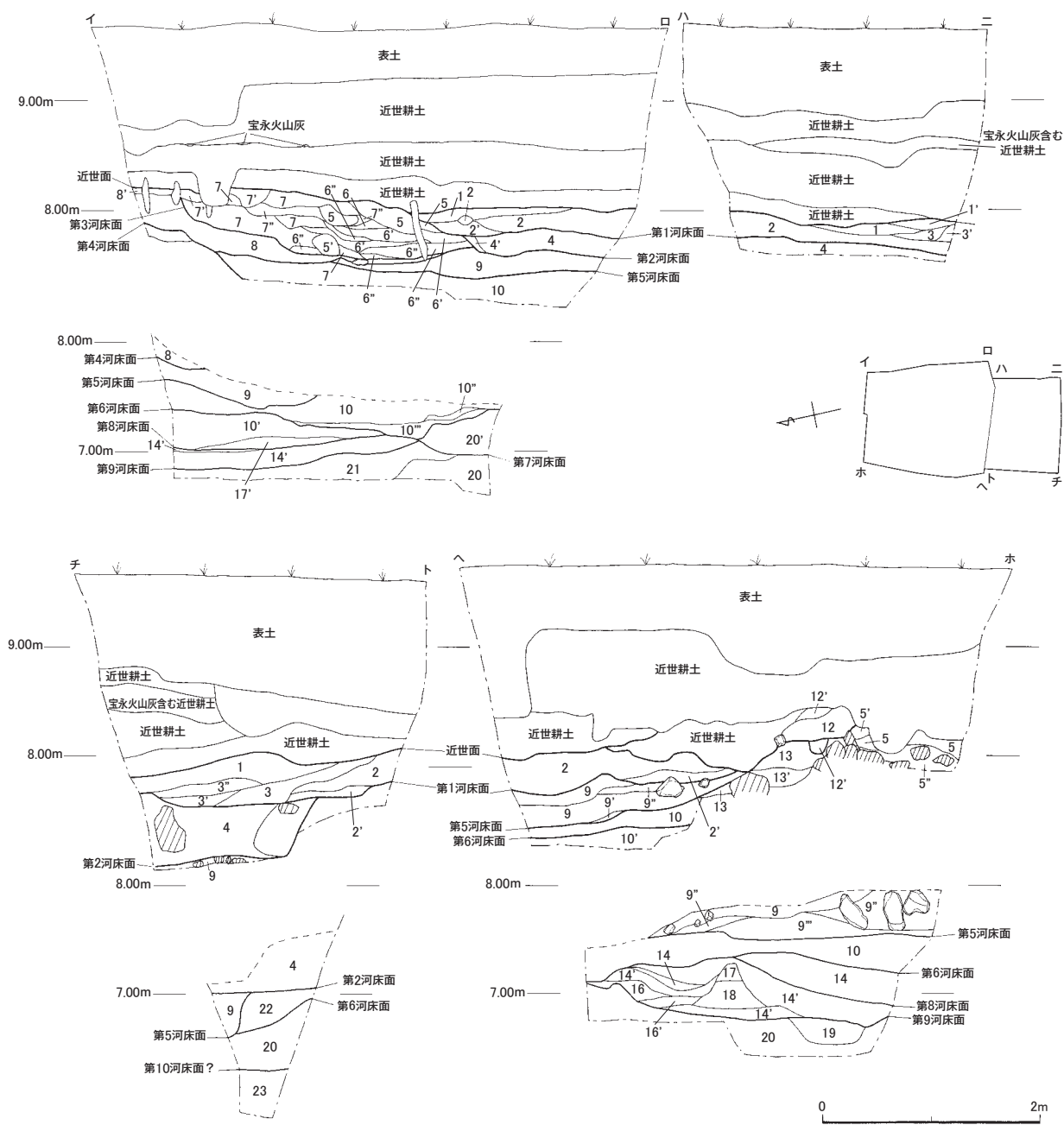


図4 調査区壁土層図

図4 土層説明

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 暗灰褐色砂質土 2. 暗灰色砂質土 しまり良い 2'. 暗灰色砂質土 きめ細かい川砂 3. 暗灰褐色砂質土 3と4の混土 4. 灰黄褐色破碎泥岩層 4'. 灰黄褐色破碎泥岩層 4より砂多い 5. 暗灰色砂質土 微細な礫含む 5'. 明灰色砂質土 泥岩粒子を多く含む 5''. 明灰色砂質土 全体に粒子粗い 6. 暗灰黄色砂質土 6'. 暗灰黄色砂質土 ややしまり良く、7の小塊混入 6''. 暗灰黄色砂質土 7の小塊多い 6'''. 暗灰黄色砂質土 7との混土 7. 黒褐色強粘質土 泥岩小粒子含む、鉄分多い | <ol style="list-style-type: none"> 7'. 暗灰褐色強粘質土 7''. 黒褐色強粘質土 8. 暗灰黄色砂層 河床堆積土 9. 黄褐色礫層 水磨した礫多い、黒色砂多く鉄分の沈澱みられる、一時の河床 9'. 暗灰黄色砂層 川砂層、黒色砂粒含む 9''. 灰色砂層 9'''. 9の中に大型泥岩が含まれている 10. 暗褐色砂礫層 水磨した礫多い、黒色砂多く鉄分の沈澱みられる、一時の河床 10'. 暗褐色砂礫層 黒色土塊含む 11. 暗茶褐色砂礫層 水磨した礫多い、遺物含む、一時の河床 11'. 暗褐色砂礫層 水磨した礫多い、一時の河床 12. 灰色砂質土 白い泥岩小塊多く含む |
|--|---|

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 12'. 灰色砂質土 近世耕土との混土 | 17. 暗灰黄色砂層 14とほぼ同土 |
| 12". 灰黄色砂礫層 やや黄味帯びる | 18. 黒灰色粘質土 植物遺体含む |
| 12'''. 灰黄色砂礫層 黒色粒子含む | 19. 黒灰色粘質土 植物遺体含まず、地山ブロック |
| 13. 灰黄白色砂質土 | 20. 青灰色砂礫層 |
| 13'. 灰黄白色砂質土 大粒泥岩含む | 21. 暗青灰色砂層 |
| 14. 暗灰黄色砂層 粗い粒子(1mm前後)の砂層 | 22. 赤茶色粘質土 褐鉄・砂粒を非常に多く含む、一部に黒茶色粘土を層状に含む。しまり良い |
| 14'. 暗灰黄色砂礫層 5mm～1cm大の小円礫層、木質の遺存体多い | 23. 暗灰色粗砂 貝片を非常に多く含む、一部に磨滅した凝灰質砂岩片と泥岩片を含む、しまり良い |
| 14''. 灰黒色粘質土 木質遺存体多い | |
| 15. 暗灰色粘質土 | |
| 16. 暗灰黄色粘質土 泥岩と黒色粘質土の混土 | |
| 16'. 灰黄色粘質土 泥岩と黒色粘土の混土、16と同土だが色が違う | |

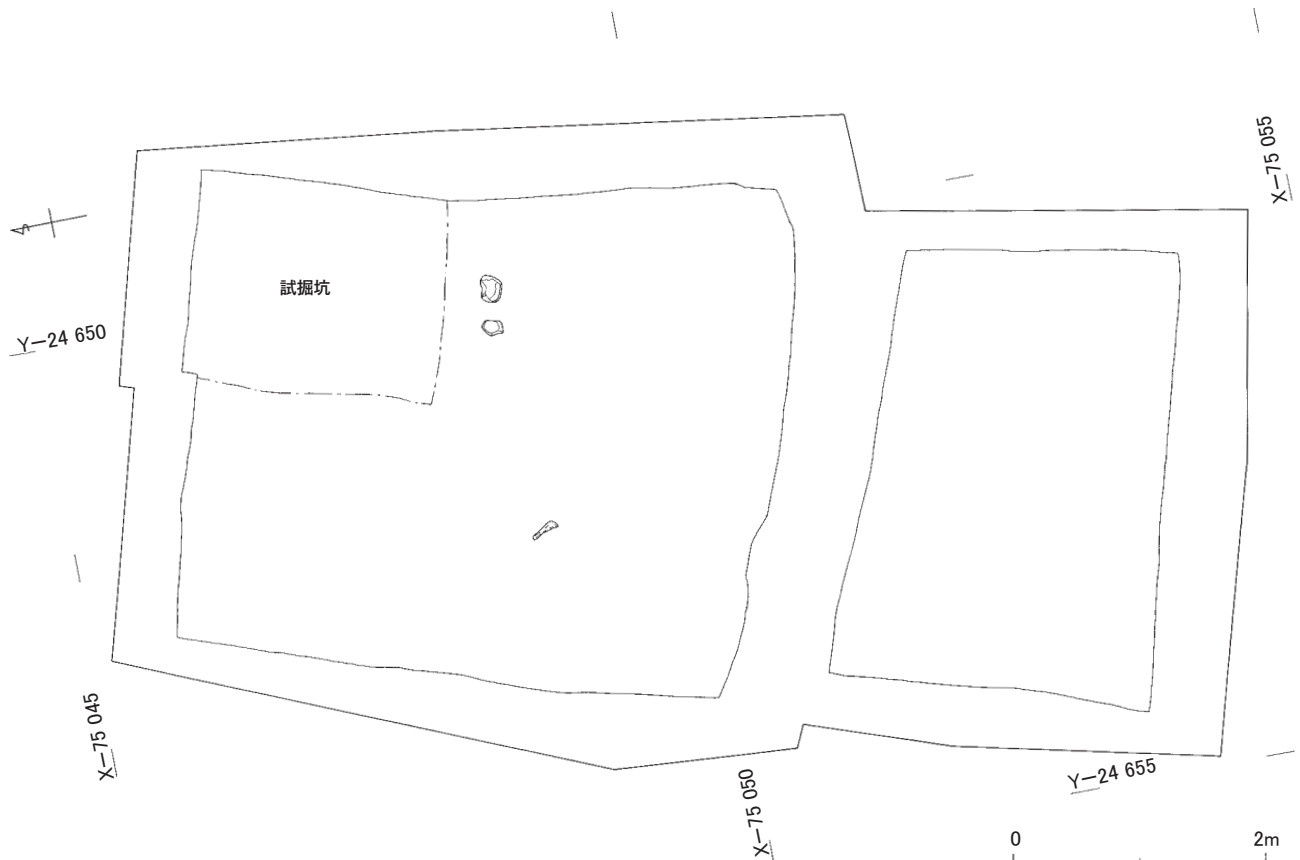


図5 近世面

近世面 (図5)

最低位面標高(Ⅱ区南壁): 7.85 m 最高位面標高(Ⅰ区北壁): 8.20 m

出土遺物: 凶化可能遺物なし

特記事項: ほぼ8.60 m前後に宝永火山灰層があり、その上下は暗褐色砂質の耕作土となっている。宝永層下は30～40cmの厚みがあり、江戸時代前期頃からここが畑であったことがうかがえる。

第1河床面 (図6)

Ⅰ区北半部においては近世の耕作土を除去するとすぐに砂層や暗～黒褐色の粘質土が現れ、水流の作用によるものとみて、一時的な河床であると判断した。南半部においてはやや傾斜が急になって、近世耕作土下に厚さ40cmほどの砂層が堆積しており、その中層に一時期の河床を確認した。Ⅱ区ではこの河床面は西から東に向かってだんだん低くなっていき、東壁中央部で最低位となる。あるいは二階堂川の領域に入っているのだろうか。

最低位面標高(Ⅱ区東壁): 7.45 m 最高位面標高(Ⅰ区北壁際): 8.20 m

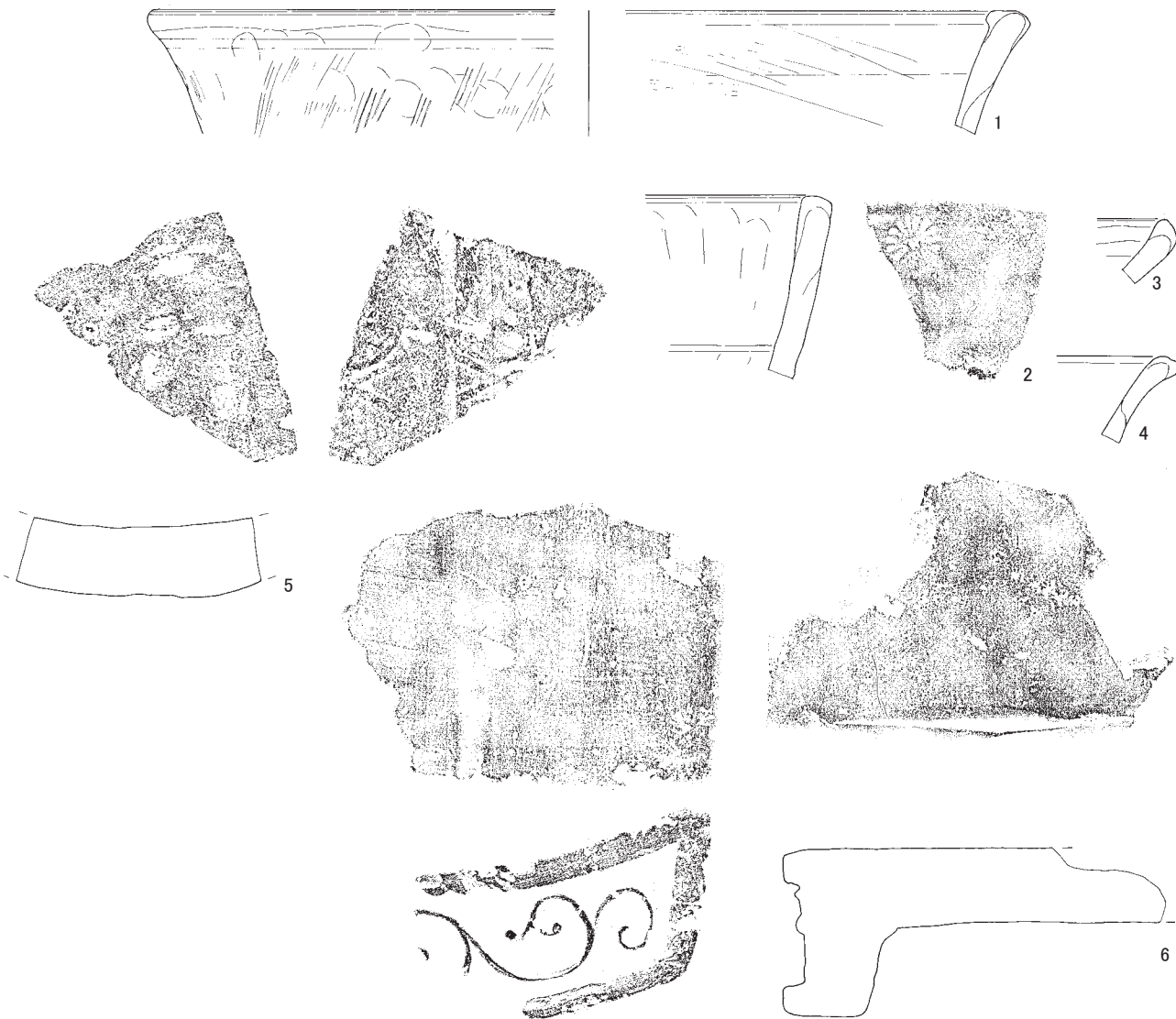
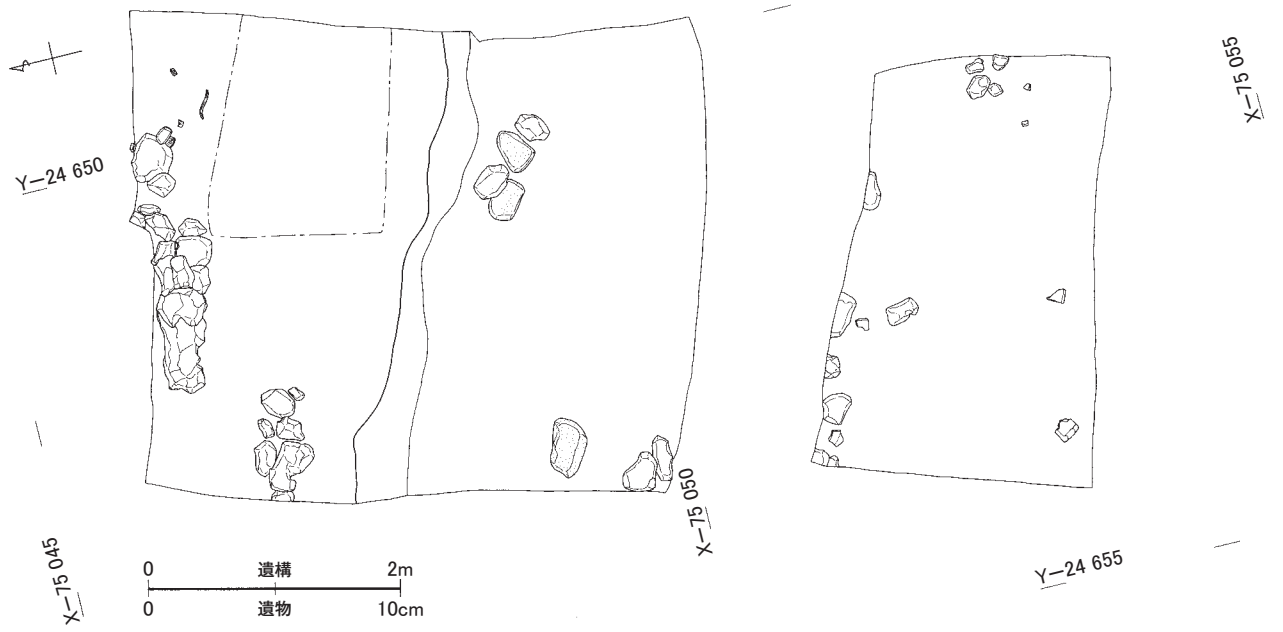


图6 第1河床面，同出土遺物

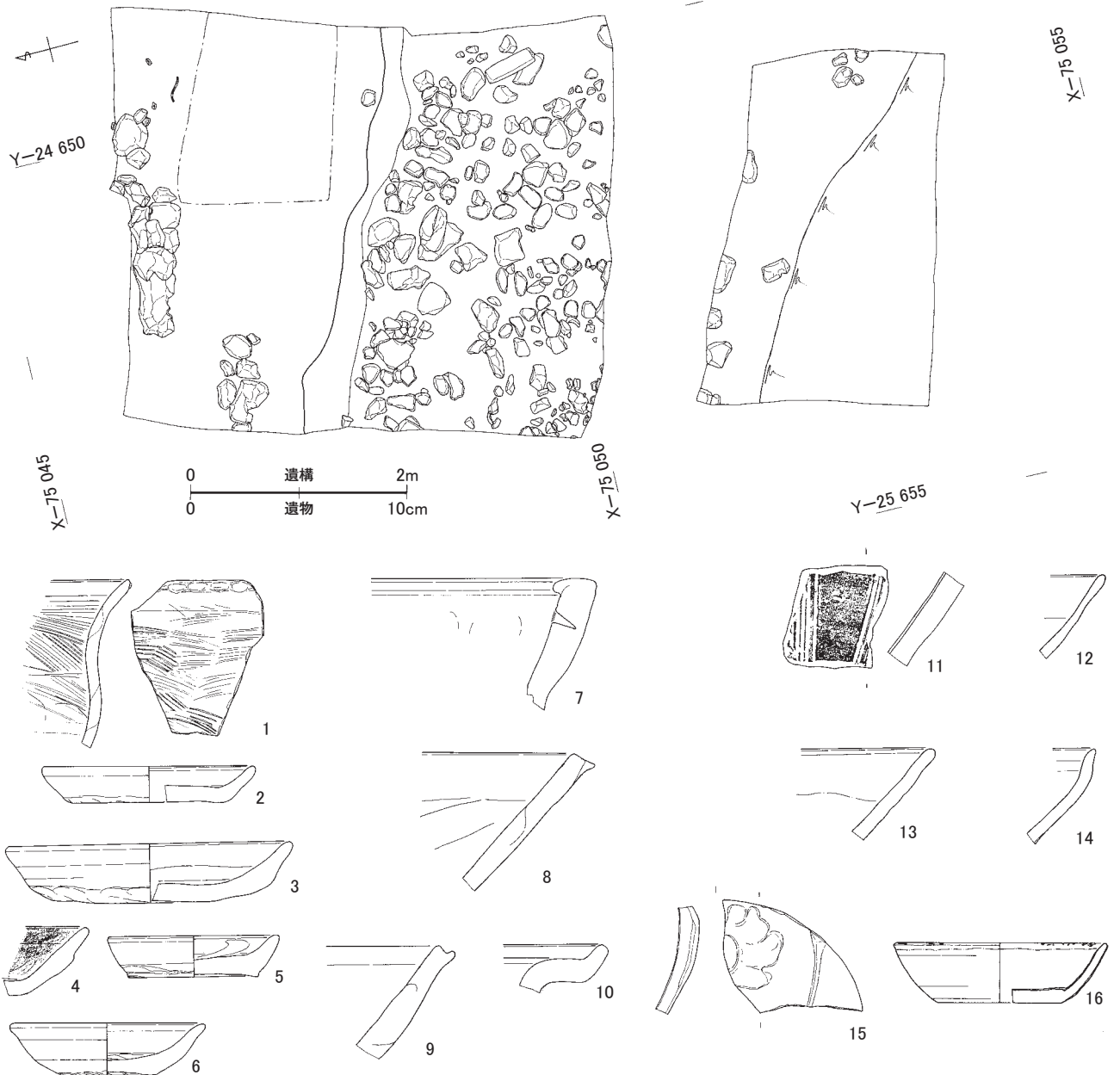


図7 第2河床面, 同出土遺物(1)

出土遺物(図6)：瓦器火鉢(1・2)・常滑片口鉢I類(3)・瀬戸片口鉢(4)・平瓦(5)・軒平瓦(6)

特記事項：呈示した出土遺物は全体に鎌倉時代前期の様相を示すが、下層との相対的な年代関係から、本河床面は中世末期頃とみられる。

第2河床面(図7)

I区東壁南半部の第1河床面下には、厚さ20cmほどの砂層がある。これを除くと拳大～半人頭大の泥岩や凝灰岩の層となる。厚さ20cmほどの砂層は川底の堆積土であろうと考えられるので、その下の泥岩と凝灰岩層を河床とした。II区南半部は緩く下る。

最低位面標高(II区東壁中央部)：7.60 m 最高位面標高(I区北壁際)：8.20 m

出土遺物(図7～9)：弥生土器甕(1)・土師器皿手づくね種小型(2)・土師器皿手づくね種大型(3・4)・

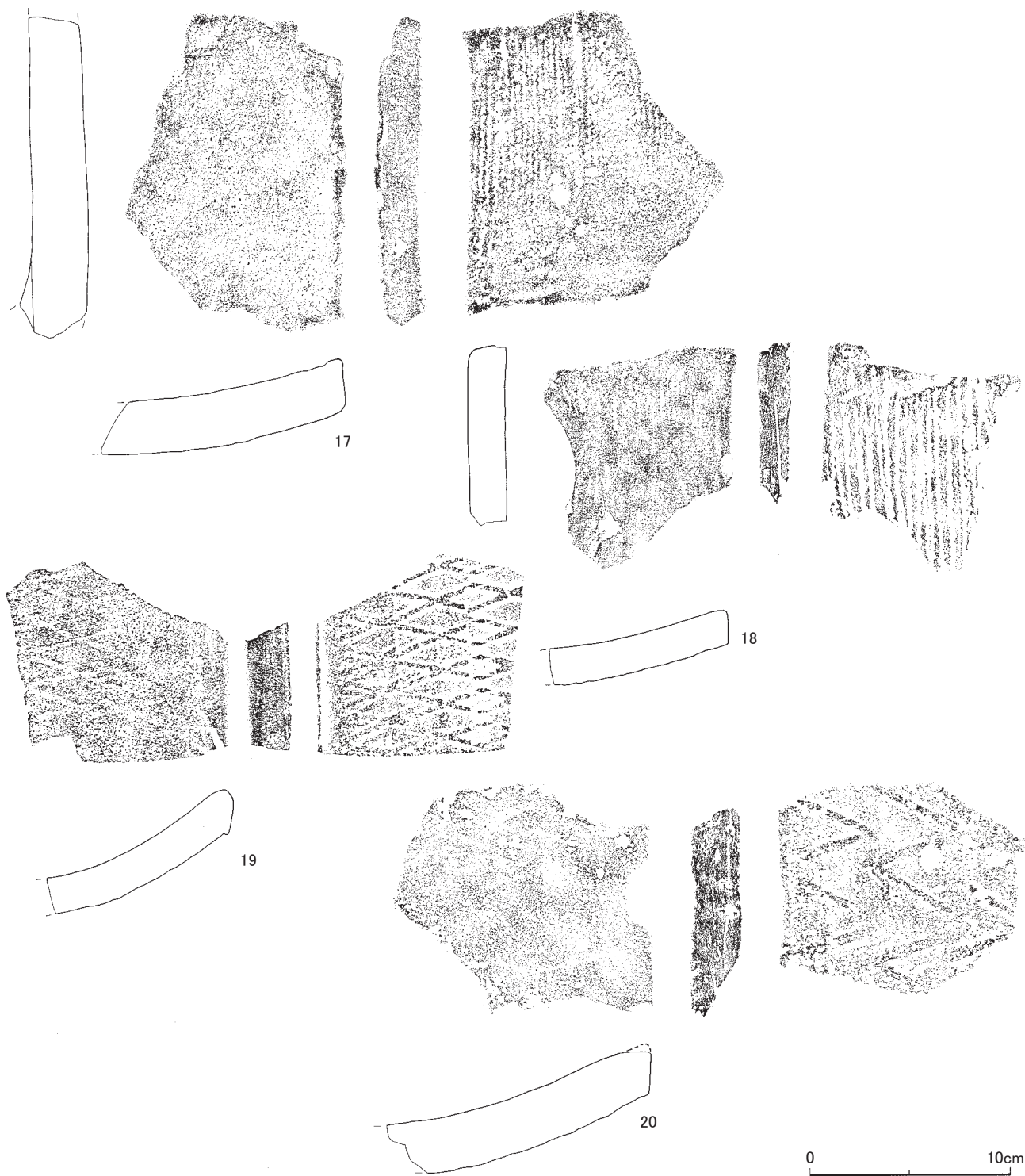


図8 第2河床面出土遺物(2)

土師器皿R種小型(5・6)・瓦器火鉢(7)・産地不明片口鉢(8)・常滑片口鉢Ⅱ類(9)・常滑甕(10)・備前播鉢(11)・東濃型山茶碗(12)・瀬戸鉢(13)・瀬戸黒褐釉天目型碗(14)・竜泉窯青磁貼付牡丹文水指(15)・白磁口はげ皿(16)・軒平瓦(17)・平瓦(18～20)・丸瓦(21)・滑石印判(22)・柱状石(23)

特記事項：この時点で河岸が南にせり出し、平地が拡張されている。次述の第3河床面の上を地形して平坦面を拡げている。当地点における画期ということが出来る。遺物は鎌倉時代前期を含むが、これも河川特有の混入であり、ここでは新しい遺物の年代に依拠して15～16世紀前後と考えたい。弥生の甕(1)は近在の大倉幕府周辺遺跡群内の中期後半集落から流出したものだろう。

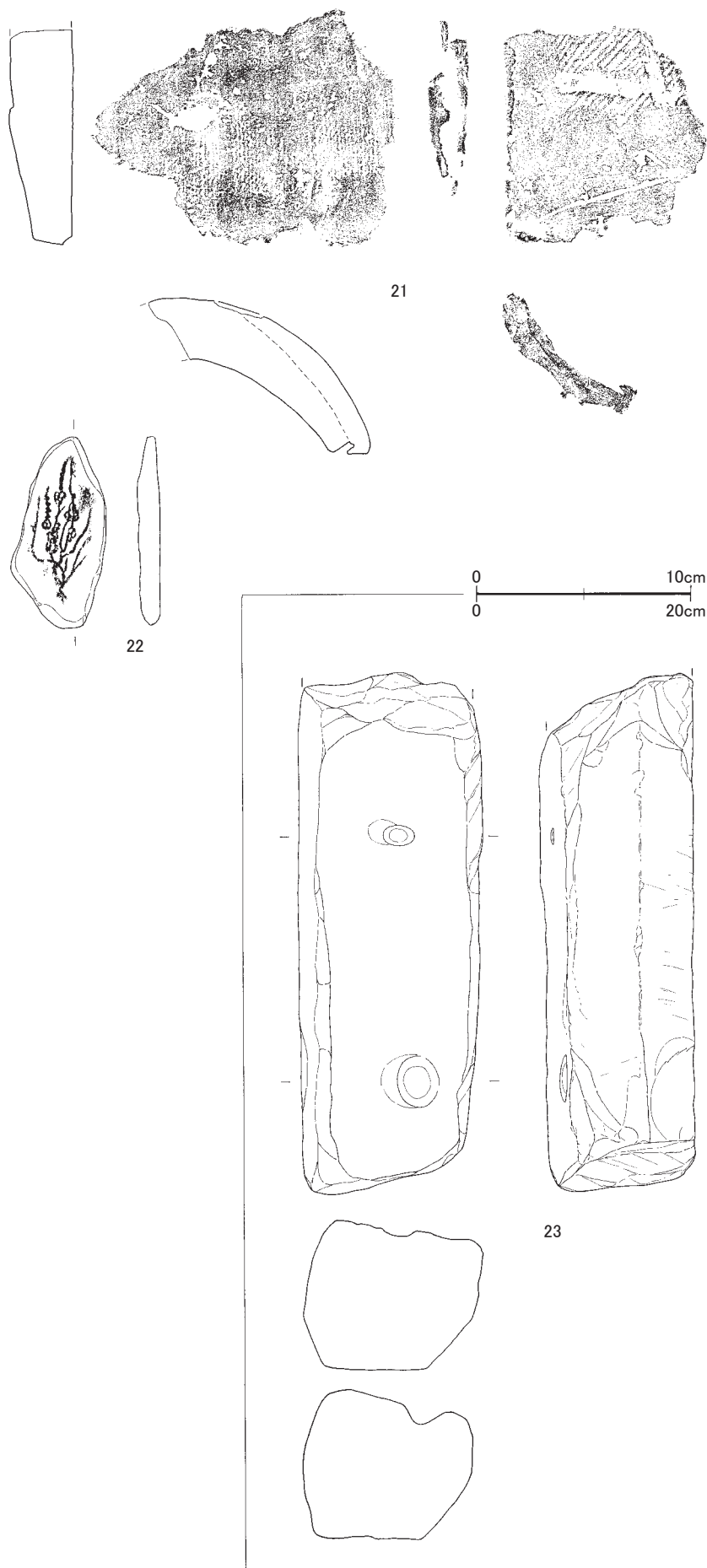


図9 第2河床面出土遺物(3)

第3河床面(図10)

I区北半部の近世面および第1・第2河床面下に、暗灰色土や黒褐色粘質土の入り混じった大きな層の塊があった。この層は最大で60cmの厚みがあり、細かく分層することができるが、層と層の間に砂など流水の痕跡をとどめるものが観察できないので、一括して人為的に客土されたものと判断した。すなわち、繰り返しになるが、このとき地形^{じぎょう}によって河岸が南側に移行し、北の平地側が拡がったことになる。この地形層を除くと水磨した人頭大の泥岩や凝灰岩の散在する層が現われ、これを3番目の(第3)河床面とした。調査区東壁では北から50cmほどのところで落ちが始まり、途中で上層の第2河床面に削られて消失する。II区ではほぼ平坦に推移する。

最低位面標高(II区西壁際): 7.54 m

最高位面標高(I区北壁際): 8.16 m

出土遺物(図10): 石製五輪塔水輪(1)

特記事項: 五輪塔水輪は最大径が中位よりやや上にあり、14世紀中葉~同第3四半期頃まで遡らせることは可能である。しかし層そのものはやはり15世紀以降に属するとみたい。I区の北壁際から急速に落ち始め、II区では途中から50cmを超える段差を持つようになる。

第4河床面(図11)

第3河床面を構成する人頭大の泥岩・凝灰岩層は最大で50cmの厚みがあり(II区西壁南寄り)、これを除くと新たに河床が現れる。これを「第4河床面」とした。I区北壁際から落ち始め、この辺が河岸

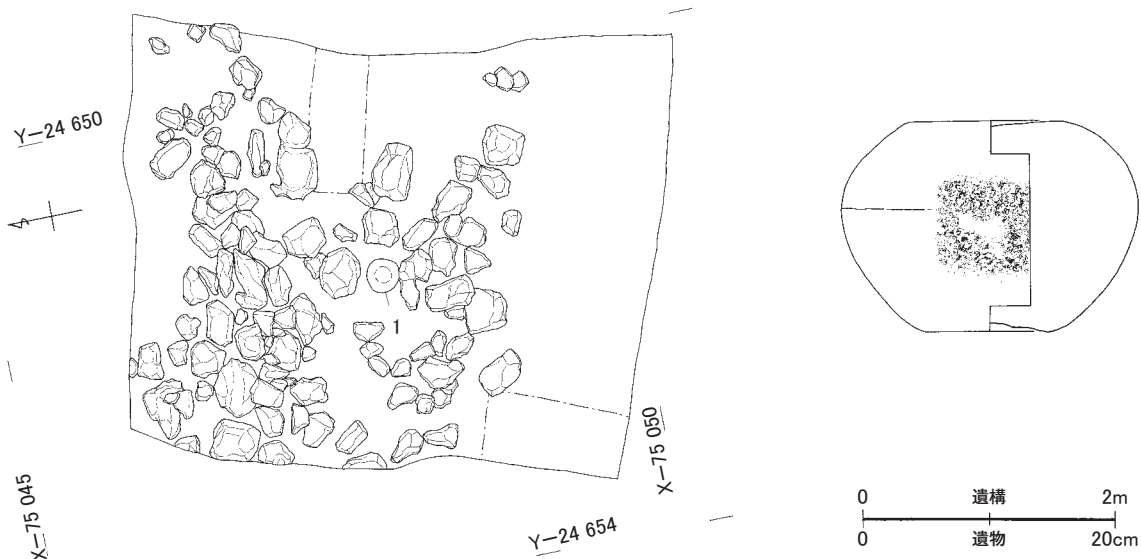


図10 第3河床面, 同出土遺物

であったことがわかる。暗灰褐色の砂が堆積しており、その下に第4河床面がある。この面は露頭部分が少なく、次の第5河床面と併せて呈示する。

最低位面標高(Ⅱ区西壁): 7.51 m 最高位面標高(Ⅰ区北壁際): 7.90 m

出土遺物: 凶化可能遺物なし

特記事項: 第5河床面をⅠ区中央部で一部削り取ってわずかに上方に向かい、第3河床面に削られている。全体に土の残りが少ないため、出土遺物にこの面からのものは乏しい。

第5河床面(図11)

Ⅰ区北半部の第4河床面底部には暗灰褐色の砂が堆積している。また、同区南半部には黒色の砂を多く含んだ黄褐色の礫層がある。両者を除くと現れる水磨した暗褐色の半人頭大の礫層上面を、一時の河床面と判断した。Ⅰ区北半部は第4河床面に削られている。Ⅱ区でも半人頭大の礫の層となる。

最低位面標高(Ⅱ区西壁): 6.88 m 最高位面標高(Ⅰ区北壁際): 7.52 m

出土遺物(図11～13): 弥生土器甕(1)・土師器皿手づくね種小型(2～4)・土師器皿手づくね種大型(5)・土師器皿口クロ種小型(6・7)・同前中型(8～10)・土師器皿転用摩耗片(11)・土師器片転用円盤(12)・尾張山茶碗系片口鉢(13)・尾張型山茶碗(14)・常滑片口鉢Ⅱ類(15～18)・常滑片口鉢Ⅱ類転用摩耗陶片(19・20)・常滑甕(21～23)・常滑甕転用磨耗陶片(24)・備前播鉢(25・26)・瀬戸卸し皿(27・28)・瀬戸灰釉皿(29)・瀬戸黒褐釉天目型碗(30)・瀬戸灰釉卸し目付き鉢・瀬戸灰釉瓶子(32)・瀬戸? 黒褐釉瓶子(33)・瀬戸美濃鉄釉皿(34)・瀬戸美濃鉄釉播鉢(35)・竜泉窯青磁画花文碗(36)・竜泉窯青磁鎗蓮弁文折縁鉢(37)・竜泉窯系青磁無文碗(38)・平瓦(39～43)・丸瓦(44)・滑石温石(45)・砥石仕上げ砥(46)

特記事項: Ⅱ区の壁断面観察から西に向かって傾斜していることがわかる。弥生土器を除いても、出土遺物には鎌倉時代初期から戦国時代まで含まれているが、年代はこれも15世紀以降であろう。

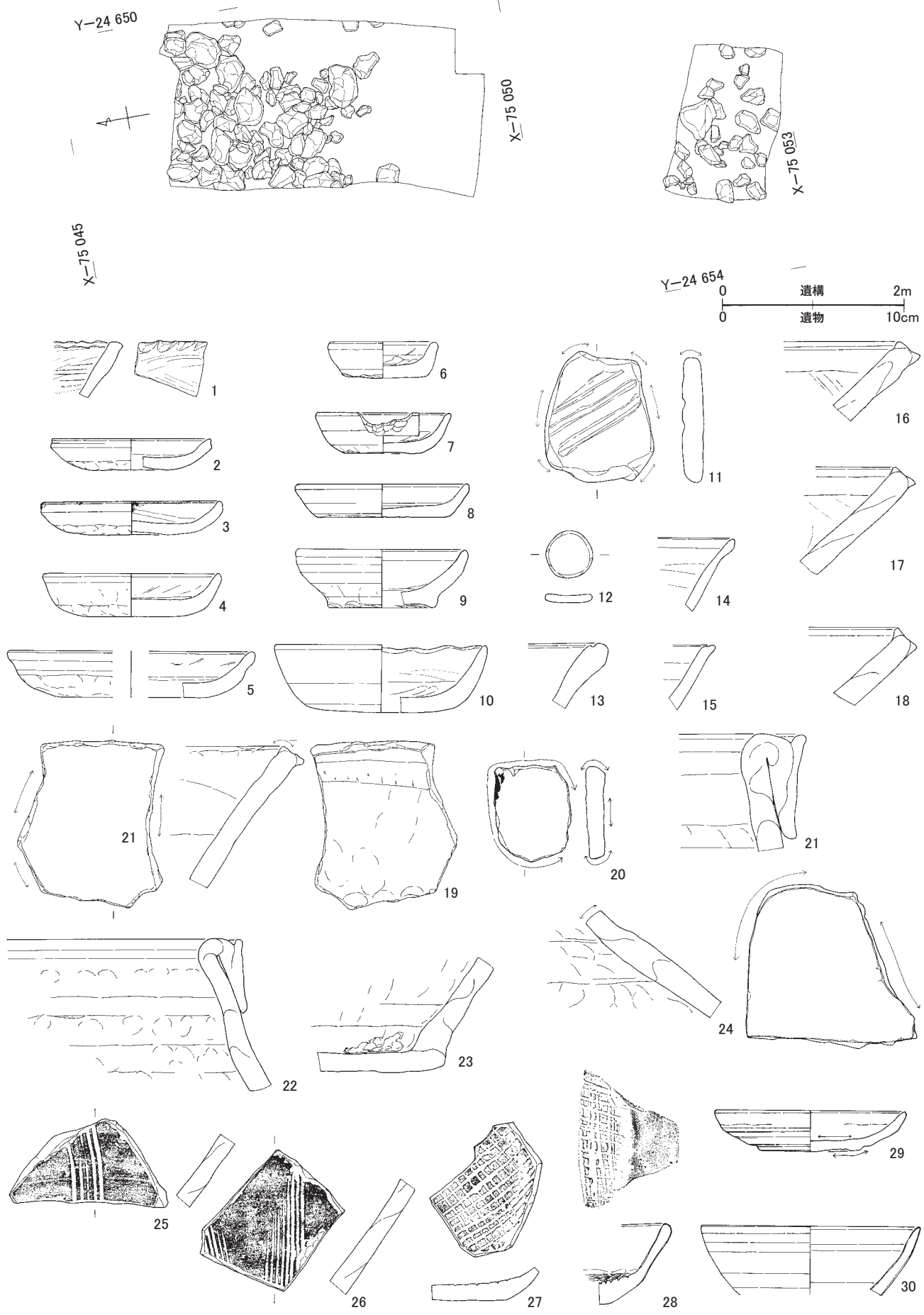


图11 第4·5河床面，第5河床面出土遺物(1)

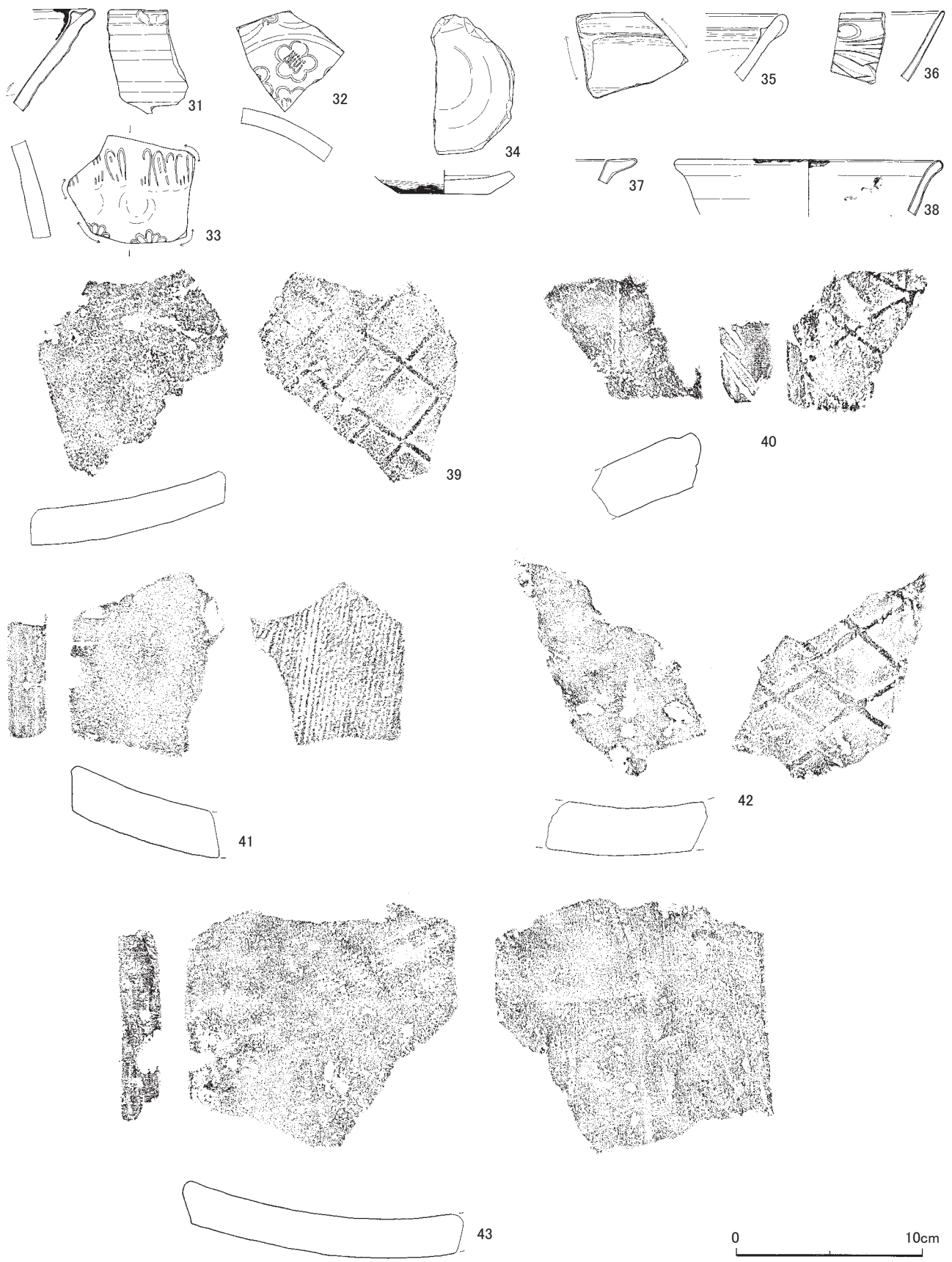


图12 第5河床面出土遺物(2)

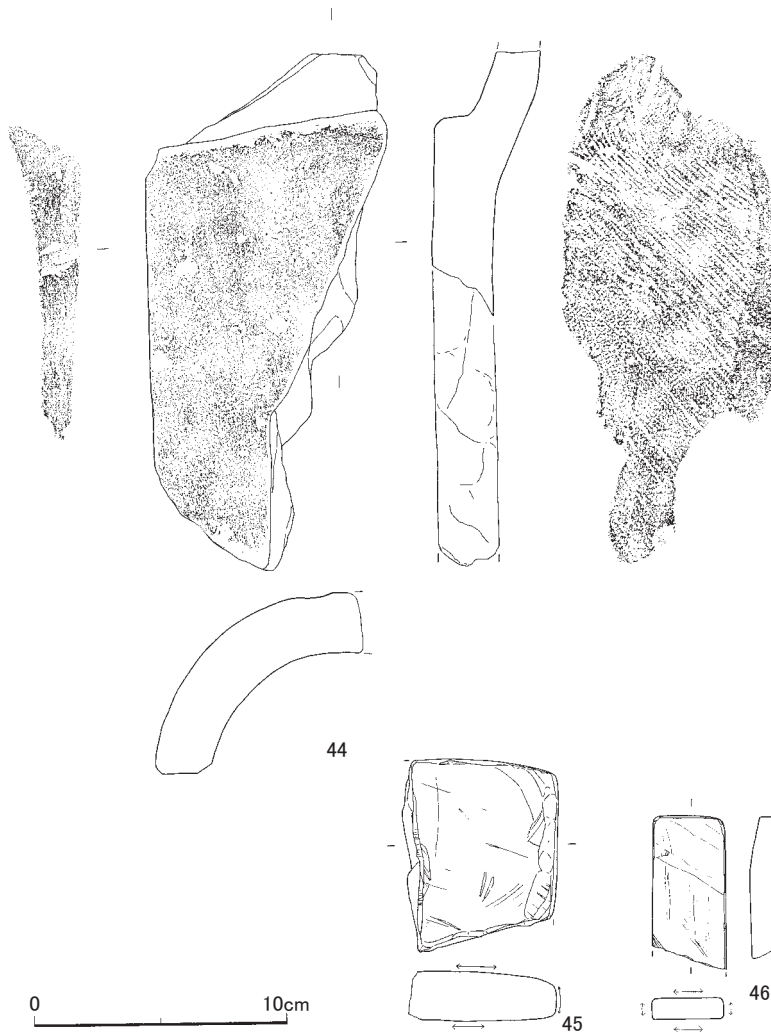


図13 第5河床面出土遺物(3)

第6～8河床面(図14～18)

Ⅱ区においては第5河床面以下は幅(南北)1m×長さ2mのきわめて狭い調査区となった。この中で断面観察によって3枚の河床面らしき砂層・砂礫層が観察でき、第6～第8の河床面とした。ただし締まりの悪い礫層のため崩落の危険性があり、法面の傾斜角を大きくとった。そのため調査区は一層狭くなった上大量の湧水に阻まれ、面毎の平面実測は断念せざるを得ず、第7・第8河床面として一括して呈示する(図16)。

また出土遺物については、河床面毎に分離できたもの(図14～16)とできなかったものがあり、後者は一括採集を余儀なくされた。

第6河床面出土遺物(図14・15):土師器皿手づくね種小型(1)・土師器皿ロクロ種小型(2～4)・土師器皿ロクロ種中型(5)・土師器皿ロクロ種大型(6・7)・渥美甕(8)・常滑片口鉢Ⅰ類(9)・常滑片口鉢Ⅱ類(10～14)・常滑甕(15・

16)・瀬戸緑釉小皿(17)・竜泉窯青磁蓮弁文碗(18)・重圈文軒平瓦(19)・平瓦(20～22)・丸瓦(23)・滑石鍋(24)・不明石製品(25)・石(26)

特記事項:土師器皿ロクロ種の2・5に14世紀第3四半期～15世紀初頭の要素がある。鎌倉時代中期に遡るものもあるが、全体的には14世紀代を主体としている。Ⅱ区のみでの検出なので北側の河岸は検出できなかったが、川の中であることは間違いない。

第3～第8河床面出土遺物(図17):土師器皿手づくね種小型(1)・尾張型山茶碗(2)・常滑片口鉢Ⅱ類(3)・竜泉窯青磁碗(4)・高麗青磁瓶子(5)

第6～第8河床面出土遺物(図17・18):縄文土器深鉢(6・7)・土師器甕(8・9)・土師器皿ロクロ種小型(10・11)・土師器皿ロクロ種大型(12・13)・瓦器火鉢(14)・瓦器製品(15)・東遠型山皿(16)・常滑片口鉢Ⅰ類(17)・常滑片口鉢Ⅱ類(18)・常滑甕(19)・常滑甕転用磨耗陶片(20)・備前播鉢(21)・瀬戸灰釉四耳壺(22)・瀬戸灰釉碗(23)・瀬戸灰釉大平鉢(24・25)・瀬戸灰釉瓶子(26)・瀬戸灰釉小皿(27)・瀬戸灰釉碗(28)・竜泉窯青磁蓮弁文碗(29)・竜泉窯青磁無文碗(30)・竜泉窯青磁瓶(31)・竜泉窯青磁鉢(32)・平瓦(33・34)・砥石中砥(35)・硯(36)・石皿(37)

特記事項:遺物年代でいえば13世紀代のものは少なくないが、竜泉窯青磁30・31が14世紀後半以降、瀬戸灰釉の食器23・25・26が15世紀前半であり、全体的にはこれも14世紀後半～15世紀に主体があるとみていい。このときも調査地点は川の中にある。

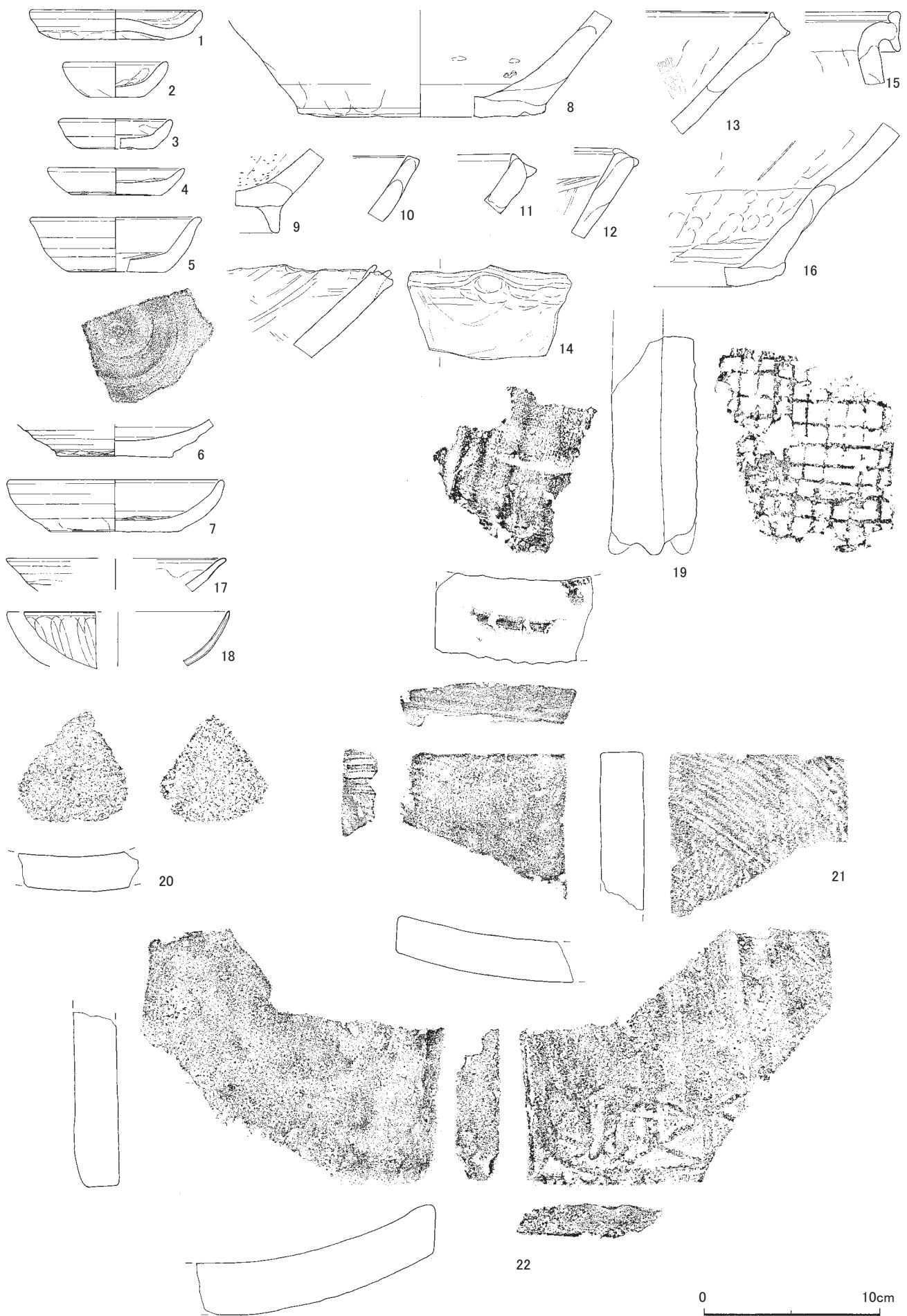


图14 第6河床面出土遺物(1)

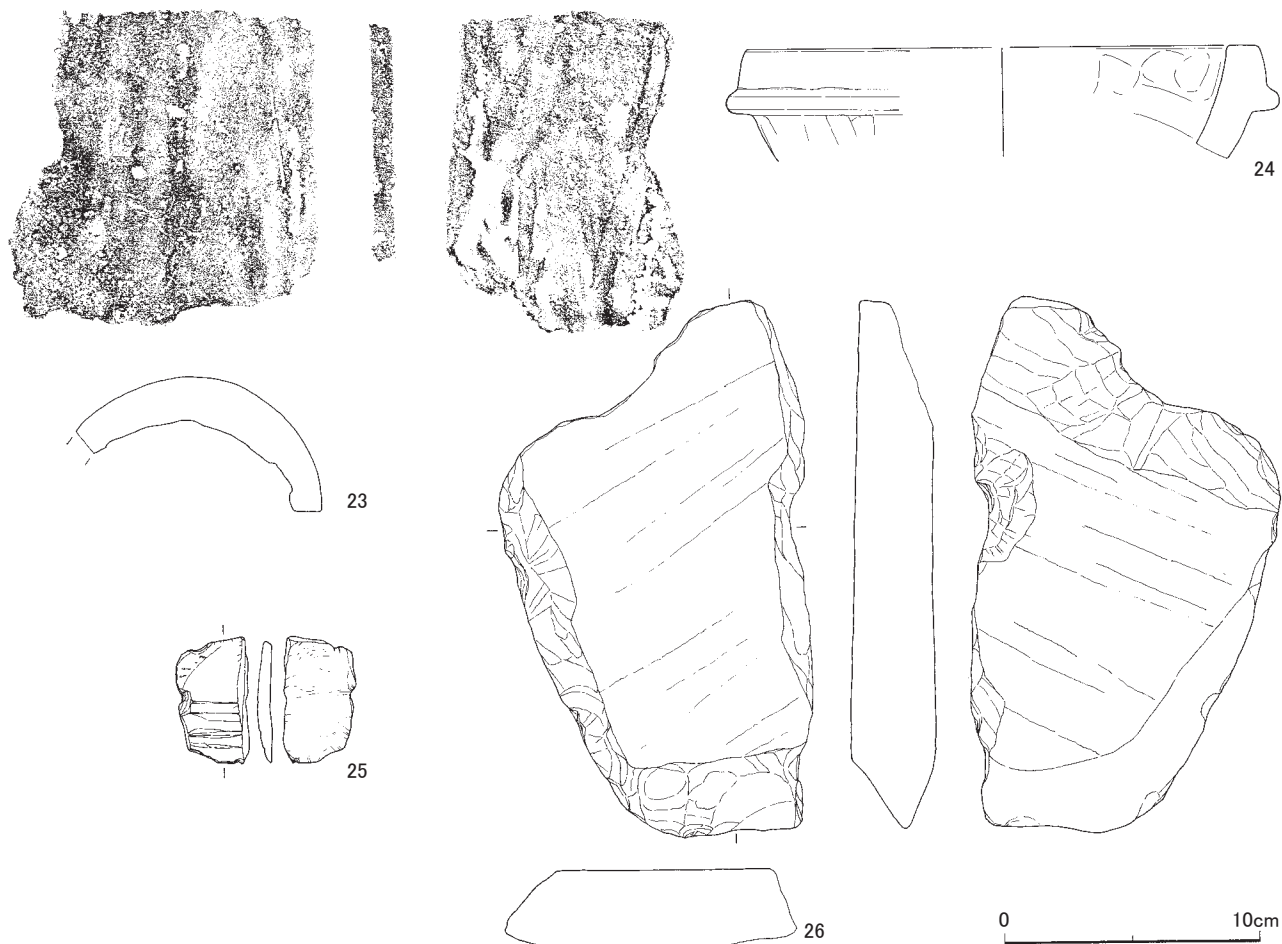


図15 第6河床面出土遺物(2)

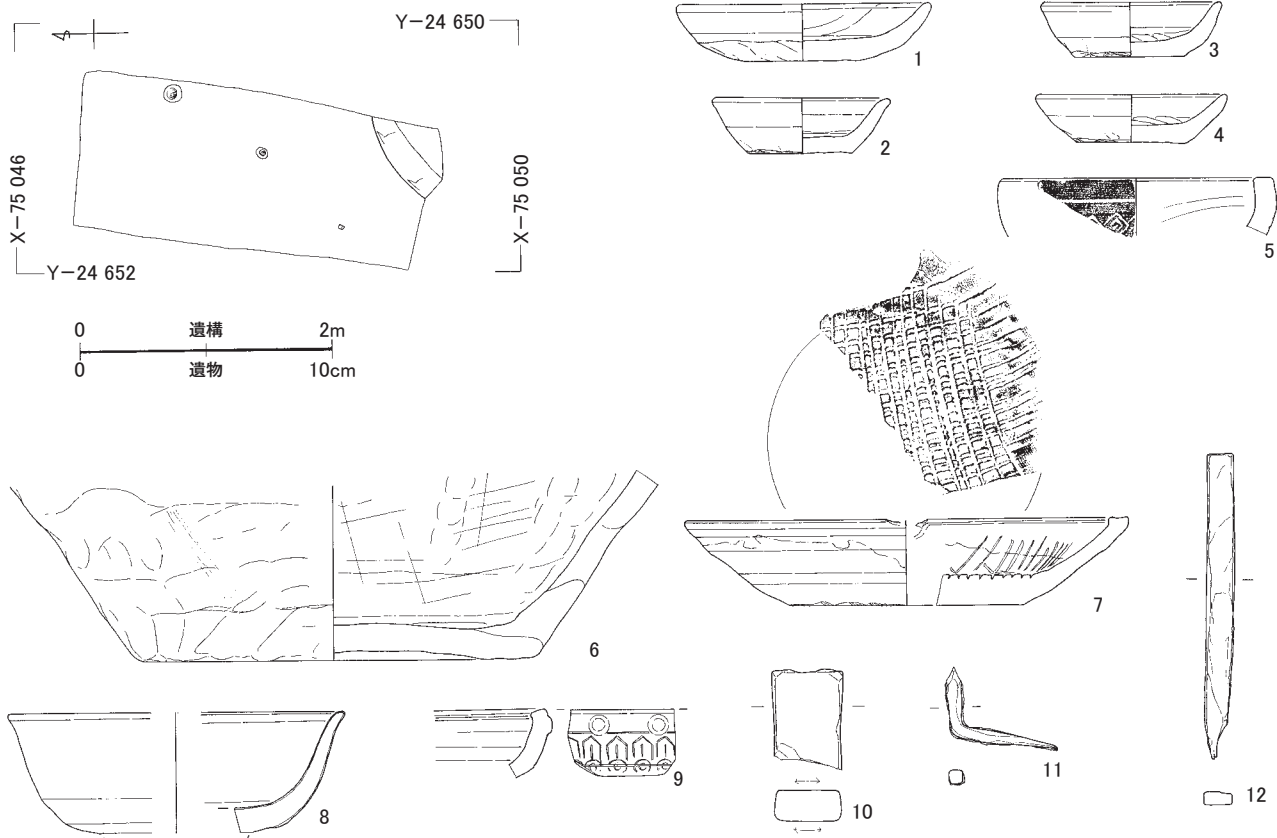
第7・8河床面(図16)

I区では、上述のように激しい湧水のためII区の6面に相当する面は確認できなかった。また第7・8面を分離することができなかったため、遺構図はここでは併せて呈示する。II区においてもI区の当該面に相当するものを平面的に分離しえなかった。南東隅に落込みがあるが人的な営為とは見えない。面上で2点の土師器皿ロクロ種が出土した。

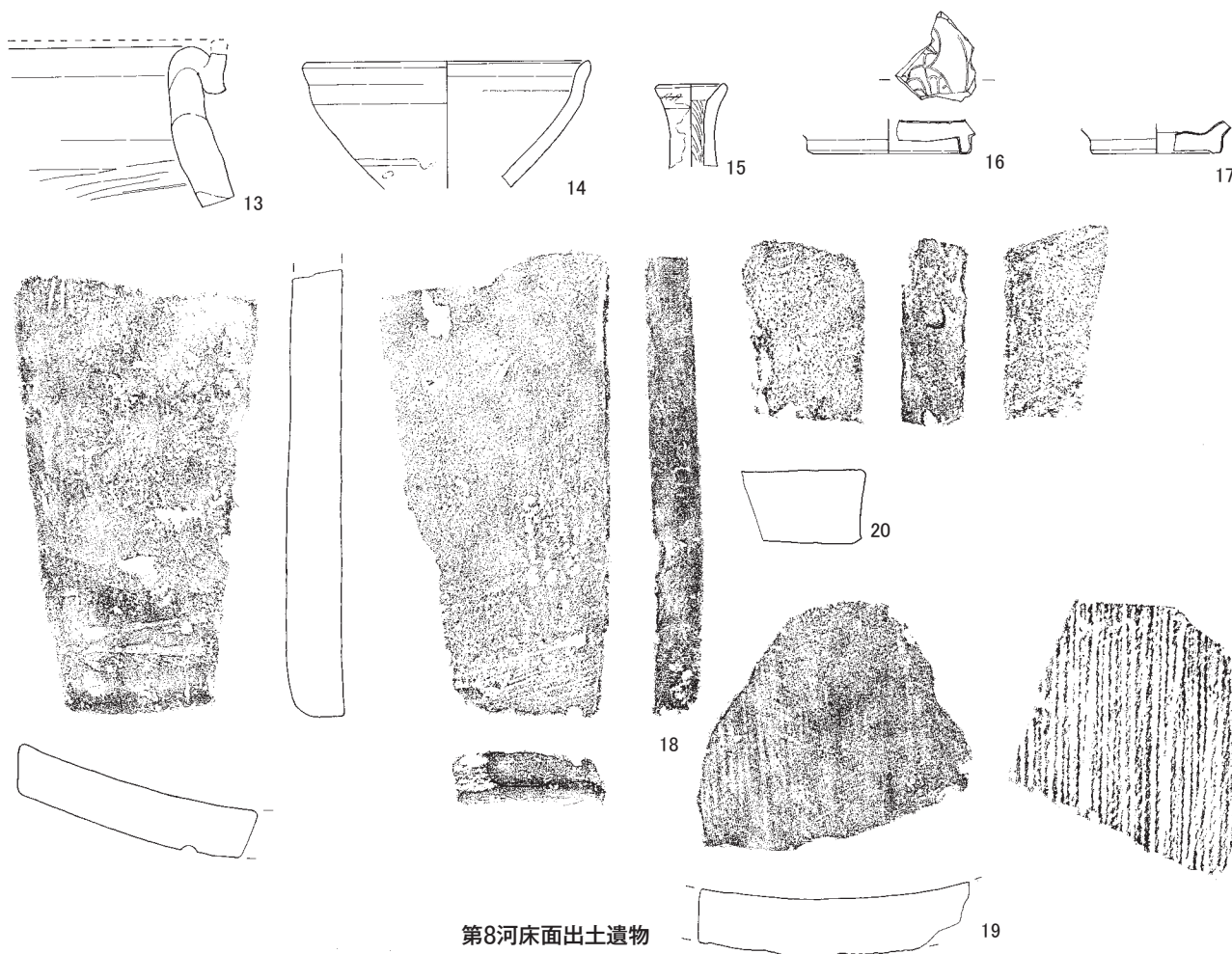
第7河床面出土遺物(図16):土師器皿手づくね種小型(1)・土師器皿ロクロ種小型(2~4)・瓦器香炉(5)・常滑甕(6)・瀬戸卸し皿(7)・瀬戸灰釉碗(8)・瀬戸灰釉香炉(9)・砥石中砥(10)・鉄釘(11)・鉄製品(12)
特記事項:14世紀前半~中葉頃か

第8河床面出土遺物(図16):常滑甕(13)・瀬戸黒褐釉天目型碗(14)・瀬戸灰釉仏花瓶(15)・竜泉窯青磁鉢(16)・青白磁碗(17)・平瓦(18・19)・東海系平瓦(20)

特記事項:17~20等は鎌倉時代前~中期の様相を持つが、13世紀末~14世紀前半か

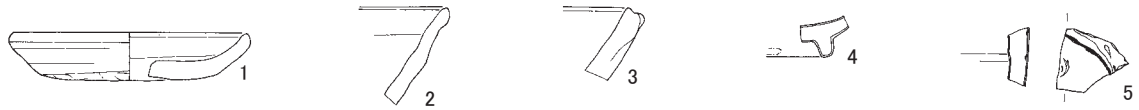


第7河床面出土遺物

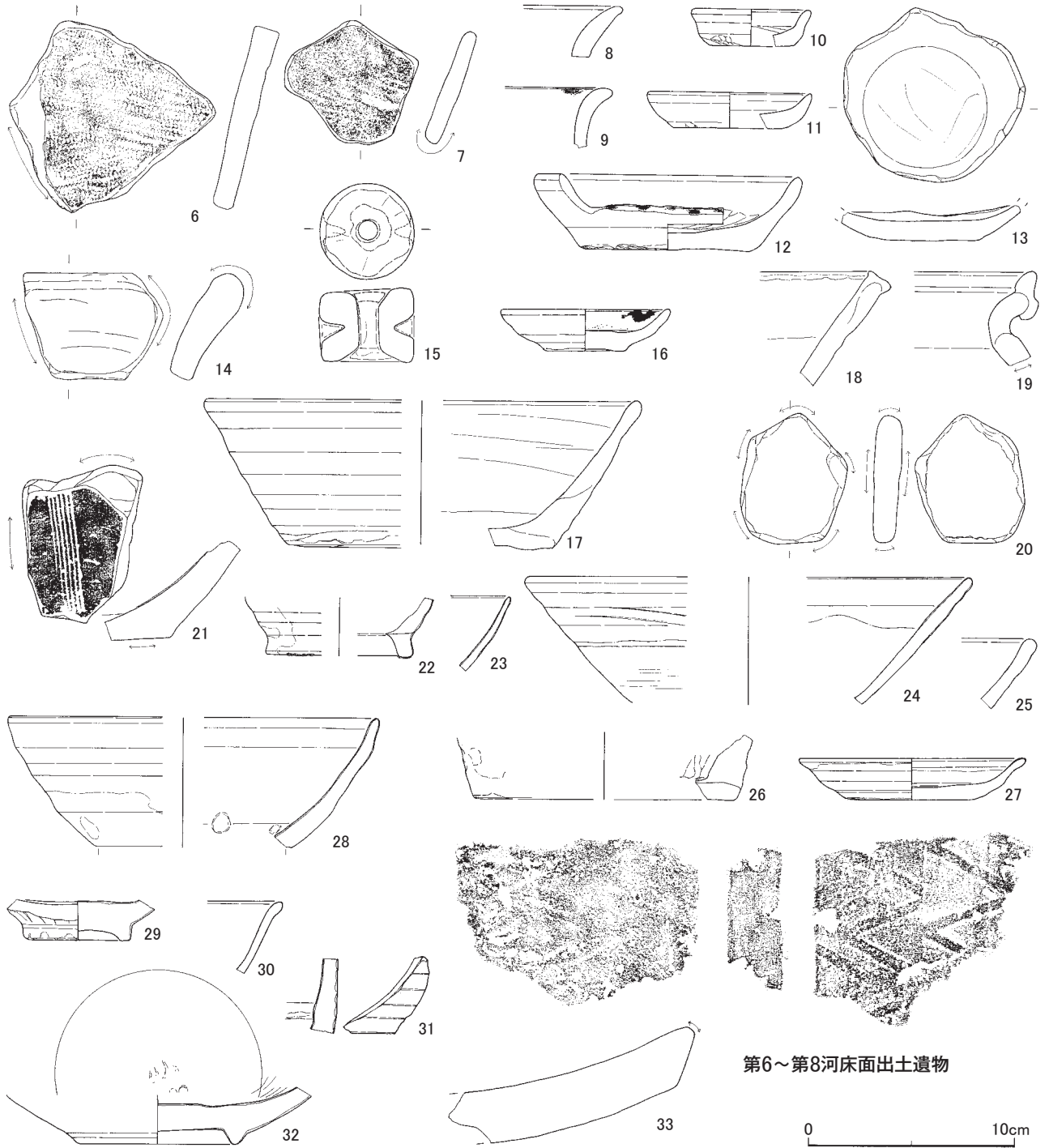


第8河床面出土遺物

图16 第7·8河床面, 同出土遺物



第3~第8河床面出土遺物



第6~第8河床面出土遺物

图17 第6~8河床面出土遺物(1)

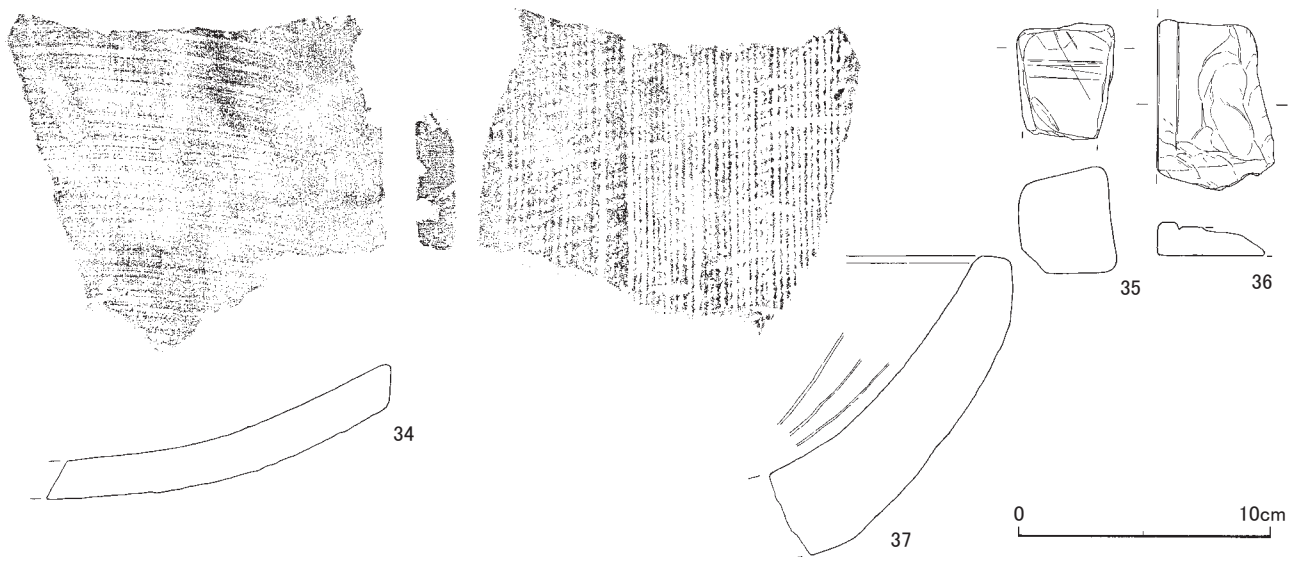


図18 第6～8河床面出土遺物(2)

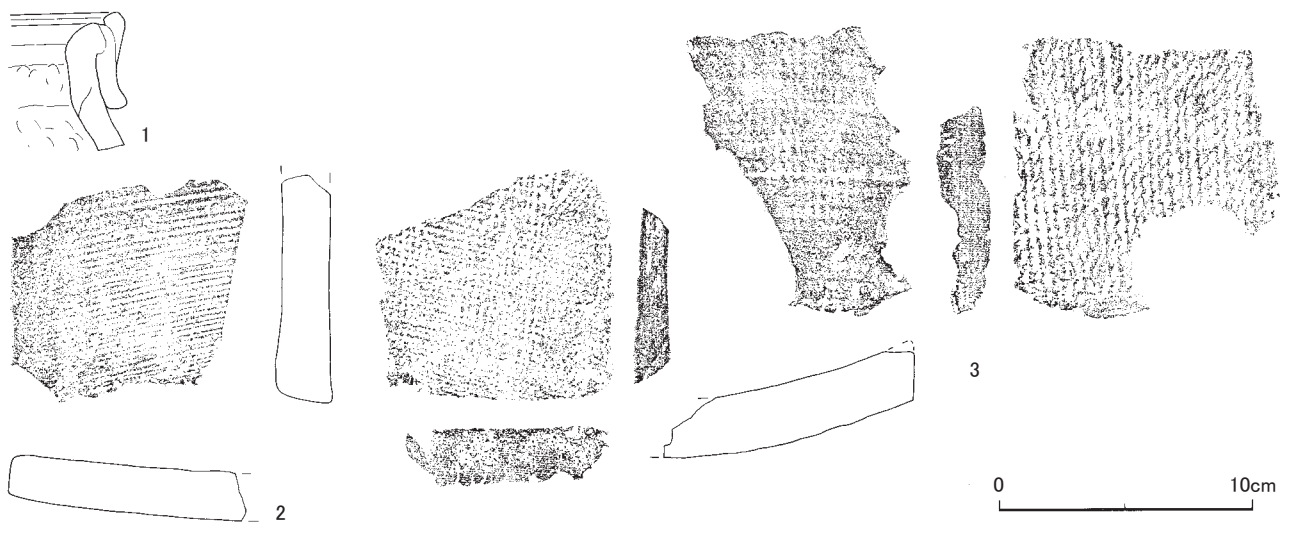


図19 第9河床面出土遺物



図20 第9河床面より下, 最終状況

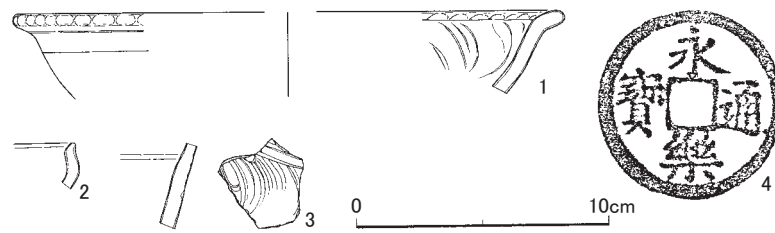


図21 表採遺物

第9河床面

第8河床面の下で礫層の様相が変わり、鉄分の多い茶褐色の礫層となったので、その時点での河床面とした。ここでの採集遺物を以下に示す。

出土遺物(図19)：常滑甕(1)・平瓦(2・3)

特記事項：1の常滑甕は14世紀中葉に下る。

第9河床面下最終確認区(図20)

岩盤を探查するためにI区においては65cm×1.6mの深掘り坑を入れ、II区においてはさらに25cm×80cmの深掘り坑を入れた。しかし、依然として礫層が続いており、岩盤を確認するには至らなかった。

I区最低面標高：6.75 m II区最低面標高：5.85 m

出土遺物：土師器皿口クロ種小型(1・2)・土器蓋(3)

特記事項：土師器皿1・2は14世紀中葉～後半に属する。この時期も川の中にある。

表採遺物(図21)

竜泉窯青磁稜花鉢(1)・竜泉窯天目型青磁碗(2)・青白磁梅瓶(3)・永楽通宝(4)

第四章 まとめ—調査地点における滑川右岸の変遷について

中世前期の河川右岸については、掘削深度が当該期の層まで及ばず、詳細は不明である。しかし河川内の堆積らしい礫層が下層に続いていることは確認できたので、右岸がそれ以後よりも北寄り(内陸寄り)にあることがうかがえる。遅くとも中世前期までには、調査地点は川の中であった可能性が高い。

中世後期以後、調査地点は川の中となることが確認できた。この状況は近世まで続く。その間に大きくは5時期の変遷があり、さらに細かな河床変化が多数ある。

近世以後当地は畑となる。この時点で大倉南御門一帯の耕作地が広がったことになる。近世層中位に宝永火山灰層が認められるところから、おそらくは近世初期から幕末以後、戦前頃まで畑地であったとみられる。

表1 出土遺物観察表(1)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図6-1	第1河床面	瓦器 火鉢	口径(35.8)cm 輪積み成形 外面口縁部下までヨコナデ、胴部は指頭痕・縦位のハケ目 内面はヨコナデのち斜位のナデ 胎土は灰色で白色粒子を含む良土
2	第1河床面	瓦器 火鉢	口縁部片 輪積み成形 外面口縁部下までヨコナデ、胴部は指頭痕・縦位のハケ目・上部に押印の菊花文 内面ヨコナデ 胎土は灰白色で雲母・黒色粒子・礫を含む
3	第1河床面	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形のちロクロ整形 胎土は灰色で長石・黒色粒子を含む 器表に自然釉が薄くかかる
4	第1河床面	瀬戸 片口鉢	口縁部片 輪積み成形のちロクロ整形 胎土は灰色で長石・黒色粒子を含み、表面に長石が吹き出している 内面に灰緑色、外面に黒褐色の自然釉がかかる
5	第1河床面	平瓦	口径(11.9)cm 底径(10.1)cm 器高3.1cm 胎土は灰白色で礫を多く含む 凸面に斜格子との組合せ文のタタキ 凹面ナデ 永福寺Ⅱ期
6	第1河床面	軒平瓦	口径(12.3)cm 底径(18.1)cm 器高3.1cm 胎土は灰色で白色粒子を含む良土 凸面ナデ 凹面は布目を一部ナデ消している 永福寺Ⅰ期 均正唐草文 折り曲げか顎貼付けか不明
図7-1	第2河床面	弥生土器 甕	口縁部片 輪積み成形 一部ヨコハケナデのちナデ 口縁端部に押捺文 胎土は淡橙色で黒雲母・黒色粒子を含む 宮ノ台式
2	第2河床面	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.6)cm 底径(7.2)cm 器高1.7cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は黄橙色で雲母・黒色粒子を含む良土
3	第2河床面	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.2)cm 底径(9.6)cm 器高2.8cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	第2河床面	土師器Ⅲ T種大型	口縁部片 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は黄橙色で雲母・白色粒子を含む良土 器表面に二次焼成による煤付着
5	第2河床面	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.8)cm 器高1.9cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
6	第2河床面	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.9)cm 底径(4.4)cm 器高2.4cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・強い板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰白色で赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	第2河床面	瓦器 火鉢	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 内面に貫通しない小孔あり 胎土は淡橙色で赤色粒子・白色粒子を含む良土 器表面黒色処理
8	第2河床面	産地不明 片口鉢	口縁部片 輪積み成形 内面ヨコナデ・ナメナデ 口縁部下までヨコナデ 胎土は黄灰白色で長石・礫を含む 常滑Ⅱ類の生焼けあるいはⅡ類を模した在地産の瓦質片口鉢
9	第2河床面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 外面口縁部下までヨコナデ、胴部は指頭痕と縦位のハケ目 内面ヨコナデ 胎土は灰色で長石・礫を含む 口縁～内面に黄灰白色の降灰 外面は黒褐色
10	第2河床面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 胎土は灰色で白色粒子を含む粘性強い良土 器表に黄灰白色の降灰
11	第2河床面	備前 掃鉢	胴部片 回転ヨコナデ 内面に5条以上の櫛目あり 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む粘性強い良土 器表は暗茶褐色
12	第2河床面	東濃型 山茶碗	口縁部片 輪積み成形のちロクロ整形 口縁部シメナデ 胎土は灰色で精良土 口縁頂部～内面に薄く降灰
13	第2河床面	瀬戸 鉢	口縁部片 回転ヨコナデ 胎土は灰白色で白色粒子を含む良土 緑灰白色の灰釉をハケ塗り
14	第2河床面	瀬戸 黒褐釉天目型碗	口縁部片 回転ヨコナデ 胎土は灰色で白色粒子を含む良土 釉薬は鉄釉(黒褐釉)を漬け掛け、口縁部は茶褐色、胴部は黒褐色
15	第2河床面	竜泉窯青磁 貼付牡丹文水指	胴部片 素地は灰白色で精良土 釉薬は青緑灰色で不透明、釉薬厚い 14c前半
16	第2河床面	白磁 口はげ皿	口径(9.5)cm 底径(5.6)cm 器高2.8cm ロクロ成形 外底部回転糸切りのちヘラケズリ 素地は白色で白色粒子を含む精良土 釉薬は乳白色で不透明、釉薬薄い 口縁部釉薬削り取る
図8-17	第2河床面	軒平瓦	遺存長(13.2)cm 遺存幅(16.8)cm 厚2.7cm 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む 凸面縄目・黒色微砂 凹面糸切痕を一部ナデ消し 側面ヘラケズリのちナデ 永福寺Ⅰ期
18	第2河床面	平瓦	遺存長(12.8)cm 遺存幅(10.4)cm 厚1.8cm 胎土は灰色で白色粒子を含む良土 凸面縄目 凹面離れ砂・ナデ 側面・端面ヘラケズリ 永福寺Ⅰ期
19	第2河床面	平瓦	遺存長(10.4)cm 遺存幅(11.7)cm 厚1.8cm 胎土は暗灰色で白色粒子を含む良土、緻密 凸面細目斜格子・離れ砂 凹面に細目斜格子が転写・ナデ・黒色微砂が多く付着 側面ヘラケズリのちナデ 永福寺Ⅰ期
20	第2河床面	平瓦	遺存長(13.5)cm 遺存幅(14.1)cm 厚2.8cm 胎土は灰白色で礫を多く含む 凸面斜格子 凹面ナデ 側面ヘラケズリのちナデ 永福寺Ⅱ期
図9-21	第2河床面	丸瓦	遺存長(11.6)cm 遺存幅(13.0)cm 厚2.9cm 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む 凸面縄目のちナデ 凹面糸切り痕 側面ヘラケズリ 桶巻きの際に巻き合わせた部分を端面にしている 永福寺Ⅱ期
22	第2河床面	滑石 印判	遺存長(9.0)cm 遺存幅(4.5)cm 厚1.0cm 灰色
23	第2河床面	柱状石	長49.1cm 幅17.4cm 厚14.1cm 礎石の折れたものの可能性もある 表面に径数cmの穴が2つあり
図10-1	第3河床面	石製 五輪塔水輪	最大径23.6cm 高16.5cm 花崗岩製
図11-1	第5河床面	弥生土器 甕	口縁部片 輪積み成形 外面斜位ハケ 内面横位ハケ 口縁部にヘラ状工具によるキザミ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子を含む
2	第5河床面	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.8)cm 底径(4.0)cm 器高1.8cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は灰色で雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 器表は橙色

表2 出土遺物観察表(2)

挿入番号	出土遺構	種別	備考
3	第5河床面	土師器皿 T種小型	口径(9.8)cm 底径(4.0)cm 器高1.9cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は黄橙色で雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
4	第5河床面	土師器皿 T種小型	口径(9.8)cm 底径(8.5)cm 器高2.4cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 内底部弱いナデ 胎土は灰色で赤色粒子・海綿骨針を含む 器表は橙色
5	第5河床面	土師器皿 T種大型	口径(13.7)cm 底径(8.2)cm 器高2.6cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
6	第5河床面	土師器皿 R種小型	口径6.0cm 底径4.7cm 器高2.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り・板状圧痕 内底部弱いナデ 胎土は橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	第5河床面	土師器皿 R種小型	口径(7.35)cm 底径(4.35)cm 器高2.3cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・弱い板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
8	第5河床面	土師器皿 R種中型	口径(9.4)cm 底径(7.2)cm 器高1.85cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 磨耗激しく調整不明瞭 胎土は黄橙色で雲母・赤色粒子・黒色粒子を多く含む
9	第5河床面	土師器皿 R種中型	口径(9.3)cm 底径(6.0)cm 器高2.3cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
10	第5河床面	土師器皿 R種中型	口径(10.0)cm 底径(7.0)cm 器高3.7cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で雲母・赤色粒子・海綿骨針・泥岩粒を多く含む
11	第5河床面	土師器皿転用 磨耗片	土師器皿底部を使用 長7.0cm 幅6.0cm 厚1.2cm 外底部板状圧痕 胎土は黄橙色で雲母・赤色粒子・海綿骨針・礫・泥岩粒を多く含む粗土
12	第5河床面	土師器片転用 円盤	土師器片を使用 長2.6cm 幅2.6cm 厚0.5cm 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	第5河床面	尾張 山茶碗系片口鉢	口縁部片 回転ヨコナデ 口縁部内側に沈線 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む
14	第5河床面	尾張型 山茶碗	口縁部片 輪積み成形のちロクロ成形 口縁部シメナデ 胎土は橙色で白色粒子を含む 器表は茶褐色 口縁部～内面に薄く降灰がかかる 常滑産
15	第5河床面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 口縁部下までヨコナデ 口縁部に沈線状のくぼみ 胎土は暗灰色で長石・白色粒子を含む
16	第5河床面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面ヨコナデ 外面口縁部下までヨコナデ、胴部は板状工具による縦位ナデ 胎土は暗灰色で長石・白色粒子を含む 器表は赤茶褐色
17	第5河床面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面は使用により磨耗 外面口縁部下までヨコナデ、胴部は板状工具による縦位ナデ 胎土は暗灰色で白色粒子を含む 器表は赤茶褐色
18	第5河床面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面ヨコナデ 外面口縁部下までヨコナデ、胴部は板状工具による縦位ナデ 胎土は暗灰色で長石・礫を含む 器表は茶褐色
19	第5河床面	常滑片口鉢Ⅱ類 転用磨耗陶片	常滑片口鉢口縁部を使用 口径(9.5)cm 底径(7.5)cm 器高1.2cm 輪積み成形 内面は使用により磨耗 外面口縁部下までヨコナデ、胴部は指頭痕・板状工具による縦位ナデ 胎土は淡橙色で長石を含む
20	第5河床面	常滑片口鉢Ⅱ類 転用磨耗陶片	常滑片口鉢胴部片を使用 長5.5cm 幅4.5cm 厚1.0cm 輪積み成形 外面わずかに磨耗 胎土は淡橙色で長石・礫を含む
21	第5河床面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 内外面ともやや磨耗 胎土は灰色で長石・礫を多く含む、緻密
22	第5河床面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 胴部内面下方に指頭痕あり 口縁部に焼成前になにか当たった痕跡 胎土は灰色で長石・白色粒子・礫を含む
23	第5河床面	常滑 甕	底部片 輪積み成形 ナデ 外面底部からの掻き上げ 底面に離れ砂 胎土は灰色で長石・白色粒子を含む 外面は暗茶褐色 内面に灰緑色の自然釉がかかり、内底面に窯クソ付着
24	第5河床面	常滑甕 転用磨耗陶片	常滑甕胴部片を使用 長9.3cm 幅9.4cm 厚1.6cm 輪積み成形 内面は暗灰色で指頭痕・ナデ 外面は灰緑色の自然釉がかかり、叩き目あり 胎土は灰色、長石を含む
25	第5河床面	備前 播鉢	胴部片 回転ヨコナデ 内面に5条の櫛目 胎土は橙色で長石・白色粒子を含む
26	第5河床面	備前 播鉢	胴部片 回転ヨコナデ 内面に8条の櫛目 胎土は暗灰色、長石・礫を含む
27	第5河床面	瀬戸 卸し皿	底部片 外底部回転糸切り 回転ヨコナデ 胎土は黄灰白色で精良土 二次焼成
28	第5河床面	瀬戸 卸し皿	器高4.5cm 外底部回転糸切り 胎土は黄灰白色で精良土 口縁～胴部中まで灰緑色の灰釉を漬け掛け
29	第5河床面	瀬戸 灰釉皿	口径(10.35)cm 底径(5.4)cm 器高2.3cm 回転ヨコナデ 胴部外面下半回転ヘラケズリ 内底部磨耗 削り出し高台、中央に糸切痕が残る 胎土は灰色の精良土 口縁部に灰緑色の灰釉を漬け掛け
30	第5河床面	瀬戸 黒褐釉天目型碗	口径(12.0)cm 胎土は黄灰白色で精良土 回転ヨコナデ 釉薬は鉄釉(黒褐釉)を漬け掛け、釉の発色は口縁部が茶褐色、胴部は黒褐色
図12-31	第5河床面	瀬戸 灰釉卸し目付き鉢	口縁部片 回転ヨコナデ 胎土は灰白色で精良土 黄灰緑色で透明の灰釉漬け掛け、貫入あり
32	第5河床面	瀬戸 灰釉瓶子	胴部片 外面に押印の梅花文 胎土は灰白色で精良土 灰緑色で透明の灰釉がかかる、貫入あり
33	第5河床面	瀬戸? 黒褐釉瓶子	胴部片 外面に押印の菊花文・二重蓮弁文 胎土は灰白色で良土 釉薬は鉄釉(黒褐釉)の漬け掛け 中国産の可能性あり
34	第5河床面	瀬戸美濃 鉄釉皿	底径(5.0)cm 回転ヨコナデ 外底部回転糸切り 胎土は黄灰白色で良土 灰茶褐色の鉄釉かかる

表3 出土遺物観察表(3)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
35	第5河床面	瀬戸美濃鉄釉播鉢	口縁部片 回転ヨコナデ 胎土は黄灰白色で良土 茶褐色の鉄釉がかかる
36	第5河床面	竜泉窯青磁画花文碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色で精良堅緻 釉薬は灰緑色で透明、貫入あり、釉薬薄い
37	第5河床面	竜泉窯青磁鎗蓮弁文折縁皿	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰白色で精良堅緻 釉薬は青緑色で半透明、気泡あり 14c前半
38	第5河床面	竜泉窯系青磁無文碗	口径(14.0)cm ロクロ成形 素地は灰色で精良堅緻 釉薬は灰緑色で半透明、貫入あり、釉薬厚い 口縁部に油煤付着 この油煤は割れた後に付着した可能性もある
39	第5河床面	平瓦	遺存長(12.6)cm 遺存幅(11.2)cm 厚1.9cm 胎土は暗灰色で白色粒子・礫を含む 凸面に格子 凹面にナデ 鶴岡八幡宮系Ⅱ類Dに近いもの
40	第5河床面	平瓦	遺存長(8.4)cm 遺存幅(9.3)cm 厚2.8cm 胎土は黄灰白色で礫を含む 凸面斜格子 凹面ナデ 側面ヘラケズリのちナデ、目的不明だが刃状工具による切り込み複数あり 永福寺Ⅱ期
41	第5河床面	平瓦	遺存長(10.6)cm 遺存幅(9.7)cm 厚2.4cm 胎土は灰白色で白色粒子を含む良土、緻密 凸面縄目 凹面ナデ 側面ヘラケズリのちナデ 永福寺Ⅰ期
42	第5河床面	平瓦	遺存長(13.7)cm 遺存幅(11.1)cm 厚2.8cm 胎土は灰白色で礫を多く含む 凸面格子 凹面布目・黒色微砂 永福寺Ⅱ期
43	第5河床面	平瓦	遺存長(15.0)cm 遺存幅(15.6)cm 厚2.2cm 胎土は暗灰色で礫を含む 凸面ナデ 凹面ナデ 側面ヘラケズリ 鶴岡八幡宮系Ⅳ類Bに近いもの
図13-44	第5河床面	丸瓦	遺存長(20.3)cm 遺存幅(11.6)cm 厚2.4cm 胎土は橙色で雲母・白色粒子・礫を含む 凸面ナデ 凹面糸切の上に布目 側面ヘラケズリのちナデ 永福寺Ⅰ期
45	第5河床面	滑石温石	遺存長(7.7)cm 遺存幅(6.2)cm 厚2.0cm 灰白色
46	第5河床面	砥石仕上げ砥	遺存長(6.0)cm 幅3.0cm 厚1.0cm 黄灰白色 側面に切出し痕 砥面2面 鳴滝
図14-1	第6河床面	土師器皿 T種小型	口径(9.7)cm 底径(6.0)cm 器高1.7cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は黄灰白色で雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
2	第6河床面	土師器皿 R種小型	口径(5.8)cm 底径(3.4)cm 器高2.0cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で雲母・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
3	第6河床面	土師器皿 R種小型	口径(6.1)cm 底径(4.5)cm 器高1.7cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
4	第6河床面	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.2)cm 器高1.5cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄橙色で雲母・赤色粒子を含む
5	第6河床面	土師器皿 R種中型	口径(9.5)cm 底径(5.8)cm 器高3.1cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
6	第6河床面	土師器皿 R種大型	底径(6.6)cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は黄灰色で雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
7	第6河床面	土師器皿 R種大型	口径(12.25)cm 底径(7.7)cm 器高3.0cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
8	第6河床面	渥美甕	底部片 輪積み成形 内底部ヨコナデ 胎土は灰色で長石・礫を含む
9	第6河床面	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形のち右回転ロクロ整形 貼付高台 胎土は灰色で長石・白色粒子・礫を含む
10	第6河床面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 胎土は暗灰色で白色粒子を含む 口縁部～内面に薄く降灰
11	第6河床面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面ヨコナデ 外面口縁部下までヨコナデ、胴部に指頭痕あり 胎土は灰色で長石・白色粒子を含む 器表は茶褐色
12	第6河床面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面は使用により磨耗 外面口縁部下までヨコナデ 外面胴部に指頭痕あり・板状工具による縦位ナデ 胎土は鈍い橙色で長石・礫・白色粒子を含む
13	第6河床面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面は使用により磨耗 外面口縁部下までヨコナデ 外面胴部に指頭痕あり・板状工具による縦位ナデ 胎土は橙色で長石・礫・白色粒子を含む
14	第6河床面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面ヨコナデ・磨耗 外面口縁部下までヨコナデ 器表は赤褐色 外面胴部に指頭痕あり・板状工具による縦位ナデ 胎土は橙色で礫・白色粒子を含む
15	第6河床面	常滑甕	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 胎土は灰色で長石・白色粒子を含み、表面に長石が吹き出している 縁帯部に暗灰緑色の自然釉がかかる
16	第6河床面	常滑甕	底部片 輪積み成形 底部～胴部に板状工具掻き上げ 内面指頭痕・ナデ 底部離れ砂 外面板状工具による縦位ナデ 胎土は灰色で長石・礫・白色粒子を含む 器表は橙色
17	第6河床面	瀬戸緑釉小皿	口径(12.5)cm 胎土は灰白色で良土 淡灰緑色で透明の灰釉が漬け掛け、貫入あり
18	第6河床面	竜泉窯青磁蓮弁文碗	口径(12.6)cm ロクロ成形 素地は灰色で精良堅緻 釉薬は青灰緑色で不透明、気泡あり 釉薬厚い 14c
19	第6河床面	重圏文軒平瓦	遺存長(10.2)cm 遺存幅(12.8)cm 厚4.5cm 胎土は鈍い赤橙色で赤色粒子・白色粒子・礫を含む 凸面小格子 凹面布目 顎貼付 7c後葉 千葉地遺跡に同様のものあり
20	第6河床面	平瓦	遺存長(9.8)cm 遺存幅(10.7)cm 厚2.3cm 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む 凸面斜め糸切り痕・縄目 凹面離れ砂・ナデ 側面はラケズリのちナデ 永福寺Ⅱ期

表4 出土遺物観察表(4)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
21	第6河床面	平瓦	遺存長(7.4)cm 遺存幅(7.0)cm 厚1.9cm 胎土は灰色で石英・白色粒子・礫を含む 凸面ナデ 凹面ナデ
22	第6河床面	平瓦	遺存長(15.3)cm 遺存幅(13.9)cm 厚2.9cm 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む 凸面斜格子 凹面縄目・ナデ 側面ヘラケズリのちナデ 永福寺Ⅱ期
図15-23	第6河床面	丸瓦	遺存長(13.4)cm 遺存幅(10.2)cm 厚2.0cm 胎土は灰橙白色で黒色微砂・赤色粒子・白色粒子・礫を含む粗土 凸面ナデ 凹面布目 側面ヘラケズリ 永福寺Ⅲ期か
24	第6河床面	滑石鍋	口径(20.2)cm 灰白色
25	第6河床面	不明石製品	長5.0cm 幅2.9cm 厚0.5cm 灰色 工具痕がみられるが産地・用途とも不明
26	第6河床面	石	長20.9cm 幅11.5cm 厚3.4cm 灰色 裏表ともに平坦になっており加工されたものか
図16-1	第7河床面	土師器皿 T種小型	口径(9.9)cm 底径(5.9)cm 器高2.3cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は淡橙色で黒雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
2	第7河床面	土師器皿 R種小型	口径6.8cm 底径4.2cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り・板状圧痕 内底部弱いナデ 胎土は橙色で赤色粒子・海綿骨針を含む
3	第7河床面	土師器皿 R種小型	口径(7.0)cm 底径4.4cm 器高2.1cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色で赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	第7河床面	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(4.4)cm 器高1.9cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・強い板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
5	第7河床面	瓦器 香炉	口縁部片 外面上部に沈線と押印の栴文 器表面磨き・黒色処理 胎土は灰色で白色粒子・黒色粒子を含む
6	第7河床面	常滑 甕	底径(16.0)cm 輪積み成形 外面底部から板状工具による縦位ナデ 内面ヨコナデ 底部離れ砂 胎土は灰色で長石・白色粒子・礫を含む
7	第7河床面	瀬戸 卸し皿	口径(17.4)cm 底径(9.2)cm 器高3.4cm 外底部回転糸切り 外面回転ヨコナデ 胎土は灰白色で白色粒子を含む良土 口縁部～胴部中まで黄灰緑色で透明の灰釉を漬け掛け、貫入あり
8	第7河床面	瀬戸 灰釉碗	口径(13.2)cm 底径(6.0)cm 器高4.8cm 外底部回転糸切り 外面回転ヨコナデ・回転ヘラケズリ 胎土は灰白色で白色粒子を含む良土 灰緑色で透明の灰釉を漬け掛け、貫入あり
9	第7河床面	瀬戸 灰釉香炉	口縁部片 回転ヨコナデ 押印の剣先連弁文 珠文付き 胎土は黄灰白色で白色粒子を含む 灰緑色で透明の灰釉が掛かる、貫入あり
10	第7河床面	砥石 中砥	遺存長(4.0)cm 幅2.8cm 厚1.2cm 黄灰白色 上野産
11	第7河床面	鉄釘	長6.2cm 幅0.6cm 厚0.6cm 重さ10.7g
12	第7河床面	鉄製品 船釘	長12.2cm 幅1.0cm 厚0.5cm 重さ38.8g
13	第8河床面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 回転ヨコナデ 胎土は暗灰色で長石・白色粒子を含む 器表は暗茶褐色、鉄分の吹き出しあり 口縁部に黄灰色の降灰が薄くかかる 広口壺の可能性もある
14	第8河床面	瀬戸 黒褐釉天目型碗	口径(11.7)cm 回転ヨコナデ 胎土は黄灰白色で良土 釉薬は黒褐色の鉄釉(黒褐釉)を内面～外面胴部中まで漬け掛け
15	第8河床面	瀬戸 仏花瓶	口径2.7cm 最少径2.0cm 残器高(2.9)cm 回転ヨコナデ 内面に絞りにあり 胎土は灰白色で良土 黄灰緑色で不透明の灰釉を薄くハケ塗り
16	第8河床面	竜泉窯青磁 鉢	底径(6.4)cm ロクロ成形 内底面に画花文 削り出し高台 高台内側中央部は露胎 素地は灰色で精良堅緻 釉薬は灰緑色で半透明、気泡あり、釉薬薄い 14c
17	第8河床面	青白磁 碗	底径(5.2)cm ロクロ成形 削り出し高台 高台畳付け～高台内側は露胎 素地は白色で精良堅緻 釉薬は青白色で不透明、釉薬薄い
18	第8河床面	平瓦	遺存長(19.6)cm 遺存幅(10.5)cm 厚2.0cm 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む 凸面離れ砂・糸切りのちナデ 凹面布目痕を一部ナデ消す 側面ヘラケズリのちナデ 永福寺Ⅰ期
19	第8河床面	平瓦	遺存長(12.2)cm 遺存幅(11.4)cm 厚2.3cm 胎土は暗灰色、白色粒子を含む良土、緻密 凸面縄目・離れ砂 凹面離れ砂・縄目のちナデ 永福寺Ⅰ期
20	第8河床面	東海系 平瓦	遺存長(8.7)cm 遺存幅(5.8)cm 厚3.1cm 胎土は淡黄橙色で長石・白色粒子を含む 凸・凹面に白色の離れ砂多い 側面はヘラケズリのちナデ 猿投窯八事裏山などに類品あり
図17-1	第3～8河床面	土師器皿 T種小型	口径(9.2)cm 器高1.9cm 手づくね後内底部口縁部ナデ 胎土は灰白色で黒雲母・赤色粒子を含む
2	第3～8河床面	尾張型 山茶碗	口縁部片 輪積み成形のちロクロ整形 口縁部シメナデ 胎土は黄灰色で長石・礫を含む粗土 常滑産
3	第3～8河床面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 回転ヨコナデ 胎土は灰色で白色粒子を含む良土
4	第3～8河床面	竜泉窯青磁 碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 高台内側まで釉薬かかる 素地は灰色で精良堅緻 釉薬は灰緑色で不透明、貫入・気泡あり、釉薬厚い
5	第3～8河床面	高麗青磁 瓶子	胴部片 外面に黒色と白色の象嵌 素地は灰色で精良堅緻 釉薬は灰緑色で半透明、貫入・気泡あり、釉薬厚い
6	第6～8河床面	縄文土器 深鉢	胴部片 輪積み成形 胎土は鈍い橙色で雲母・赤色粒子・白色粒子を含む 外面単節磨り消し縄文 内面は丁寧にナデられている 煤附着 中期、加曾利E

表5 出土遺物観察表(5)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
7	第6～8 河床面	縄文土器 深鉢	胴部片 輪積み成形 外面に条痕文のようなものがあるが摩耗により詳細不明 胎土は淡黄橙色で黒雲母・白色粒子・黒色粒子を多く含む 縄文晩期もしくは、弥生前期
8	第6～8 河床面	土師器 甕	口縁部片 輪積み成形 内外面ともにヨコナデ 胎土は橙白色で赤色粒子・白色粒子を含む良土 古墳時代後期か
9	第6～8 河床面	土師器 甕	口縁部片 輪積み成形 内外面ともにヨコナデ 二次焼成か口縁部～外面に煤附着 胎土は橙白色で黒雲母・白色粒子・黒色粒子を多く含む 古墳時代後期か
10	第6～8 河床面	土師器皿 R種小型	口径(5.8)cm 底径(4.0)cm 器高1.8cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で赤色粒子・白色粒子を含む
11	第6～8 河床面	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.8)cm 器高1.8cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
12	第6～8 河床面	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm 底径7.8cm 器高3.7cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・弱い板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色で雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	第6～8 河床面	土師器皿 R種大型	底径4.3cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色で黒雲母・赤色粒子・黒色粒子・泥岩粒を含む
14	第6～8 河床面	瓦器 火鉢	口縁部片 輪積み成形 回転ヨコナデ 胎土は灰白色で白色粒子を含む 器表は灰色、黒色処理
15	第6～8 河床面	瓦器 製品	口径4.5cm 器高3.6cm 孔径1.0cm 胴部対角線上2箇所に通しないφ0.8cmの穴 胎土は灰白色で白色粒子・黒色粒子を含む 器表は黒色処理
16	第6～8 河床面	東遠型 山皿	口径(8.2)cm 底径4.0cm 器高2.0cm 輪積み成形のちロクロ成形 外底部遅い回転糸切り 内底面に重ね焼き痕 口縁部内側に煤附着 胎土は灰色で精良土 内面に緑色透明の自然釉がかかる
17	第6～8 河床面	常滑 片口鉢Ⅰ類	口径(21.0)cm 底径(12.0)cm 器高7.1cm 輪積み成形のち右回転ロクロ整形 胎土は灰色で長石・礫・白色粒子を含む
18	第6～8 河床面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 内面磨耗 外面口縁部下までヨコナデ 胴部に指頭痕あり 胎土は鈍い橙色で長石・礫・白色粒子を含む
19	第6～8 河床面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 胎土は灰色で長石・白色粒子を含み、表面に長石が吹き出している 器表は茶褐色
20	第6～8 河床面	常滑甕転用 磨耗陶片	長5.4cm 幅5.5cm 厚1.4cm 輪積み成形 胎土は灰色で長石・白色粒子を含む 器表は茶褐色
21	第6～8 河床面	備前 搦鉢	底部片 回転ヨコナデ 外底部磨耗 内面は灰色で磨耗、6条の節目 胎土は鈍い橙色で白色粒子・礫を含む
22	第6～8 河床面	瀬戸 灰釉四耳壺	底径(7.5)cm 胎土は灰白色で精良土 回転ヨコナデ 貼付高台 高台内面は露胎 釉薬は灰緑色で透明の灰釉、貫入あり 畳付けに焼台の一部が付着
23	第6～8 河床面	瀬戸 灰釉碗	口縁部片 回転ヨコナデ 胎土は黄灰色で良土 胴部中まで灰緑白色の灰釉を漬け掛け
24	第6～8 河床面	瀬戸 大平鉢	口縁部片 回転ヨコナデ 胎土は黄灰色で良土 器表は淡灰緑色で不透明の灰釉、表面がざらつき一部白くなっている
25	第6～8 河床面	瀬戸 大平鉢	口径(24.8)cm 回転ヨコナデ 体部外面下半回転ヘラケズリ 胎土は黄灰色で長石を含む良土 胴部中まで灰緑色で半透明の灰釉をハケ塗り、貫入あり
26	第6～8 河床面	瀬戸 灰釉瓶子	底径(12.8)cm 内面ヨコナデ 胎土は灰色で精良土 内底部に緑色で透明の灰釉が掛かる、貫入あり、一部露胎
27	第6～8 河床面	瀬戸 灰釉小皿	口径(10.8)cm 底径(6.0)cm 器高2.0cm 外底部回転糸切り 回転ヨコナデ 胎土は灰色で礫を含む精良土 口縁～内面中まで黄灰緑色で透明の灰釉を漬け掛け、貫入あり
28	第6～8 河床面	瀬戸 灰釉碗	口径(18.0)cm 回転ヨコナデ 外面下半回転ヘラケズリ 胎土は黄灰白色で良土 内面～外面中まで黄灰緑色で半透明の灰釉漬け掛け、貫入あり
29	第6～8 河床面	竜泉窯青磁 鎚蓮弁文碗	底径5.1cm ロクロ成形 削り出し高台 畳付～高台内は露胎 素地は灰色で精良堅緻 釉薬は灰緑色で半透明、気泡あり
30	第6～8 河床面	竜泉窯青磁 無文碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は暗灰色で精良土 釉薬は淡灰緑色不透明、釉薬薄い
31	第6～8 河床面	竜泉窯青磁 瓶	胴部片 素地は灰白色で精良堅緻 釉薬は青灰緑色で透明、気泡あり
32	第6～8 河床面	竜泉窯青磁 鉢	底径(8.0)cm 削り出し高台 高台内側中央部は露胎 素地は暗灰色で精良土 釉薬は暗灰緑色で不透明、貫入・気泡あり、釉薬やや厚い 15c
33	第6～8 河床面	平瓦	遺存長(9.9)cm 遺存幅(13.3)cm 厚2.8cm 胎土は灰白色で礫を多く含む 凸面斜格子・離れ砂 凹面ナデ調整
図18-34	第6～8 河床面	平瓦	遺存長(14.2)cm 遺存幅(15.3)cm 厚1.8cm 胎土は灰色で白色粒子・礫を含む良土 凸面縄目・離れ砂 凹面糸切り痕・離れ砂 側面ナデ
35	第6～8 河床面	砥石 中砥	遺存長(4.5)cm 幅4.0cm 厚4.2cm 淡橙色 層状で気泡が多い 砥面4面 天草産
36	第6～8 河床面	硯	遺存長(6.8)cm 遺存幅(4.5)cm 厚1.3cm 暗灰色 雨畑産
37	第6～8 河床面	石皿	遺存長(14.6)cm 遺存幅(6.5)cm 厚3.8～2.0cm 内面磨耗 外面なだらかに整形されている
図19-1	第9 河床面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 ヨコナデ 器表は赤茶褐色 口縁部に灰緑色の降灰 胎土は灰色で長石・白色粒子を含み、表面に長石が吹き出している

表6 出土遺物観察表(6)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
2	第9河床面	平瓦	遺存長(9.8)cm 遺存幅(9.5)cm 厚1.9cm 胎土は暗灰色で白色粒子を含む良土 凸面糸切り・縄目・離れ砂 凹面糸切り・離れ砂 側面へラケズリ・ナデ
3	第9河床面	平瓦	遺存長(12.0)cm 遺存幅(11.0)cm 厚2.1cm 胎土は灰色で白色粒子を含む良土 凸面縄目・離れ砂 凹面糸切りのちナデ・離れ砂 側面へラケズリ・ナデ
図20-1	第9河床面下 最終確認区	土師器皿 R種小型	口径6.7cm 底径4.5cm 器高2.0cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り・板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色で赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
2	第9河床面下 最終確認区	土師器皿 R種小型	口径(5.7)cm 底径(4.5)cm 器高1.7cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部に穿孔あり 胎土は橙色で赤色粒子・海綿骨針を含む
3	第9河床面下 最終確認区	土器 蓋	径(15.4)cm 高さ3.75cm 回転ヨコナデ つまみと内側の突端は貼り付け 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 器表は橙色 二次焼成か内外面に煤付着
図21-1	表採	竜泉窯青磁 稜花鉢	口径(21.4)cm ロクロ成形のち型押し整形 内面に型押し文 口縁内面が蓮弁 素地は灰白色で精良土 釉薬は青灰緑色で不透明、貫入・気泡あり、施釉厚い
2	表採	竜泉窯 天目型青磁碗	口縁部片 ロクロ成形 口縁端部の釉薬は剥離 素地は灰白色で精良堅緻 釉薬は淡灰緑色不透明、気泡、施釉やや厚い
3	表採	青白磁 梅瓶	胴部片 素地は白色で精良堅緻 釉薬は水青色透明、貫入、施釉薄い
4	表採	永楽通宝	明 1408年 真書

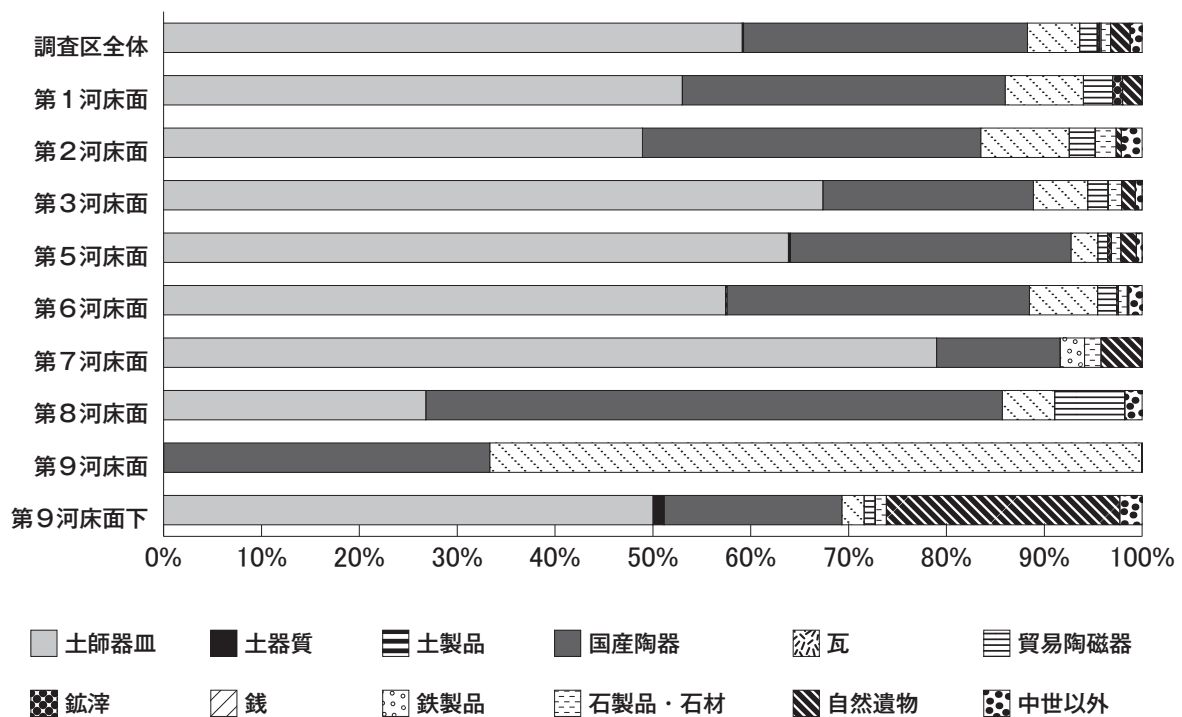
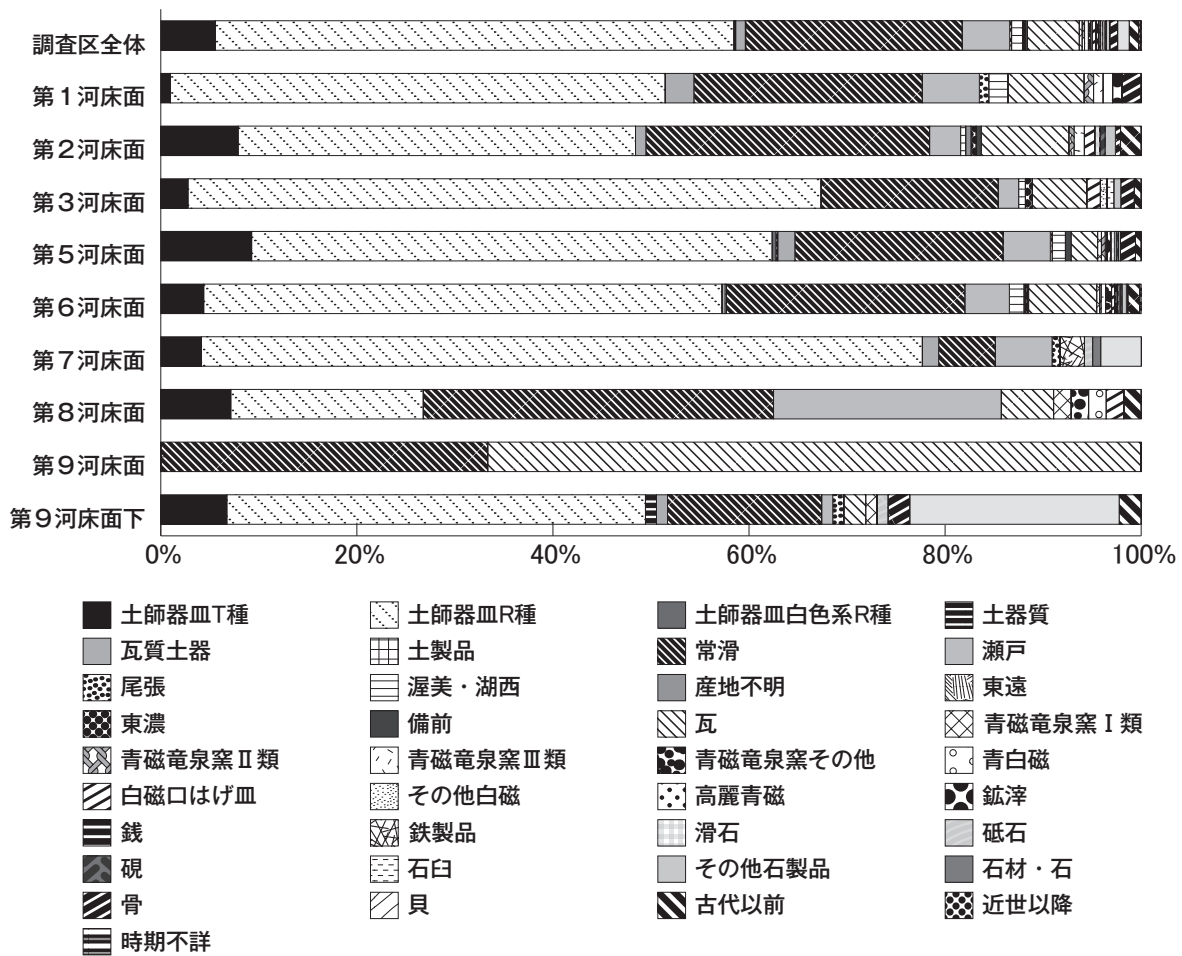
表7 出土遺物計量表(1)

		第1河床面		第2河床面		第3河床面		第5河床面		第6河床面			
古代以前	弥生土器	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	2	0.39%	0	0.00%		
	土師器	0	0.00%	3	1.61%	1	0.68%	1	0.19%	8	1.23%		
土器 (中世)	土師器皿	T種	大	1	0.97%	13	6.99%	4	2.70%	41	7.96%	22	3.39%
			小	0	0.00%	2	1.08%	1	0.68%	7	1.36%	6	0.92%
		R種	大	48	46.60%	73	39.25%	80	54.05%	245	47.57%	316	48.69%
			中	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.58%	1	0.15%
			小	4	3.88%	4	2.15%	13	8.78%	24	4.66%	33	5.08%
			転用品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.39%	0	0.00%
		R種白色系	産地不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%
	大		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.39%	0	0.00%	
	土器質	火鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%	
		蓋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
瓦質土器	火鉢	3	2.91%	2	1.08%	0	0.00%	8	1.55%	1	0.15%		
	香炉	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
	器種不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	1	0.15%		
土製品	羽口	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%		
国産陶器	常滑	壺	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%	
		甕	24	23.30%	51	27.42%	26	17.57%	94	18.25%	139	21.42%	
		片口鉢	I類	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	6	1.17%	5	0.77%
			II類	0	0.00%	2	1.08%	1	0.68%	4	0.78%	11	1.69%
		山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	2	0.39%	1	0.15%	
		鳶口壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
		摩耗陶片(甕転用)	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.39%	0	0.00%	
		磨耗陶片(II類鉢転用)	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	1	0.15%	
		器種不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
		瀬戸	壺類	0	0.00%	0	0.00%	2	1.35%	7	1.36%	3	0.46%
	仏具類		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
	碗類		1	0.97%	2	1.08%	0	0.00%	5	0.97%	5	0.77%	
	皿類		0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	5	0.97%	3	0.46%	
	盤類		1	0.97%	3	1.61%	1	0.68%	7	1.36%	11	1.69%	
	柄付片口		2	1.94%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
	入子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.31%	
	片口鉢		1	0.97%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	搦鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	1	0.15%	
	器種不明		1	0.97%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.46%	
	尾張	山茶碗窯系片口鉢	1	0.97%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%	
	渥美・湖西	壺	1	0.97%	0	0.00%	1	0.68%	1	0.19%	0	0.00%	
		甕	1	0.97%	1	0.54%	0	0.00%	5	0.97%	10	1.54%	
		片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%	
		産地不明	片口鉢	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
	東遠	山皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
	東濃	山茶碗	0	0.00%	1	0.54%	1	0.68%	0	0.00%	1	0.15%	
	備前	搦鉢	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	3	0.58%	1	0.15%	
	瓦	平瓦	7	6.80%	12	6.45%	5	3.38%	12	2.33%	41	6.32%	
		軒平瓦	1	0.97%	1	0.54%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
		丸瓦	0	0.00%	4	2.15%	3	2.03%	2	0.39%	4	0.62%	
貿易陶磁器	青磁竜泉窯(系)	太宰府I類	碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.39%	2	0.31%
		太宰府II類	碗類	1	0.97%	1	0.54%	1	0.68%	2	0.39%	1	0.15%
		太宰府III類	碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%
			盤類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%
		その他	その他	1	0.97%	2	1.08%	0	0.00%	1	0.19%	1	0.15%
			碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%
	青白磁	梅瓶	1	0.97%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
		碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
	白磁	口はげ	0	0.00%	2	1.08%	2	1.35%	0	0.00%	2	0.31%	
		その他	皿	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	0	0.00%
高麗青磁	瓶子	0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	0	0.00%		
鍍滓	鉄滓	1	0.97%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.39%	0	0.00%		
	銅滓	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%		
	中国銅銭	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
石製品	滑石	鉄	釘	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
		鍋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
		印判	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%	
	砥石	加工品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%	
		鳴滝	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%	
		天草	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.15%	
	硯	上野	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
			0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	1	0.19%	1	0.15%	
	石臼		0	0.00%	0	0.00%	1	0.68%	0	0.00%	0	0.00%	
		その他	不明加工品	0	0.00%	1	0.54%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.46%
大型石製品			0	0.00%	1	0.54%	1	0.68%	0	0.00%	0	0.00%	
石・石材	碁石	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.19%	0	0.00%		
	片岩系石材	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%		
自然遺物	骨	骨	2	1.94%	1	0.54%	2	1.35%	8	1.55%	1	0.15%	
		ハマグリ類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		サザエ・アカニシ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		ツメタガイ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		カキ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		ウミナナ類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
近世以降 時期不詳	東海産不明土器	二枚貝	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
		近世土器陶磁器	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	
合計		103	100%	186	100%	148	100%	515	100%	649	100%		

表8 出土遺物計量表(2)

		第7河床面		第8河床面		第9河床面		第9河床面下		総計			
古代以前	弥生土器	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	4	0.20%		
	土師器	0	0.00%	1	1.82%	0	0.00%	1	1.15%	16	0.78%		
土器 (中世)	土師器皿	T種	大	2	1.64%	2	3.64%	0	0.00%	6	6.90%	93	4.55%
			小	3	2.46%	2	3.64%	0	0.00%	0	0.00%	21	1.03%
		R種	大	79	64.75%	9	16.36%	0	0.00%	31	35.63%	970	47.48%
			中	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.20%
			小	10	8.20%	2	3.64%	0	0.00%	7	8.05%	103	5.04%
			転用品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%
		産地不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
	R種白色系	大	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
	土器質	火鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
		蓋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	1	0.05%	
瓦質土器	火鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	16	0.78%		
	香炉	1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%		
	器種不明	1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%		
土製品	羽口	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%		
国産陶器	常滑	壺	0	0.00%	2	3.64%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.20%	
		甗	7	5.74%	15	27.27%	1	33.33%	14	16.09%	404	19.77%	
		片口鉢	I類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	12	0.59%
			II類	0	0.00%	3	5.45%	0	0.00%	0	0.00%	21	1.03%
		山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.20%	
		蔦口壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
		摩耗陶片(甗転用)	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
		磨耗陶片(II類鉢転用)	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
		器種不明	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
		瀬戸	壺類	0	0.00%	1	1.82%	0	0.00%	0	0.00%	15	0.73%
	仏具類		1	0.82%	1	1.82%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%	
	碗類		2	1.64%	5	9.09%	0	0.00%	0	0.00%	22	1.08%	
	皿類		2	1.64%	1	1.82%	0	0.00%	0	0.00%	12	0.59%	
	盤類		2	1.64%	5	9.09%	0	0.00%	0	0.00%	32	1.57%	
	柄付片口		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%	
	入子		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
	片口鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
	搦鉢		0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
	器種不明		1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	7	0.34%	
	尾張	山茶碗窯系片口鉢	1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	4	0.20%	
	渥美・湖西	壺	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%	
		甗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	19	0.93%	
		片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
		産地不明	片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%
	東遠	山皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
	東濃	山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%	
	備前	搦鉢	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.24%	
	瓦	平瓦	0	0.00%	3	5.45%	2	66.67%	1	1.15%	89	4.36%	
		軒平瓦	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%	
		丸瓦	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	16	0.78%	
貿易陶磁器	青磁竜泉窯(系)	太宰府I類	碗類	0	0.00%	1	1.82%	0	0.00%	1	1.15%	6	0.29%
		太宰府II類	碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	5	0.24%
		太宰府III類	碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%
			盤類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%
		その他	その他	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	6	0.29%
			碗類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%
	青白磁	梅瓶	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
		碗	0	0.00%	1	1.82%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
	白磁	口はげ	皿	0	0.00%	1	1.82%	0	0.00%	0	0.00%	7	0.34%
		その他	皿	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%
高麗青磁	瓶子	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%		
鍬滓	鉄滓	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%		
金属製品	銭	中国銅銭	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
	鉄	釘	3	2.46%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%	
石製品	滑石	鍋	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
		印判	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
		加工品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
	砥石	鳴滝	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	2	0.10%	
		天草	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
		上野	1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	
	硯	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.15%		
	石臼	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%		
	その他	不明加工品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.20%	
		大型石製品	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.10%	
石・石材	碁石	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%		
	片岩系石材	1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%		
骨	貝	ハマグリ類	3	2.46%	0	0.00%	0	0.00%	4	4.60%	7	0.34%	
		サザエ・アカニシ	1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	2	0.10%	
		ツメタガイ	1	0.82%	0	0.00%	0	0.00%	1	1.15%	2	0.10%	
		カキ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	2.30%	2	0.10%	
		ウミナナ類	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	3.45%	3	0.15%	
		二枚貝	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	8	9.20%	8	0.39%	
近世以降	近世土器陶磁器	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.20%		
時期不詳	東海産不明土器	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%		
合計		122	100%	55	100%	3	100%	87	100%	2043	100%		

表9 出土遺物計量表(3)





1-1 大御堂橋より調査地点を望む



1-4 I区第2河床面全景(南から)



1-2 県道より調査地点を望む



1-5 I区第2河床面全景(東から)



1-3 調査地点近景



1-6 II区第1河床面軒平瓦(図6-6)出土状況(北東から)

図版2



2-1 I区第3河床面全景(南から)



2-2 I区第3河床面全景(東から)



2-3 I区第3河床面五輪塔水輪(図10-1)
出土状況(東から)



2-4 I区第3河床面五輪塔水輪(図10-1)
出土状況(西から)



2-5 I区第4・第5河床面全景
(南から)



2-6 I区第4・第5河床面全景(東から)



3-1 II区第4・第5河床面(南から)



3-2 II区第5河床面丸瓦(図13-44)出土状況(南から)



3-3 I区第7・第8河床面全景(東から)



3-4 I区第7・第8河床面全景(南から)



3-5 I区第7・第8河床面遺物出土状況(西から)



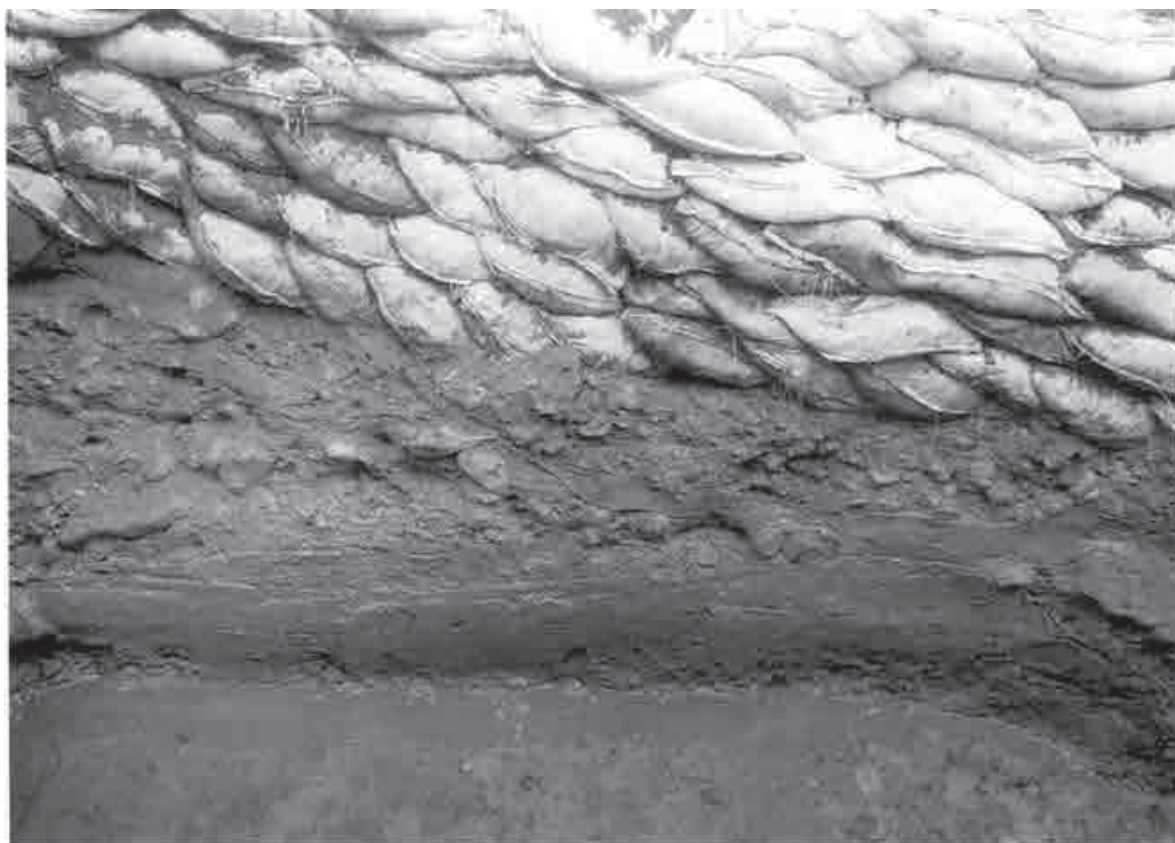
3-6 I区第7・第8河床面土師器皿(図17-8)出土状況(西から)



4-1 I区東壁土层断面



4-2 I区西壁土层断面



5-2 I区西壁土层断面下部



5-2 I区西壁土层断面下部

图版6



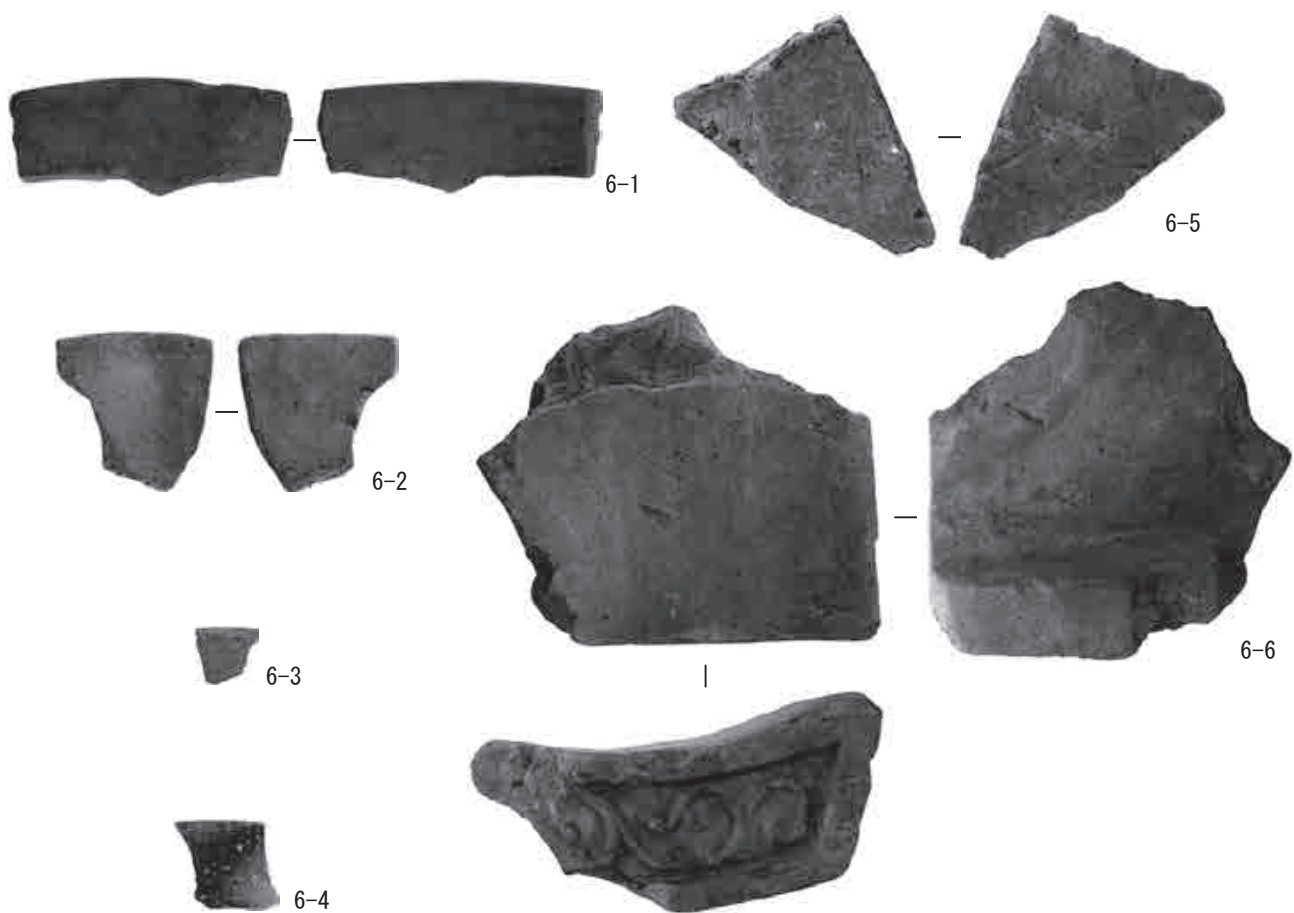
6-1 II区東壁土層断面



6-2 II区西壁土層断面



6-3 II区深掘り坑西壁土層断面



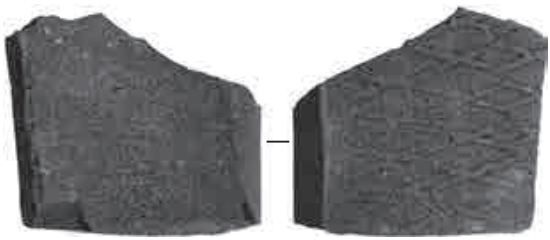
第 1 河床面



8-17

8-18

第 2 河床面
出土遺物 1



8-19



8-20



9-21



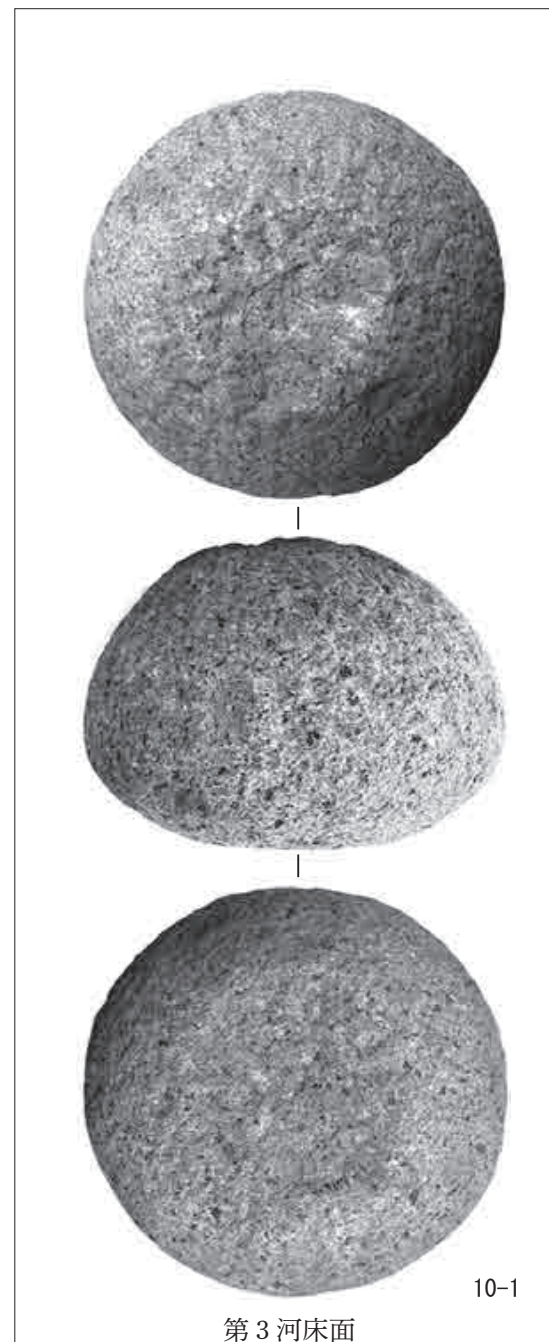
9-22



第 2 河床面

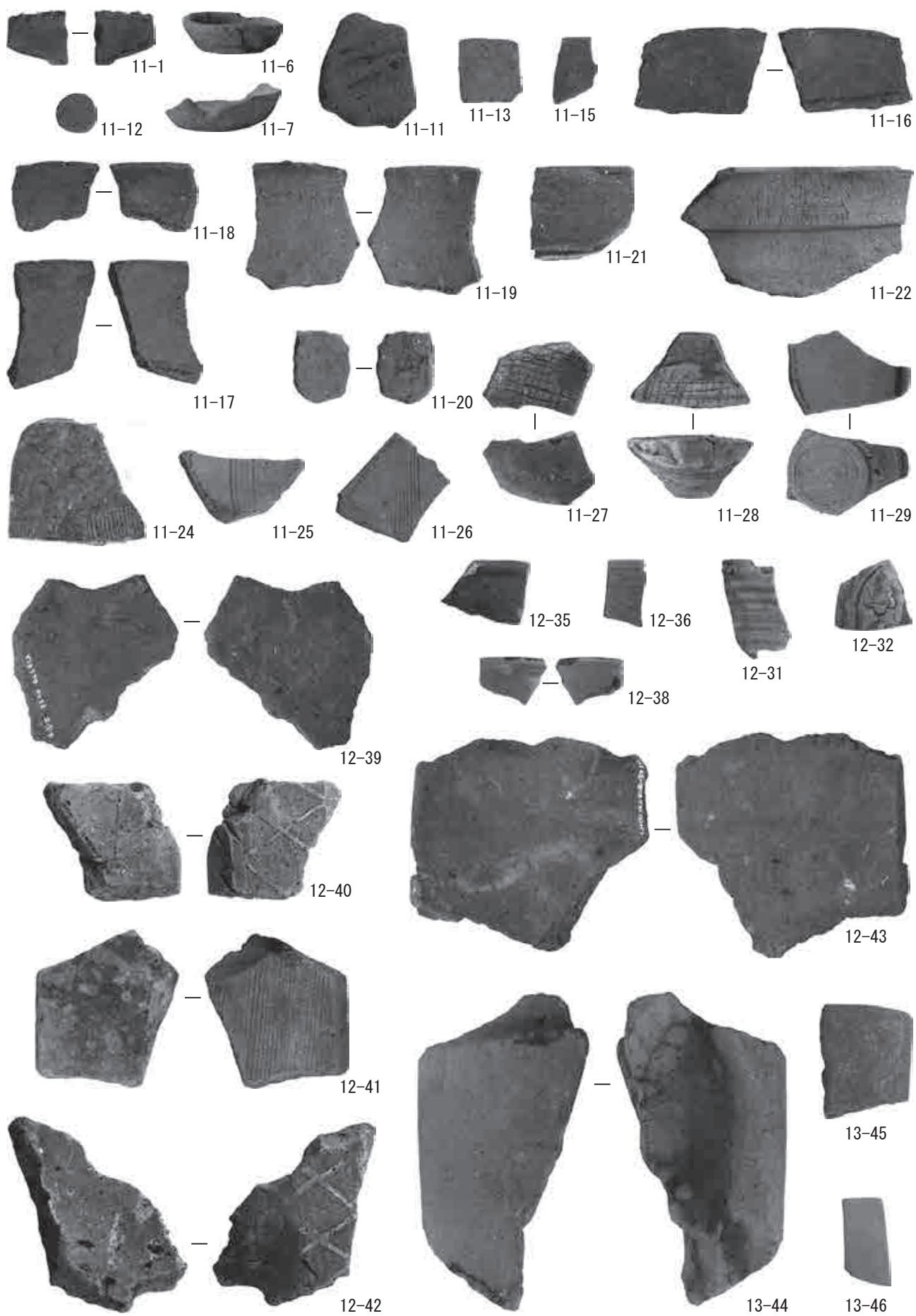
9-23

出土遺物 2



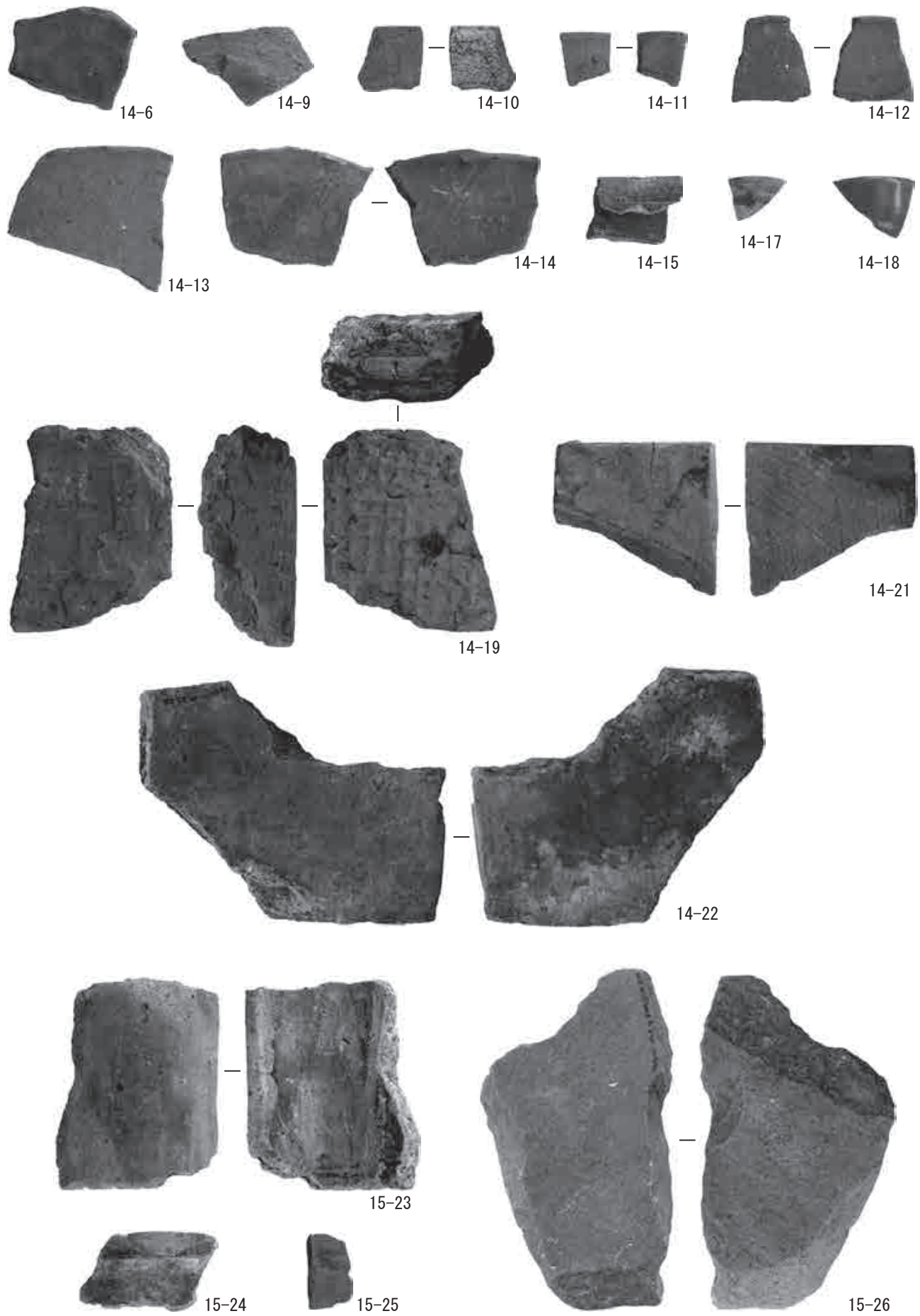
第 3 河床面

10-1



第5河床面
出土遺物3

图版 10



第 6 河床面
出土遺物 4



17-2



17-4

第 3 ~ 8 河床面



17-7



17-13



17-15



17-15



17-16



17-17



17-18



17-19



17-21



17-22



17-23



17-24



17-27



17-29



17-32



17-25



17-31



18-34



18-37

第 6 ~ 8 河床面



21-1



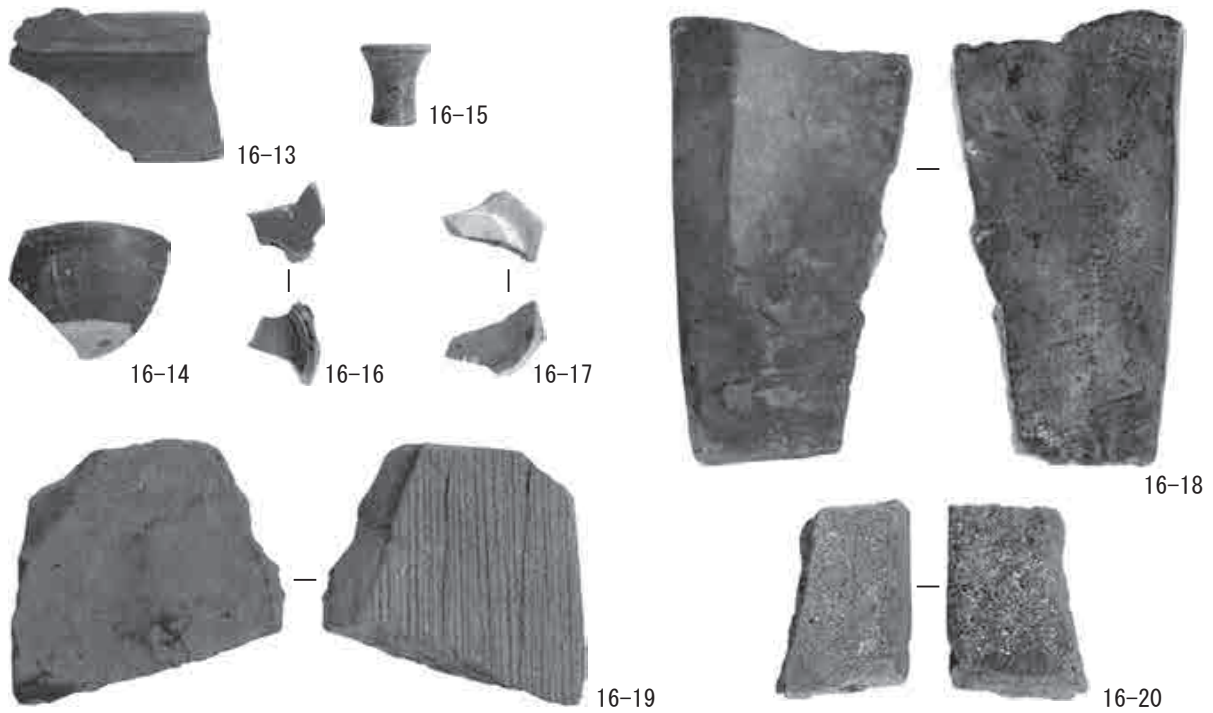
21-3

表採

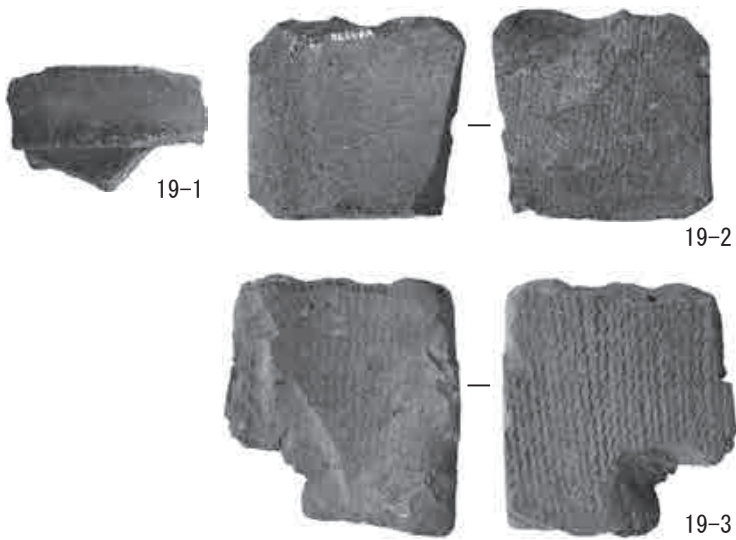
出土遺物 5



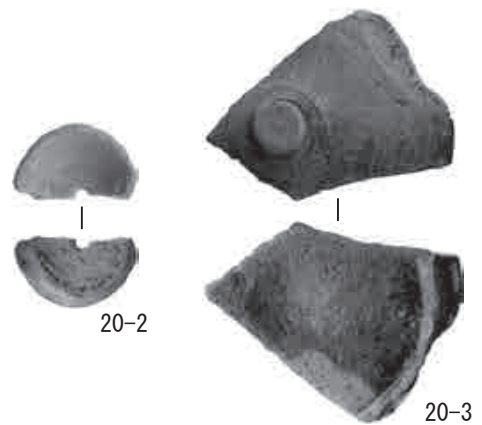
第7河床面



第8河床面



第9河床面



第9河床面下
最終確認区

出土遺物6